明治十五年六月
二十年九ケ月

賭博被告事件ニ付明治十五年六月十六日廣島輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ他ニ用事アリテ溝口市平宅ヘ到リシモ決シテ賭具ヲ弄セシニ非ス只現場ニ居合セタル迄ナリ然ルニ被告等ヲ共犯ナリト公廷ニテ供述シタル溝口市平石井多七ト對質ヲ請求シタレヒ許可セラレスシテ現行犯ト認定シ處斷セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補岡村登作ハ現ニ被告四名ハ公判廷ニ於テ審問ヲ受ケ各自之レカ論辨ヲ爲シタルモノナレハ故ラニ對質ヲ要セスト云ヒ其他上告ノ趣旨ヲ駁論シテ原裁判ハ不當ニ非スト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨ハ事實ノ當否ヲ論難スルト雖モ各證憑ヲ取捨シ事實ヲ判定スルハ事實判官ノ特任スル所ナレハ他ヨリ之ヲ侵スヲ得サルモノトス何トナレハ治罪法第百四十六條第二項ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ依テ上告ノ趣旨相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千四十八號

○判文（私書僞造ノ件）明治十五年十二月廿八日上告
同十六年七月廿日申渡

鹿兒島縣薩摩國日置郡日置
村平民雜業
橋元新藏
明治十五年九月
十九年一ケ月

私書僞造被告事件ニ付明治十五年九月二十日鹿兒島輕罪裁判所カ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補北村精一郎ハ上告セリ其要領ハ被告新藏ハ無實ノ盜難届ヲ差出シタルモノニテ其目的ハ自金ヲ費消シタルヲ以テ養父ノ叱責ヲ逃レン爲メ一ツハ魚網ノ代金返濟ノ義務ヲ延期センカ爲メニ出テタルモ其不實ノ申立ヨリ社會危懼ノ念ヲ生セシメ且官署ノ手數ヲ煩ハスモノナレハ刑法第二百十條第二項ニ依リ罪ヲ問フヘキモノナルニ原判所カ刑法第二條ヲ適用シ無罪ヲ言渡シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人橋元新藏ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第二百十條第二項ニ其餘ノ私書ヲ僞造シ云々トアルハ其權利義務アル餘ノ私書ト本條ヲ指示シタルモノニテ本案新藏ノ被告事實ノ如キニ適當シ得ヘキ法文ニアラサルナリ何トナレハ被告新藏ハ自金ヲ費消シタルヲ以テ養父ノ叱責ヲ逃レ且返金ノ義務ヲ延期センカ爲メ其實ナキ强盜ニ遇ヒタリト警察署ニ對シ申立タルモノニテ其事柄ハ不實ニ涉ルト雖ヒ權利義務ニ關スル私書ヲ僞造セシモノニアラサレハナリ因テ上告ノ趣旨無効ナリトス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千四十九號

○判文（證書變換ノ件、明治十五年十二月十八日上告、同十六年七月廿日申渡）

新潟縣越後國三島郡王番田

村平民農業

池津傳九郎

明治十五年九月

三十年三ケ月

借用證書變換シテ行使シタル被告事件ニ付明治十五年九月二十七日長岡輕罪裁判所カ刑法第二百十條同第二百十二條ニ依リ四月ノ重禁錮ニ處シ七圓ノ罰金ニ所スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ金圓借用證書ノ文字ヲ變換セシハ全ク債主ノ脅迫ニ遇ヒ一時精神錯亂セシ場合ニ係ルノミナラス其變換セシモ爲メニ餘人ニ害ノ生スヘキ理由モアラサレハ無罪タルヿ言ヲ俟タス然ルニ原裁判所カ之ヲ有罪ナリト斷定セシハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人檢事補中原正夫ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判ハ毫モ不當ニ非スト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル所原裁判所カ正當ノ職權ヲ以テ認定セシ事實ニ對シ債主ノ脅迫ニ遇ヒ精神錯亂中ノ所爲ナリト云ヒ且害ノ他人ニ及フヘキナケレハ罪トナラスト云フト雖モ果シテ精神ノ喪失セシモノナリト見ルヘキ事實アルニアラス又其僞造ニ係ル借用證書タルヤ既ニ行使セシハ原裁判所ノ認ムル所ニテ一旦行使セシ上ハ害ノ他人ニ及ハサルトノ理アルヿナシ到底破毀ヲ請求スル原因ナキモノナリトス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十號

○判文（毆打創傷ノ件）明治十五年十二月廿日上告、同十六年七月廿日申渡

京都府上京區第四組伊佐町

住平民織物職

山本玄之丞

明治十五年十月

三十九年

人ヲ毆打創傷シ又ハ巡査ニ抗拒シタル被告事件ニ付明治十五年十月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百一條第三項同第百三十九條同第百條ニ照シ一ノ重キ同第百三十九條ニ擬シ五月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加シタル裁判ニ服セス被告山本玄之丞カ上告爲シタル其要領ハ被告ハ曾テ谷久兵衛安本平七等ト自宅ニ於テ飲酒シ種々雜談ノ末柔術ヲトリ兩三回相組合タルヿアルモ久兵衛ノ頭部ヘ盃ヲ投ケ負傷セシメタルヿ無之ノミナラス巡査ニ對シ暴行以テ抗拒セシヿ毫モ無之然レトモ警察官ノ强制ヲ受ケンヿヲ恐レ事實相違ノ口供ニ拇印セシニ公判々事ハ之ニ偏信シ處刑セラレタルハ不服ナリト云フニアリ由テ本院檢事ノ

意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ上告ノ趣旨ハ事實裁判官ノ判定ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルモノニシテ治罪法第四百十條ニ定メタル以外ノ上告ナルヲ以テ其理由ナキモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ法リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十一號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十一月三十日上告
同　十六年七月廿日申渡

千葉縣安房國安房郡丈石村平民　伊藤仙之助　明治十五年九月二十六年

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月十五日木更津輕罪裁判所カ刑法第三百六十六條及同第三百七十六條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ監視六月ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官カ上告ヲ爲ス其要領ハ被害者カ居宅內雨戶ノ「シンバリ」ヲ爲シ置キタルヲ被告カ押外シ忍入リタルハ鎖鑰ヲ開キ邸宅ニ入タル所爲ナルヲ以テ刑法第三百六十八條ニ擬スヘク又被告ハ犯所ヲ距ル凡三丁位ニテ事主等ニ追跡セラレ盜品ヲ取戻サレタルモノナレハ竊盜未遂犯ヲ以テ論スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ被告ノ陳述ヲ證據ニ採リ以テ雨戶ヲ押明ケ忍入リタルモノヽ如ク認定シ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ不當ノ裁判ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左ノ如シ

原裁判所ノ認定ニ據レハ被告ハ「シンバリ」ノ押外シタルニアラスシテ唯人ナキヲ察知シ雨戶ヲ押明ケ忍入リタルモノナリ然ラハ鎖鑰ヲ開キシモノト云フヲ得ス又事主等ニ追跡セラレ盜品ヲ取戻サレタルモ已ニ竊盜ノ目的即チ物件ノ竊取ヲ遂ケタルコト著明ナレハ其既遂犯タルヤ論ヲ俟タス故ニ原裁判所カ刑法第三百六十六條及同第三百七十六條ニ依リ處斷シタルハ至當ノ裁判ニシテ上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十二號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年七月廿日申渡

熊本縣肥後國山鹿郡蒲生村平民　立山九八　明治十五年十月二十五年九月

右九八カ被告事件ニ付明治十五年十月三十一日山鹿治安裁判所ニ於テ熊本輕罪裁判所ヲ開キ被告カ毆キニ處刑ヲ受ケシ事件ハ再犯ナルニ初犯ヲ以テ論セシハ錯誤トスルモ法律上更ニ之ヲ貼斷スルノ限ニ非ラサルヲ以テ其罪ヲ問ハスト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事代理警部本田素一カ上告シタル要旨ハ再犯加重ノ如キハ罪名ニアラスシテ刑法全編ニ効力ヲ通スルノ總則ナレハ所謂懲戒加重ノ法律ト信ス仍テ刑法第九十二條ニ照シ加重スヘキモ

ノナルニ其罪ヲ問ハスト言渡シタルハ不當ノ裁判ナルニヨリ破毀ヲ需ムト云ニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

凡公訴ヲ爲スノ權ハ確定裁判ヲ以テ消滅スルハ治罪法第九條ニ載テ明瞭タリ然レハ本案被告事件ハ再犯加重ノ例ヲ適用スヘキヲ誤テ初犯ヲ以テ處斷シ既ニ其裁判確定セシ上ハ之ヲ更正スルヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ原裁判官ニ於テ其罪ヲ問ハスト言渡シタルハ不當ノ裁判ニアラストス仍テ治罪法第四百二十七條ニ原キ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十三號

○判文〔窃盜事件豫審ニ對スル件〕明治十五年十二月二日上告
同　十六年七月廿日申渡

大坂府和泉國日根郡筌田村
二十四番地平民農
驚森吉郎與茂
明治十五年九月
四十四年九月

右吉郎與茂カ被告事件ニ付明治十五年九月十八日堺輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結言渡故障ニ就テノ判決ニ對シ明治十五年九月二十二日上告申立ヲ爲シ明治十五年九月廿八日上告趣意書ヲ差出スト雖モ治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シトアルニ違反シ治罪法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シトアルニ依リ本件ノ延期ハ固ヨリ右等ノ場合アルニ非サレハ上告ノ權ヲ失フモノトス仍テ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十四號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十二月廿六日上告
同　十六年七月廿日申渡

福岡縣筑後國御井郡國分村
平民農業
井上艮藏
明治十五年八月
三十四年十一ヶ月

福岡縣筑後國御井郡原古賀
村平民魚類觸賣渡世
山中龜吉
明治十五年八月
二十九年八ヶ月

博奕被告事件ニ付明治十五年八月三十日久留米治安裁判所ニ於テ福岡輕罪裁判所カ博奕ヲナサントスル際巡査ニ取押ヘラレタルヿハ明瞭ナルモ博奕ヲ爲シ居タル證憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部補柴田矯ハ上告セリ其要領ハ被告艮藏龜吉カ博奕罪ノ證憑充分ナラサルニ付無罪但シ骨牌ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡タルモ其沒收ハ附加刑ニ係ルモノニテ本刑ヲ科セス附加刑ヲ科

スヘキ理ナク且骨牌ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ニアラサルニ付刑法第四十三條ニ依リ沒收シタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人井上良藏山本龜吉ハ之ニ答弁セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第四十三條ハ附加刑ノ一ツニテ其第一項法律ニ於テ禁制シタル物件トアル如キ人民ノ所有シ得ヘカラサル物件ハ沒收スヘキ論ヲ俟タサルモ刑法上其主刑ヲ科セス特リ沒收ノ附加刑ノミ科スヘキノ道理アルヿナシ然ルヲ原裁判所ハ良藏龜吉ノ博奕事件ハ證憑充分ナラサルヲ以テ無罪ト判定シ之ニ附加スル沒收ノ刑ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百三十一條ニ依リ沒收ヲ言渡タル附加刑ノ一部分ヲ破毀シ之ヲ取消ス者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十五號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年七月廿日申渡

愛媛縣伊豫國越知郡室屋町
平民
近藤重吉
明治十五年十月
三十三年五ヶ月

賭博被告事件ニ付明治十五年十月十八日西條治安裁判所ニ開ク松山輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮六十日ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ被告カ白石駒吉方ヘ到リシハ同人ノ妻「トヨ」ニ質使ヲ托セシ爲メニシテ該家ニ在リシ雙六等ハ素ヨリ存セス殊ニ表戸口ハ明ケ放シアリテ隱私ノ所爲ヲ得ヘキニ非サレハ原裁判ハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事代理警部武司重淵ハ右上告ノ不理ナルヲ逐一辨駁シテ原裁判ハ至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ徒ラニ事實ノ有無ヲ論難スルト雖モ各証憑ニ據リ事實ヲ判定スルハ事實判官ノ職權ニシテ他ヨリ漫リニ之ヲ侵スヲ得ス何トナレハ治罪法第百四十六條第二項ニ被告ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ依テ上告ノ趣旨相立タストス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十六號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月十九日上告
同　十六年七月廿日申渡

長野縣信濃國西筑摩郡王滝
村平民農業

池本増吉　明治十五年十月　二十六年九ヶ月

官林盜伐被告事件ニ付明治十五年十月三十日福島治安裁判所ニ開ク松本輕罪裁判所カ刑法第三百七十二條第三百七十三條ニ依リ仍ホ自首シテ贓物ノ全部ヲ還償シタルニ付同法第八十五條第八十六條ニ照シ三等ヲ減シ拘留七日ニ處シ六月ノ監視ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ官沒スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官小澤和一郎カ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ犯罪ハ素ト刑法第三百七十二三兩條ニ照シ處斷スヘキモノナルモ自首シテ贓物ノ全部ヲ還償セシニヨリ同法第八十五六兩條ニ據リ減輕シテ七日ノ拘留ニ處斷シタルハ當然ナリト雖モ同第三百七十六條ヲ適用シ監視ニ付シタルハ擬律ノ錯誤ナリト思惟スルニヨリ該裁判監視ニ付シタル部分ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人池本増吉ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

原裁判所カ被告池本増吉ニ對シ刑法第三百七十二三兩條ニ依リ仍ホ減輕シテ拘留七日ノ刑ニ處シナカラ同第三百七十六條ノ監視ヲ附加セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス何ントナレハ刑法第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアリ今被告増吉ニ言渡シタル刑ハ輕罪ノ刑ニアラスシテ違警罪ノ刑ナレハナリ因テ治罪法第四百三十一條ニ依リ被告増吉ニ言渡シタル六月ノ監視ヲ付ストアル一部分ヲ破毀シ之ヲ取消スモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十七號

○判文〔郵便犯則ノ件〕明治十五年十二月廿三日上告　同十六年七月廿日申渡

徳島縣阿波國鹿植郡上浦村　平民農業　伊音萬平　明治十五年十月　四十七年十一ヶ月

郵便犯則被告事件ニ付明治十五年十月十八日脇町治安裁判所ニ於テ徳島輕罪裁判所カ同罰則第二十二條ニ依リ十圓ノ罰金ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ朝倉鬼翁ヨリ郵送セシ信書ハ到達遷延セシニ因リ脚夫ヘ差戻シタリ氏不詳常藏ヨリ郵送セシ端書ハ不在中配達シ來リタル由後日ニ至リ傳聞シタルモノニテ信書ヲ領收セザルヿ明カナレハ鳴島郵便局ヨリ五度ノ督促ヲ受ルノ理ナシ又朝倉鬼翁ヨリ郵便犯罪ノ證憑アラサルニ原裁判所カ郵便犯罪罰則第二十二條ヲ適用シタルハ事實ニモノニテ犯罪ノ證憑アラサルニ原裁判所カ郵便犯罪罰則第二十二條ヲ適用シタルハ事實ニ齟齬セシ裁判ナリト云フニアリ

對手人檢察官警部中村允長ハ上告ノ謂レナキヲ辯駁シ原裁判充當ナリトノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證憑ニ照シ心證ヲ資リ認定セシ事實ニ對シ採證ノ當否ヲ論難スルト雖モ破毀ヲ求ムル原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第百四十六條ニ被

告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ原裁判所カ特任スル權內ニアレハナリ因テ上告ノ趣意相立タス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十八號

○判文〔官吏職務妨害ノ件〕明治十五年十二月八日上告
同　十六年七月廿一日申渡

岩手縣陸中國磐井郡中里村
平民農業
佐藤佐藏
明治十五年九月
四十二年

明治十五年九月廿八日磐井輕罪裁判所ニ於テ右佐藤佐藏ハ巡査秋葉孝三ニ對シ建家立退ノ裁判執行ヲ受ルニ當リ暴行ヲ以テ差拒ミタル者トシ刑法第百三十九條ニ依リ重禁錮五月ニ處シ罰金十圓ヲ附加ストノ裁判言渡ヲ爲シタリ佐藤佐藏ハ之ヲ不當ノ裁判ナリトシ上告ヲ爲スノ要旨ハ建家立退裁判ノ執行ヲ受ルニ當リ暴行ヲ以テ巡査ニ抗拒シタル事實ナキニ刑法第百三十九條ニ依リ處斷セラレタルハ不服ナリ又建家立退ノ裁判モ不當ナルニ付併テ破毀アランコトヲ求ムト云フニアリ磐井輕罪裁判所檢事補福嶋小太郎カ答辨ノ旨趣ハ上告云フ處ハ無證ノ陳述ニ屬シ更ニ辨明ヲ要スル所ナシ而テ巡査秋葉孝三外二名カ民事裁判執行乃チ被告人カ現住セル家屋ヲ立退カシムル爲メ出張シ其旨ヲ言ヒ聞ケ且懇篤說諭スルモ被告人ハ頑然之ニ應セサリシノミナラス火ヲ焚キ明ヲ取ル爲メ携ヘ行キシ薪ヲ屋外ニ投出シタリシコトハ出張巡査ノ復命書及ヒ開申書ニ明瞭ナリ豈ニ之ヲ巡査カ其職務ヲ行フニ際シ暴行ヲ以テ妨害シタリト謂ハサル可ンヤ故ニ本案ハ上告ノ理由ナキ者ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

原一件書類ヲ查閱スルニ上告人即チ被告人カ建家立退裁判ノ執行ヲ受ルニ當リ暴行ヲ以テ巡査ニ抗拒シタル事實ハ原檢察官カ答辨旨趣ノ如ク出張巡査ノ復命書及ヒ開申書等ニ於テ明瞭ナリ故ニ原裁判所カ刑法第百三十九條ノ罪ヲ犯シタル者ト判定シ同條ニ依リ處斷シタルハ相當ノ裁判ニシテ破毀ノ原由ナキモノトス

又建家立退ノ裁判ハ純然タル民事ノ裁判ニシテ本件ニ關係ナキモノナレハ是亦上告ノ理由ナキモノトス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千五十九號

○判文〔銃獵犯則ノ件〕明治十六年六月七日上告
同十六年七月廿一日申渡

函館縣函館區若松町六拾番
地平民獵師
佐々木平七
明治十五年五月
二十三歲
百八十七

明治十六年五月十七日函館輕罪裁判所ニ於テ右平七カ被告事件ヲ審理シ刑法第五條及ヒ明治十年第十一號布告鳥獸獵規則第十條第十七條第十四條第十五條ニ依リ罰金拾圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補笹沼金次郎ハ上告セリ其要旨ハ被告人カ犯則ノ用ニ供シタル獵銃幷ニ火藥ハ刑法第五條第二項同第四十三條ニ依リ沒收スヘキ者ナルニ其沒收ノ言渡ヲ爲サヽルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本案犯則事件ノ如キハ其故意ニ出ルト過誤ニ因ルトニ拘ハラス徒タ其定規ニ違背スレハ卽チ罰スル者ニシテ其使用セシ器械ノ如キハ彼ノ故ラニ其物ノ効用ニ依賴シテ犯罪ヲ幇助シタル類ト其性質同シカラサルヲ以テ刑法第四十三條第二項犯罪ノ用ニ供シタル物件トアルニ該當ス可キ者ニ非ストス故ニ原裁判所ニ於テ沒收ノ處分ヲ爲サヽリシハ允當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年七月廿一日申渡
山形縣羽前國東田川郡木川
村平民長助長男
高橋長藏

右高橋長藏ハ詐欺取財被告事件ニ付明治十五年八月七日酒田輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ重禁錮八月罰金四圓監視六月ノ刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判官ハ被告人ヲ以テ渡會元藏ヲ欺罔シ公正證書ヲ取消サシメタリト認定セラレシモ被告人ニ於テ詐欺不正ノ所爲アルニ非ス鶴岡警察署ノ口供ハ當該官ノ壓制ニ成立タルモノニシテ眞實ノ白狀ニ非ス且元藏カ公正証書ハ債主ヲ害セントスル惡計ニ出タル不正ノ文書ナレハ假ニ被告カ詐欺シテ其證書ヲ取消サシメタルモノトスルモ其犯罪ハ酌量減輕ノ處分ヲ受ク可キ者ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告事件ニ對シ證憑ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ決スルハ事實裁判官ノ判定ニ任從ス可キ者ナレハ事實判定ノ當否ヲ論告スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヿヲ得サルモノトス本件上告ノ如キハ專ラ事實ノ有無ヲ陳辨シ徒ニ裁判官ノ認定上ニ對シ不服ノ旨ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スヿヲ得ルノ塲合ニ於テ一モ適當スル者アルニ非ス依テ同第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十一號

○判文〔僞證ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年七月廿一日申渡
岡山縣備前國和氣郡吉田村

三百八十六番屋敷居住平民
井上精三郎
明治十五年七月
三十三年八月
同縣同國同郡同村三百五十
六番屋敷居住平民
砂子庄次郎
明治十五年七月
四十年八月

右井上精三郎砂子庄次郎カ被告事件ニ對シ明治十五年七月三十一日岡山輕罪裁判所ニ於テ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項明治十四年第八十一號公布ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ精三郎ハ投票僞造ノ罪輕キ刑法第二百十條第二項ヲ適用シ一月二十日ノ重禁錮ニ處シ庄次郎ハ投票僞造及ヒ官林盜伐賍金百二十圓ノ罪並ニ輕キ刑法第二百十條第二項及ヒ刑法第三百七十三條ヲ適用シ二罪俱發例ニ照シ情狀重キ刑法第二百十條第二項ニ從ヒ一年ノ重禁錮ニ處ストノ裁判言渡ヲ爲シタリ精三郎及ヒ庄次郎ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタリ精三郎カ要旨ハ被告ハ山林局出張所ノ命令ニ遵ヒ投票ヲ取纏メタルノミニシテ投票ヲ僞造スルカ如キハ何等ノ利益モナク又落札ノ方便ニモ成ラサルヿナレハ斯ノ如キ有勞無効ノ所行ヲ爲サス原裁判所ニ於テ被告カ有罪ノ證憑トセラルヽ所ノモノハ曾テ被告ニ私怨アル岸本鐵三郎及ヒ其黨與ノ庵構ニ出テタルモノニシテ被告カ犯罪ノ證憑ト爲スヘキモノニ非ス仮リニ僞造ノ所爲アリトスルモ其僞造ニ依テ佗眞實ノ投票ニ影響ヲ及ホサス又名ヲ假ラル者及ヒ被害者即チ山林局ニ於テ毫モ利害ノ關係ナシ要スルニ被告カ所爲ハ法律上罰セラルヘキ正條ナケレハ刑法第二條ニ依テ無罪トセラルヘキ者ナリト謂フニ外ナラス

庄次郎カ要旨ハ原裁判所ハ盜伐木估計金百二十圓トシタレトモ實價ハ三十圓ヲ超過セス故ニ舊法ニ依リ懲役一百日ニ處セラルヘクシテ刑法ニ依リ一年ノ重禁錮ニ處セラルヘキ者ニ非ス假リニ估計金百二十圓ト爲スモ投票爲造ノ罪ハ輕キ舊法ニ從ヒ官林盜伐ノ罪ハ輕キ新法ニ從フヘシ而テ被告ハ未發前自首シタルヲ以テ舊法自首律ニ照シ放免セラルヘキニ刑法第二百十條第二項ヲ適用シ重禁錮一年ニ處シタルハ擬律ヲ錯誤シタリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ被告等カ論告ノ要點ハ或ハ事實ノ判定ヲ非難シ或ハ法律ヲ誤解スルヨリ自己ノ推測論ヲ吐ク者ニ過キサレハ上告ノ旨趣相立タス棄却アランヿヲ希望スト謂フニ在リ依テ判決ヲ爲スヿ左ノ如シ

井上精三郎ハ投票ヲ僞造シタル者ニ非ス假リニ僞造シタル者トスルモ佗ノ利害ニ關係セサレハ法律上無罪タルヘキ者ナリトノ論告ナレトモ高原治吉岸本鉄三郎等ノ證言ヲ査閲スルニ「右ノ段々後ニテ井上精三郎砂子庄次郎有吉四郎治等ニ相尋候處云々精三郎ハ投票ノ儀ニ付不都合ノ廉段々有之候ニ付云々何卒内濟相成候樣致シ呉レトノ事ニ付」トアリ又「巡査ヨリ金員返濟ノ儀精三郎ニ申聞ケタル處夫レテハ再發サスル積ナリトテ云々」トアリ且内濟ヲ爲サン爲メ森安武四郎ニ金員ヲ遺リタルヿハ被告庄次郎有吉四郎治其佗德永好吾等ノ證明スル處ナリ是ニ由テ之ヲ視レハ精三郎ハ治吉等ヨリ僞造等ノ顚末ヲ尋チラレ其事ノ發露シ罪禍ノ身ニ及ハンヿヲ恐レ窃ニ其事情ヲ打明カシ罪跡ヲ湮滅センヿ

ヲ希圖シタル者ニシテ投票僞造ノ事實及ヒ證憑ハ既ニ顯然ナリトス故ニ原裁判所カ右ノ事實及ヒ證憑ヲ確認シテ之ニ適用スルニ刑法第二百十條第二項ノ刑ヲ以テシタルハ擬律ヲ錯誤シタルモノニ非ス其他岸本鉄三郎等ノ證言ハ虛構ニ出テタルモノナリト謂フカ如キハ是レ事實及ヒ採證ノ當否ヲ非難スルニ外ナラスシテ擬律ノ錯誤アルヲ見ス

砂子庄次郎カ第一ニ論告スル處ハ盜伐木ノ實價三十圓ヲ超過セスト謂フニ在レ𪜈山林局出張所ノ估計書ヲ閲スルニ貳百拾八圓八拾壹錢トアリ又該局ノ告發書ヲ閲スルニ盜伐木數千八百四十本トアリ其佗有吉安太郎等カ證言ニ依ルモ其木數ノ夥多ニシテ庄次郎カ自白スルカ如僅々四十本ニ止マラサルナリ是ニ由テ之ヲ視レハ其實價三十圓ヲ超過セストノ陳辯ハ庄次郎カ私己ノ憶筭ニ過キスシテ原裁判所カ百貳拾圓ト估計シタルハ決ノ過實ト謂フヘカラス又僞造ノ罪ハ輕キ舊法ニ從ヒ官林盜伐ノ罪ハ輕キ新法ニ從フヘキ云々論告スレ𪜈是レ法律ヲ誤解シタルモノナリト謂ハサルヘカラス抑モ庄次郎カ處犯ハ新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項明治十四年第八十一號布告第二條及ヒ第六條第十條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スレハ投票僞造及ヒ官林盜伐ノ罪總テ新法ヲ以テ輕シトス故ニ輕キ新法ニ從ヘハ二罪並ニ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル仍テ刑法第百條ニ照スニ其第三條ニ輕罪ノ刑ハ其處犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ストアリ法律上私文書僞造ノ罪ハ山林ト爲ス故ニ原裁判所カ罰金及ヒ監視ヲ附加セス單ニ其重キ刑法第二百十條第二項ノ刑ヲ適用シタルハ是レ擬律ノ錯誤ト謂フヘカラス又自首ハ發覺前爲シタル云々論告スレ𪜈訴訟書類ヲ査スルニ檢察官ノ告發ヲ受理シタルハ明治十五年五月廿九日トアリ庄次郎カ自首狀ヲ提出シタルハ同年六月五日ニシテ事官ニ發覺シタルノ後ニ在ルヲ以テ自首ノ効ナキモノナリ要スルニ原裁判所カ被告等ニ對シ爲シタル裁判ハ一モ其法規ニ背反スル廉アルヲ見ス故ニ本案上告ハ其原由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十二號

○判文〔謀殺ノ件〕明治十六年五月三十日上告
同十六年七月廿三日申渡

京都府下京第二十五區塗師屋町平民旅籠屋業
國友太三郎
明治十六年五月
二十九年六月

右太三郎カ被告事件ニ付明治十六年五月十四日大津輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結言渡故障ノ判決ニ對シ被告上告ノ原因ハ最初大津輕罪裁判所豫審係ニ於テ被告ハ明治十五年十二月八日近江國滋賀郡下阪本村唐崎ニ於テ饗庭作右衛門ノ金品ヲ强奪シ同人ヲ死ニ致シタル者ト認定セラレ滋賀重罪裁判所ニ移サレタル豫審終結言渡ノ故障ニ對シ大津輕罪裁判所會議局カ豫審終結言渡ヲ認可セラレ被告カ前記作右衛門ノ金品ヲ强奪シ又ハ同人ヲ死ニ致シタル證據ナキ旨ノ故障申立テ棄却セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案被告カ上告旨趣ノ歸着スル所ハ大津輕罪裁判所會議局カ被告事件ハ重罪事件ト判定シタル採證事實ノ如何ヲ徒ラニ論難スルモ諸般ノ徵憑ニ依リ犯罪ノ事實ヲ認定スルハ專ラ裁判官ノ權內ニ在リ故ニ被告ニ於テ其權內ニ侵入シ之ヲ喋々スルヲ得ス況ヤ本案書類ヲ審閱スルニ同裁判所會議局カ事實認定上不當ノ廉ナキニ於テオヤ仍テ該上告ハ其理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十三號

○判文（謀殺養父母ノ件）明治十六年六月十九日上告
同　十六年七月廿三日申渡

神奈川縣武藏國橘樹郡小田村十九番地平民農業
會田佐十郎
明治十六年六月二十八歳六月

養父母ヲ謀殺シタル被告事件ニ付明治十六年六月四日神奈川重罪裁判所ニ於テ會田佐十郎カ所爲ヲ審理シ被告人ハ養父母カ每ニ酒ヲ嗜ミ己ヲ嘲罵叱責スルノ嚴ナルヲ遺憾ニ思ヒ居タル處明治十六年三月三日亦甚タ罵辱セラレ是ニ於テ遂ニ養父母ヲ殺サント決心シ實家八木下濱吉所藏ノ脇差ヲ窃カニ持出シ之ヲ匿シ置キ其翌三月四日午前一時右脇差ヲ携ヘ養家ノ裏口ヨリ忍ヒ入先ツ養母「カヲ」ヲ斬殺シ續テ養父清五郎ニ數ケ所ノ重傷ヲ負ハセ爲メニ死ニ致シタル罪證明白ナリト判定シ刑法第百十五條同第三百六十二條ニ該當スルニ因リ死刑ニ處スト言渡タリ

被告會田佐十郎ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタルノ趣旨ハ本年三月四日午後十時頃養父母等口ヲ極メテ自分ヲ罵リ親不孝ノ者ニ付切殺スモ差構ナシト言ナカラ庖丁ヲ以テ打掛リ自分頭部ニ二ケ所負傷セシニ付其庖丁ヲ捻取リ之ヲ携ヘ居タル處養父清五郎養母「カヲ」俱々ヨロメキ來テ其庖丁ニ觸レ即死又ハ致命傷ニ至リタル者ナレハ決テ殺害シタルニ非スト陳辨セリ對手人檢事渥美友成ハ上告ノ趣旨ハ前供ヲ反異シ徒ニ其刑ヲ免レント謀ル窮策ニ過キスシテ法律ニ定メタル上告ノ原由ト爲ス可ラス其謀殺ノ事實ハ衆證ニ由テ瞭然タレハ本件上告ハ當然棄却アル可キ者ト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百廿一條及ヒ第四百廿五條ノ成規ニ原キ院長ノ選任シタル代言人太田信光ノ辨論ヲ聽クニ被告人ノ性質温順ナルヿハ近隣擧テ稱揚スル處ニメ明治十三年會田清五郎カ養子ト爲リタル以來拮据勉强シ其勞力ヲ以テ養父母ヲ奉養シ實ニ孝子ト稱スヘキ者ニメ何ソ殺意ヲ生スル如キ者ナランヤ然ルニ其爰ニ至リタルハ或ハ父母醉魔ノ致ス處ナラン歟是レ上告趣意ノ盡ス處ナレハ今其趣意ヲ擴張シ破毀ヲ求ントスルノ要點アリ曰ク刑法第三百六十二條ニハ子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ストアリ原裁判言渡ハ被告人ノ所爲ニ對シ刑法第百十五條同第三百六十二條ニ該當ストノミアリテ其謀殺ナリヤ故殺ナリヤヲ判定セス或ハ說ヲ爲ス者アラン其結果同シケレハ刑ニ影響ナシト然ヒ法律ハ其結果ノミニ依據ス可ラサル者アサ治罪法第四百十條第九ニ定メタル法律ノ理由ヲ付セサル時トアル是也因テ充分上告ノ原由アリト信スト檢事池上三郎ハ上告趣意及擴張論

旨ノ不當ナル理由ヲ辨明シ法ニ依リ棄却ノ言渡アル可ト陳述セリ仍テ判決スルヿ左ノ如シ

謀殺ノ罪ハ三個ノ原因アリテ成立ツ者ナリ曰ク犯罪ノ決心其豫備及ヒ着手是レナリ本件被告人カ爲ス處ハ原裁判言渡書ニ列擧シタル如ク已ニ養父母ヲ殺サント決心シ豫メ竇家所藏ノ脇差ヲ取出シ而シテ養父母ヲ殺害シタル者ナレハ即チ謀殺ノ所爲タルヿ判然ナリトス此事實ニ對シテハ上告人カ口頭無證ノ陳辯ヲ以テ動カス可ラサル者ナレハ固ヨリ上告ノ理由ナキ者トス而シテ代言人カ論告スル處原裁判所ハ刑法第三百六十二條ニ該當ストノミ揭ケ謀殺ナリヤ故殺ナリヤヲ明示セスト云フト雖モ其結果ハ等シク死刑ナルノミナラス前ニ辯明スル如ク被告人ノ所爲ハ全ク謀殺ノ罪成立タル者ニシテ其理由ハ裁判書ニ之ヲ證明シタリ事實已ニ謀殺ト判定シタル以上刑法第三百六十二條ヲ適用シ單ニ死刑ト言渡シタルハ敢テ不當ト言フヲ得サル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十四號

○判文(囚徒逃走ノ件)明治十五年十一月九日上告
同 十六年七月廿三日申渡

愛知縣尾張國中島郡戸苅村平民已決囚
加藤銀右衛門
明治十五年六月
三十四年九月

明治十五年六月十三日岐阜輕罪裁判所ニ於テ右銀右衛門カ被告事件ニ對シ其懲役五年ノ處刑中外役先ヨリ逃走セシ所爲ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ改定律例第三百條ニ照シ處斷スヘキモノニシテ該リ新法ニテハ刑法第百四十二條ニ依リ處斷スヘキモノニシテ便チ新法ヲ輕シトス又明治十五年五月三十一日氏名ヲ詐稱シテ止宿セシ所爲ハ岐阜縣明治十四年甲第百十七號布達第一條第五項ニ依リ處斷スヘキモノナルモ右二罪俱發スルヲ以テ刑法第百一條ニ照シ一ノ重キ刑法第百四十二條ニ依リ重禁錮五月ニ處スヘキ處二罪前ニ發シ已ニ懲役三十日ノ處斷ヲ經ルヲ以テ刑法第百二條ニ照シ之ヲ扣除シ剩ル重禁錮四月ニ處スト判決シタルヲ不法ナリトシ原檢察官上告ノ要旨ハ監獄逃走及氏名詐稱第一次ノ犯罪ハ舊法ニ於テハ改定律例第三百一條凡懲役五年以上ノ囚人限內逃走スル者云々棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シ新ニ拘役ス云々其百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ役限ヲ全加ス又タ同第二百五十九條凡ソ鄉貫氏名ヲ詐稱シ客廛ニ投宿スル者ハ不應爲輕ニ問フトアルニ該リ新法ニ於テハ刑法第百四十二條已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス又タ岐阜縣違警罪第一條第五項止宿人云々鄉貫氏名ヲ詐稱シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ストアルニ該ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ從ヒ卽チ逃走罪ハ明治十四年第八十一號布告第十三條刑法第五十二條ニ依リ棒鎖二日ノ上原役剩日數四年二月二十二日ノ懲役ニ處スヘク第一次氏名詐稱罪ハ同第百二條初項ニ依リ一罪前ニ發シ已ニ懲役三十日ノ判決ヲ經輕キヲ以テ論セス第二次氏名詐稱罪ハ同第百一條ニ依リ一ノ重キ逃走罪ニ從ヒ論セスト處決セサルヘキモノナルニ原裁判此ニ出テサ

ルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニアリ依テ本院檢事林三介ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告ハ懲役五年服役中外役先ヨリ逃走セシニ之ヲ包藏シ單ニ氏名ヲ詐稱シ他ニ宿泊セシ罪ニ依リ懲役三十日ノ受斷ヲ經放免ノ後尚ホ刑法實施後ニ到リ再タヒ氏名ヲ詐稱シ宿泊ノ際前包藏ノ逃走罪發覺シタルモノナレハ刑法第三條第二項ニ從ヒ新舊法ヲ比照スルニ逃走罪幷氏名詐稱初次ノ罪ハ舊法ニ於テハ改定律例第三百一條同第二百五十九條ニ依リ棒鎖二日仍ホ新ニ原役即チ懲役五年加役三十日ニ處スヘキモ曩キニ懲役三十日ノ受斷ヲ經タルヲ以テ該三十日ヲ扣除シ處斷スヘキニ當リ新法ニ於テハ其逃走罪ハ刑法第百四十二條ニ問擬スヘキモノニ該リ氏名詐稱他ニ宿泊セシ初次ノ罪ハ新法實施前既ニ裁判確定セシヲ以テ新法ニ依照スヘキモノニ非ス而シテ二次ノ氏名詐稱罪ハ岐阜縣違警罪第一條五項ニ該當スルヲ以テ刑法第百一條ニ從ヒ一ノ重キ同法第百四十二條ニ依據シ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノナレハ便チ新法ノ刑ヲ輕シトス故ニ刑法第百四十二條ニ照シ處斷シ尚ホ刑法第五十二條ニ依リ原役ノ剩日數ヲ服役セシムヘキモノナルニ原裁判茲ニ出サルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルヿ左ノ如シ

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第百四十二條岐阜縣違警罪第一條第五項刑法第百一條ニ照シ重禁錮六月ニ處シ仍ホ同法第五十二條ニ依リ原役剩日數ヲ就役セシムル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

加藤銀右衛門

第千六十五號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十一月三十日上告
同　十六年七月廿三日申渡
神奈川縣相摸國高座郡社家
村平民農　小俣彌三郎
明治十五年九月
二十九年三月

明治十五年九月十五日横濱輕罪裁判所ニ於テ小俣彌三郎カ毆打創傷被告事件ヲ審判シ敗罪中一ノ重キ養母「タミ」ヲ刃傷シタル罪ヲ論シ刑法第三百一條第一項ニ依リ同第三百六十三條ニ照シ本刑ニ二等ヲ加ヘ重禁錮一年六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補島村文耕ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ負傷セシメタル養母「タミ」ノ傷痕ヲ點檢スルニ醫師診斷書ノ如ク左手ノ中指示指環指ハ不治ノ創傷ニシテ指頭ヨリ第三關節ヲ切斷シ全ク脫落セシメ即チ癈疾ニ致シタル者ナレハ刑法第三百條同第三百六十三條ニ該ル重罪犯ナルニ裁判官ハ單ニ二十日以上疾病休業ニ至ラシメタル輕罪ナリト爲シ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リ大審院檢事林三介ハ原裁判ヲ相當ナリトシ被害者「タミ」ノ創傷ハ醫師ノ診斷書ニモ癈疾ナリト鑒定シタルニ非ス而シテ裁判官ニ於テ癈疾ニ非スト事實ヲ判定セシモノナレハ其事實上ニ侵入シ判定ノ當否ヲ論スルヿヲ得サルモノトス且手指ヲ切斷スルモ一肢ヲ折傷シタルニ非サレハ固ヨリ癈疾ヲ以テ論スルノ限ニ在ラストノ意見ヲ陳述シ被告代言人志摩萬次郎ハ上告ヲ不當ナリトシ刑法第三百條ニ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ一肢ヲ折リ其

他云々トアルハ先ツ一目一耳一肢ノ項目ヲ掲ケ其餘之ト同視スルコ足ルノ重傷ヲ指スモノニシテ其項目ニ拘ハラス何等ノ輕傷ト雖モ其他云々中ニ包含スト謂フヿヲ得ス即チ本案事件ノ如キハ同條ヲ適用ス可キ者ニ非ス且裁判官カ癈疾ニ非スト判定セシ事實ハ他ヨリ之ヲ動カスヿヲ得ストノ旨趣ヲ辨明シタリ依テ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

刑法第三百條末項ニ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シテ癈疾ニ致シタル者云々トアリテ人ヲ創傷シ其身體ヲ毀損シテ其部分ニ於ケル重要ナル能力ヲ虧缺シ畢生不具ノ人ト爲ラシメタル所爲ハ總テ同條ニ問擬ス可キ者ニシテ單ニ一目一耳一肢ノミニ限リ癈疾ト論定スルノ律意ニ非サルナリ本件被告人カ養母「タミ」ヲ刃傷シ三指ヲ切斷スルニ至ラシメタル如キ即チ身體ヲ殘虧シテ癈疾ニ致シタル者ト謂ハサルヲ得ス而シテ被告人ノ犯罪ハ警察署ノ調書醫師ノ診斷書及ヒ關係人ノ陳述等ニ依リ其情況ヲ察スレハ或ハ一時精神錯亂ニ出テタルノ所爲ニ似タリト雖モ其犯罪ノ性質ハ刑法第三百六十三條ノ末文ニ該當スル重罪タルヲ免カレス抑事實ヲ判定スルハ裁判官ニ任從スル所ト雖モ本件ノ如キ現ニ三指ヲ切斷シ其不具ノ人ナルヿ一目瞭然タル者ニ於テ其癈疾ナリヤ否ハ仍ホ裁判官ノ判定ニ任從ス可キ者ト謂フヿヲ得サルナリ故ニ原裁判所カ被告人ノ所爲ニ對シ刑法第三百條ノ明文アルニ拘ハラス單ニ二十日以上疾病休業ニ至ラシメタル者ト斷定シ輕罪ノ處分ヲ爲シタルハ管轄違ニ係ル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本案被告事件ヲ神奈川重罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十六號

○判文〔官林盜伐ノ件〕明治十五年十一月廿八日上告
同　十六年七月廿三日申渡

長野縣信濃國西筑摩郡田立
村平民農業　堀　茂平次

明治十五年八月
五十二年四月

右茂平次カ被告事件ニ付明治十五年八月十日福島治安裁判所ニ開キタル松本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十一年二月ヨリ同十五年一月ニ至リ長野縣西筑摩郡田立村官林ヘ數回忍入檜其外立木盜伐シ悔悟自首セシ所爲ハ新法實施前後ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ其輕キ刑法第三百七十三條同第八十五條同第八十六條同第八十八條明治十四年第八十一號布告第三條同第十二條及ヒ刑法第三百七十三條ニ依リ重禁錮六月ヲ本刑トシ三等ヲ減シ重禁錮一月十五日ニ處シ現在スル木材並盜伐賠償金ヲ追徵シ犯罪ノ用ニ供シタル鉈鋸ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ同裁判所檢察官小澤和一郎上告ノ要領ハ被告カ官林盜伐ノ所爲ハ明治十一年二月ヨリ同十五年一月迄五次ノ犯罪ニシテ其四次ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照スルニ其二次ハ新法ニ於テハ期滿免除トナリ舊法ニ於テハ自首スルヲ以テ全免スヘキモノタリ其二次ハ刑法第三百七十二條同第三百七十三條同第八十五條同第八十六條同第七十一條同第三百七十六條及明

治十四年第八十一號布告第十條ヲ適用スヘキモノナルモ舊法ノ輕キニ依リ全免スヘキモノナリ因テ新法實施後ニ係ル一次ノ盜伐罪ヲ本刑トナシ適法ノ處分爲スヘキモノナルニ繼續犯罪トナシ尙ホ賍ノ全償如何ヲ推究セスシテ舊法ニ該當スル刑ヨリ二等ヲ減シ本刑トシテ刑法第三百七十二條ニ依リ斷セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フコ在リ被告答辨ノ要旨第一ハ明治十二年一月ノ犯罪ヲ繼續犯ト認定シ賠償返還ヲ言渡サレタルハ不當ナルヲ以テ免訴スヘキモノトノヿ第二ハ明治十三年同十四年二次ノ罪モ繼續犯ニアラスト云フニ外ナラス茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本按被告ガ官林盜伐ノ所爲ハ上告論旨ノ如ク明治十一年乃至十五年五次ノ犯罪ニシテ繼續犯ニアラストス假ニ原裁判ノ如ク繼續犯ト判定スルモ單ニ其最終ノ日ニ施行スル法律即チ刑法ニ依リ處斷スヘキモノナルニ舊法ト比照セン-ハ法律ノ理由ニ齟齬アルモノナリ又原判文ニ數次犯罪ノ日及ヒ賍物ノ估計幷ニ賍ノ全償如何ヲ明示セサリシハ治罪法第三百四條ニ背戻シタル不法ノ裁判ニシテ之ヲ審明シタル上ニアラサレハ未以テ刑ノ適用ヲ論究スルニ由ナキモノトス因テ同法第四百二十八條ニ法リ原裁判ヲ破毀シ岐阜輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

於大審院檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十七號

○判文〔限月米賣買ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告
同十六年七月廿三日申渡
秋田縣羽後國由利郡本莊肴町二番地平民　池田太郎兵衛　明治十五年九月　四十ヵ歳
同縣同國同郡本莊古雪町百五番地平民　齋藤德五郎　明治十五年九月　三十七歳一ヶ月
同縣同國同郡本莊日役町三十三番地平民　伊勢藤市　明治十五年九月　三十七歳六ヶ月
同縣同國同郡矢島町十三番地當時同郡本莊上横町三拾七番地平民　大日向六次郎　明治十五年九月　二十八歳四ヶ月

右四名カ米限月賣買事件ヲ審理シ明治十三年第二十一號布告ニ依リ太郎兵衛德五郎ハ各罰金百圓藤市ハ罰金

貳拾圓六次郎ハ罰金五拾圓ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ右四名ハ上告セリ其要旨ハ被告人等カ賣買シタルハ正米ニシテ互ニ現物一見濟ノ上契約ヲ爲シタル者ナリ其契約書ニ某月限トアルハ倉庫ノ賃銀受持ヲ區別スル爲メ附記シタルモノナリ然ルヲ土地ノ實況ヲ汲量セス事實ノ如何ヲ推究セス單ニ空米限月賣買ヲ爲シタル如ク認定セラレ又判文ニ明治十三年八月中米限月賣買取引ヲ爲シタル科ニ依リ云々ト記シタルハ再犯加重ノ處分セラレタル者ニシテ共ニ不當ナリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

諸般ノ證憑ヲ採擇シ事實如何ヲ判定スルハ事實裁判官カ特有ノ職權ナルヲ以テ其爲シタル判定ハ輙ク之ヲ動カス可カラス而メ被告人等ニ於テ官許ヲ得タル米商會所ノ規則ニ依ラスシテ米限月賣買又ハ其誘助ヲ爲シタルヿハ訴訟書類ニ照シ明瞭ナレハ原裁判官ニ於テ其事實ヲ確認シ明治十三年第二十一號布告ニ從ヒ處罰シタルハ允當ノ裁判ナリトス又裁判言渡書ニ前科ヲ記載シタリト雖モ其處罰ニ於テハ該布告ニ揭ケタル本刑即チ拾圓以上二百圓以下ノ範圍内ヲ以テ處分シタルモノニシテ更ニ加重シタルニ非サレハ以テ再犯加重ト爲スヲ得サルモノナリ

右ノ理由ニシテ上告ノ旨趣總テ相立タサルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十八號

○判文（演說犯則ノ件）明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年七月廿三日申渡

千葉縣安房國長狹郡金束村
平民利右衛門長男農業
山田島吉 明治十五年十一月 二十二歳六ヶ月

明治十五年十一月六日木更津輕罪裁判所ニ於テ右島吉カ被告事件ヲ審理シ其公衆ニ對シ演說中

天皇陛下ニ對シ不敬ノ言詞ヲ發シ又官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル事實アリト認メ刑法第百十七條第百二十條及ヒ第百四十一條ニ照シ第百條ニ依リ其重キ第百十七條第百二十條ニ從ヒ重禁錮三年罰金百圓監視一年ニ處斷セリ

右島吉カ其處斷ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨ハ之ヲ四件ニ區別セリ曰ク被告ハ檢察官カ筆記ノ如キ演說ヲ爲シタルヿハ決テコレナシ若シ其演說ヲ爲シタル者ナラハ臨席ノ警部巡査ハ直ニ中止解散及ヒ被告人ヲ逮捕スル等現行犯ノ手續ヲ爲スヘキハ法律上必ス爲サヽルヲ得サルノ職務ナリ而テ其然ラサル所ノ者ハ卽チ是筆記ノ事實ニ反スル所以ニシテ被告カ反對證ナリト開陳スル所ナリ警官ニ於テ右手續ヲ爲サヽルハ一時ノ過失ニ出タル者ナリト謂フモ決テ職務上ノ過失ニアラス卽チ法律ニ違反シタル處分ナリ苟モ法律ニ違反シタル處分ニシテ其提供シタル筆記ハ證憑トハ爲ス可カラサルナリ然ルニ之ヲ採用シタルハ證據法ヲ誤リタル者ナリ曰ク該筆記ノ如キ演說ヲ爲シタル者ナリト假定スルモ其文辭ヲ解釋スルニ官吏カ

聖明ノ至德ヲ蔽フヲ切言シタル者ニシテ尊王愛國ノ赤心ニ出タルト謂フモ決テ刑法第百十七條ニ依リ罰セラル可キ者ニアラサルナリ而テ我政府ノ官吏云々トノミ稱シテ其誰某タルヲ明示セサレハ刑法第百四十一條ヲ適用スヘキ者ニアラサルナリ曰ク該筆記ノ末尾ニハ寺門村三上文太郎方ニテ筆記トアリ而メ警察官カ告發ニ係ル演説ノ場所ハ大幡村川名治八方ナレハ數十町距離アル寺門村ニ於テ之ヲ筆記スルハ爲シ得可カラサルヿナルニ原裁判官ニ於テ之ヲ現場筆記ナリト爲シタルハ粗漏ナリ曰ク原裁判言渡書ニ明治十五年七月三十日大幡村川名治八方ニ於テ政黨論ト題シ云々トアレ𪜈同日同場ニ於テ演説セシハ政治學一斑ト題シタルモノニテ政黨論ト題シタル演説ハ其前日即チ七月廿九日金東村野村長吉方ニ於テ爲シタルヿアリ本件事實ハ或ハ之ヲ指稱セラレタルニ非ルヤ果シテ然ラハ時日場所ヲ錯誤セシ不當ノ判決ナリト云ニ在リ

大審院ニ於テ檢事加納久宜ノ意見及ヒ代言人岡山兼吉カ上告趣意ノ辨明ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得ル場合ハ治罪法第四百十條ニ規定シタル十一項ニ限リ其項目中ニ適當スルニ非レハ之ヲ爲スヲ得サル者トス本案上告論旨ヲ案スルニ右第一ニリ第九マテノ項目ニハ一モ適當スル者ナシ獨リ刑法第百十七條ニ依ルヘキニアラス第百四十一條ヲ適用ス可キニアラス云々ノ點ハ稍第十項ノ場合卽チ擬律ノ錯誤ヲ論告スル如キ語意アリト雖𪜈原裁判言渡書ニ明示シタル二個ノ被告事實ニ對シテハ適當ノ擬律ナルヲ以テ之ヲ錯誤ト謂ヲ得ス其他採用シタル證憑ト認定シタル事實等ニ付非難スル點ハ或ハ第十一項ノ場合卽チ越權ノ處分アリト論告スルノ精神ヲ有スル如シト雖今原裁判言渡ヲ監査スルニ治罪法第百四十六條ノ規則ニ基キ事實裁判官ニ任從セラレタル當然ノ權内ニ於テ其有功ナリト認メタル諸證憑ヲ擧示シ以テ其不敬罪ト侮辱罪トノ二個ノ事實アリト判定シタル者ニシテ毫モ越權ノ處分アルヿナシ故ニ上告ノ旨趣ハ總テ相立タサル者トス因ヲ治罪法ト第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千六十九號

○判文〔强盜ノ件〕明治十五年十二月四日上告
同　十六年七月廿三日申渡

兵庫縣播磨國印南郡魚橋村
平民農　長谷川嘉吉　明治十五年六月　二十五歳

同縣同國飾東郡八家村平民
鹽濱稼　宮脇木八郎　明治十五年六月　二十五歳

明治十五年六月十三日兵庫重罪裁判所ニ於テ右兩名カ强盜犯ノ被告事件ヲ審理シ刑法第三百七十八條第三百七十九條ヲ適用シ各十三年ノ有期徒刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ該

兩名ハ上告セリ其要旨タル嘉吉ニ於テハ強盗ヲ爲シタルヿナク被害者長谷川「エミ」ノ口供中何人トモ知レサル男子二人入來リトアリ又宮脇木八郎ノ調書ニ長谷川嘉吉ト俱ニ罷越シタルヿハ無之淡路熊五郎ト俱ニ參リ云々トアルヲ以テ見ルモ共犯者ハ被告ニ非ルヿ判然タリ故ニ十三年ノ有期徒刑ヲ甘受スル能ハスト云ヒ木八郎ニ於テハ窃盗ヲ爲シタルモ強盗ヲ爲シタルヿナシ而ノ長谷川「エミ」ノ申立ニ一人ノ賊脇差ヲ突立云々トアルヲ眞實ナリトスルモ被告ハ兇器ヲ携帶セサレハ是熊五郎カ一己ノ所爲ナリ然ルニ被告ヲ十三年ノ有期徒刑ニ處シタルハ刑法第七十七條ニ抵觸セリト云ニ在リ茲ニ本院檢事加納久宜ノ意見及ヒ代言人佐藤喜三カ上告趣意ノ辨明ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ヲ約スレハ各強盗ヲ爲シタルヿナシ然ルニ強盗罪ノ處斷セラレタルハ不當ナリト云ニ過キスシテ原裁判官カ判定シタル事實點ニ對シ不服ヲ唱フル者ナリ抑諸般ノ証憑ヲ採擇シ事實如何ヲ判定スルハ法律上之ヲ事實裁判官ノ權內ニ委シ輒タ他ヨリ侵入ス可カラサル者トス今原裁判言渡書ヲ見ルニ法ノ如ク其証憑ヲ明示シ被告兩名カ共犯ニ係ル兇器携帶ノ强盗ノ事實アルヿヲ斷定シテ毫モ瑕瑾アル事ナシ故ニ之ニ對シ刑法第三百七十八條第三百七十九條等ヲ適用シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ允當ノ裁判ニシテ破毀ノ原由ナキ者ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ加納久宜立會宣告ス

第千七十號

○判文〔窃盗及ヒ放火ノ件〕明治十五年十二月七日上告 同十六年七月廿四日申渡

京都府丹波國船井郡園部村

平民當今園部新町寄留

吉田和三郎

明治十五年六月

三十二年三月

右和三郎カ窃盗放火ノ被告事件ニ係ル豫審終結言渡ノ故障ニ付明治十五年六月十五日園部輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審係カ該所爲ニ對シ刑法第四百三條及第百十二條ヲ適用スヘキ者トシタルハ相當ニシテ故障ノ申立ハ棄却ストノ判決ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事八杉淳カ上告爲シタル要領ハ第一會議局ノ判文中「夥多ノ書類ヲ家屋內ニ纍聚シ之ニ石炭油ヲ注キ火ヲ放テハ其家屋ヲ燒亡スルハ必至ノ勢ニシテ素ヨリ豫期スヘキノ事也」トノ判決ハ理ヲ推スニ勉メタル如キモ專ラ理論ニ偏ス可ラスシテ單ニ法律論ヲ爲サヽル可ラス惜ムヘシ法律論トシテ之ヲ讀マハ啻ニ無用ノ贅言ナルノミナラス法律ニ背キタル裁判ト云ハサルヲ得ス何トナレハ刑罰ノ主意タルハ犯人ヲ懲戒シ側ラ衆人ヲ警戒スルニ在リ然ルニ家屋ニ放火スルノ意ナク又其所爲モナキニ被告事件ノ摸樣ニ因リ放火罪ナリト妄測シ誤刑ヲ以テ之ヲ罰センカ治罪法第百四十六條法律ニ於テハ被告事件ノ摸樣ニ因リ有罪ナルノ權測ヲ定ムルヿナシトアル法文ニ背馳シ刑罰ノ目的ニ相違ス云々又其第二判文中「被告カ現ニ此ノ事ヲ行ヒタルハ放火ノ方法ヲ以テ其目的タル帳簿ヲ湮滅セシメント爲シタル者ニヽ譬ハ猶ホ盗ノ目的ハ財物ヲ得ルニアリ而ノ兇器ヲ持シ人ヲ脅迫スルハ其方法ナルカ如シ」云々ニ對

スルノ要旨ハ右ハ奇異ナル譬ニテ被告カ帳簿ヲ燒燬スル目的ヲ以テ燒燬セシ餘焰ノ箒笥等ニ燃ヘ移ラントセシ迄ナレハ被告カ家屋ニ放火スルノ方法ナラサルヿ明カナリ云々又第三判文中「罪ヲ論スルニハ單ニ其目的ノミヲ以テス可キ者ニアラス」トアリテ過失ヲ罰スル特別ヲ除クノ外罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ヲ罰セサルヿハ刑法ニ明瞭ナリ然ルニ判文ニ依レハ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲モ其罪ヲ論スト云フカ如シ判決ノ不當ナル茲ニ至ツテ極マレリ云々論告スルコアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ其要旨ハ原檢察官カ法律上ノ推測ト事實上ノ推測トヲ混同シ或ハ承審官ノ認メタル事實ヲ外ニシテ論究スル者ナルヲ以テ到底其理由相立サル者ト思考スト云フニアリ因テ之ヲ判決スル左ノ如シ」

上告趣意書第一條ニ會議局ハ被告カ書類ヲ纍衆シ石炭油ヲ注キ火ヲ放チタル所爲ヲ以テ其目的ニ非ル放火ノ酷刑ヲ適用セルハ治罪法第百四十六條ニ背馳シ則チ犯罪ノ摸樣ニ依ツテ推測シタルモノナリト云フト雖モ元ト會議局ノ判決タル專ラ事實ノ如何ヲ審案シ終ニ其所爲カ放火ノ方法ナルヿヲ免レサルモノトノ認定シタルモノナレハ則チ之ヲ事實ノ推測トスルモ右第百四十六條初項ノ制裁ニ觸レルモノト云フヲ得ス要スルニ該條第二項ニ犯罪ノ事實證憑ノ取捨鑒別等ハ總テ承審官ニ任スル旨ヲ明示シアレハ本案ノ被告事件ニ對シ會議局カ爲シタル判決「石炭油ヲ注キ火ヲ放チ云々素ヨリ豫期スヘキノ事ナリ」以下ノ心證判斷ハ其職權ニ屬スル所ナルハ舍テ論セス凡ソ罪ハ其目的ニ非サルモ單ニ其所爲アレハ之ヲ以テ罪ヲ構成スルノ場合アルモノナレハ是等判決ノ如キハ則チ事實相當ノ認定ニシテ之ヲ法律ノ推測ヨリ放火ノ酷刑ヲ適用セルモノト云フヲ得サルヿ勿論ナリ上告

第二條以下ノ趣意ハ右第一條ニ對スル辯明ニ於テ了解シ得ヘキヲ以テ別ニ辯明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百十條ノ各項以外ニ渉リ上告ノ原由ナキモノニ付同法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十一號

○判文（持兇器窃盗及ヒ故殺ノ件）明治十六年六月四日上告
同十六年七月廿四日申渡
愛媛縣伊豫國上浮穴郡菅生
村居住平民
山中道太郎
明治十五年五月
三十八歳

持兇器窃盗未遂及ヒ故殺犯罪被告事件ニ付明治十六年五月十二日愛媛縣重罪裁判所ニ於テ右山中道太郎ノ所爲ヲ審判シ其兇器ヲ携ヘ窃盗ヲ爲サントシテ遂ケサル罪ハ刑法第三百七十條同第百十二條同第百十三條同第六十九條同第三百七十六條ヲ適用シ其窃盗ノ罪ヲ免ルルカ爲メ大野「ゆきと」ヲ故殺シタル罪ハ刑法第二百九十六條ヲ適用スヘキ者ナルモ二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第二百九十六條ニ依リ死刑ニ處スト言渡タリ

被告山中道太郎ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタルノ要領ハ被告人ハ大野「ゆきと」ト同村ニシテ且由緒アリ時々出入シ金借等致シ來リタル故ヲ以テ明治十六年一月二十一日ニモ金壹圓借用ノ爲メ罷越シ談判ノ末口論ニ及ヒ遂ニ彼ヨリ庖刀ヲ以テ突掛リタルニ因リ之ヲ防衛シ爲

メニ右掌ニ疵ヲ負ヒタル庖刀ハ奪取リ其怒ニ乘シ「ゆき」カ胸部ト覺シキ處エ一度突込ミタル者ニシテ最初ヨリ盜殺ノ心アルニ非ス其證タル庖刀ハ「ゆき」カ所有ニシテ自分携帶シタルニ非ス然ルヲ久万分署ニ於テ拷訊ニ成リタル調書ニ因リ公判廷ニ於テ申立タル陳述ヲ採用セスシテ重罪ノ判定ヲ下シタルハ不服ナリト謂フニ在リ對手人檢事補藤本重威ハ上告趣意ハ警察署及ヒ豫審廷ニ於テ爲シタル口供ヲ翻翼スルニ止リ上告ノ原由ト爲スニ足ラス原裁判所ハ一切ノ證憑書類ニ照シ其竊盜罪ヲ免ルヽ爲メ大野「ゆき」ヲ故殺シタルヿ明白ナルヲ以テ刑法第二百九十六條ヲ適用シタルハ最モ其當ヲ得タル裁判ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十一條及ヒ同第四百二十五條ノ規則ニ依リ院長ノ選任シタル代言人廣瀬帆三ノ陳辨ヲ聽クニ上告趣意ヲ擴張シ原裁判所ニ於テ被告人カ最モ利益ト爲ルヘキ爲メ請求シタル庖刀ノ所有主ヲ審理セスシテ輙ク裁判ヲ與ヘタルハ越權ノ處分ナリト論述シ檢事池上三郎ハ原檢察官答辨ノ趣旨ト同一ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ辨明セリ仍テ判定スルヿ左ノ如シ

凡事實ヲ翻供シテ其罪ヲ免レント欲スルハ罪犯ノ常情ナリ故ニ其陳辨ノ取捨ハ裁判官ノ心證ニ任從シ之カ確實ノ反證アルニ非サルヨリハ動カスヿヲ得サル者トス本案被告人カ上告ノ論旨トスル處ハ單ニ无形ノ造言ニ外ナラス如何トナレハ被告人カ金圓貸借ノ爲メ大野「ゆき」宅ニ行キタル者ナレハ何ソ雪隱ノ側戶締ヲ押開キ出入スヘキノ謂レアランヤ況ヤ其時刻ハ午前三時卽チ夜半過キナルニ於テヲヤ是レ原裁判言渡書ニ明示スル事實ノ理由ニシテ乃チ刑法第二百九十六條ニ適當スル犯罪ナルヿ明確ナリ故ニ庖刀ノ出所ノ如キ敢テ被告人ノ利益ニ影響ナキノミナラス已ニ被害者ノ所有ニ非サルノ證徵アレハ其審理請求ヲ採用セサルハ越權ノ處分ト言フ可カラス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千七十二號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月十一日上告
同十六年七月廿四日申渡
石川縣能登國鹿島郡井田村
平民農業
中倉宇右衛門
明治十五年六月
四十七年

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年六月二十二日七尾輕罪裁判所會議局ニ於テ同裁判所豫審掛カ刑法第三百一條ニ該ルモノトシ七尾輕罪裁判所ニ移ストノ豫審終結言渡ニ服セス故障ノ申立ヲ爲シタルモ其原由ナキモノトシ該言渡ヲ認可ストノ判決ニ對シ上告セリ其要領ハ被害者ハ醫師ト共謀シテ創傷ノ爲メ數日病蓐ニ就キタル旨詐言ヲ逞フスルヲ豫審掛ハ其醫接及ヒ證言ニ依リ被告カ毆打シタル所爲ナリトシ輕罪裁判所ニ移ストノ言渡ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シタルニ會議局ニ於テモ被告カ毆打シタル證憑ハ醫按及ヒ其他ノ陳述ニ據リ事實明確ナリト認定シ該言渡ヲ認可ストノ判決ハ治罪法第二百四十六條第三項ニ違背シ同法第四百十條第三第九ノ項目ニ適當スル不法ノ判決ナリト云フニ在リ

對手人檢事補若林爲三藏ハ被告宇右衛門カ豐原和助外一名ヲ毆打シ爲メニ創傷疾病ニ至ラシメタル證憑ハ證人等ノ陳述ニ因リ明白ナリト辯駁シ且會議局ノ判決ハ毫モ法律ニ抵觸スル廉ナシト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告中倉宇右衛門カ上告ノ論旨ハ證據取捨ノ點ニ付彼是之ヲ論難スルモ事實ノ認定ハ原裁判官ノ特權内ニシテ輙ク他ヨリ之ヲ左右シ得ヘカラサルハ載セテ治罪法第百四十六條ニ明文アリ其然リ然レハ被告宇右衛門ハ毆打創傷ノ所爲アルモノトシ豫審掛カ七尾輕罪裁判所ニ移スト言渡シタルハ管轄違越權等ニ非サレハ固ヨリ故障ノ原由ト爲スヲ得サル論ヲ俟タス故ニ原裁判所會議局ニ於テ該言渡シヲ認可シタルハ允當ノ判決ニシテ毫モ破毀ノ原由ナキモノトス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十三號

○判文〔私印僞造ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年七月廿四日申渡

東京府淺草區北三筋町第五十四番地住華族

芝　亨　實忠　明治十五年十月二十二年九ヶ月

右實忠カ被告事件ニ付明治十五年十月十八日京都輕罪裁判所於テ被告ハ他人ノ私印私書ヲ僞造行使シ山本實政ヲ欺キ金圓ヲ騙取セントシテ既ニ其事ヲ行フト雖モ未タ遂ケサル者ト認定シ刑法第二百八條第二百十條第二項同第二百十二條及ヒ同法第三百九十條第三百九十四條第三百九十七條第百十二條ニ照シ同法第百條ニ依リ一ノ重キ同法第二百八條ヲ適用シ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視七月ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル僞造書ハ同法第四十三條ニ依リ沒收スル旨言渡シタル處被告實忠上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告於テ罪ヲ犯シタリトセラレタル當時ハ他事ノ爲メ東西ニ奔走シ寸暇アルニ非ス故ニ他人ノ私印私書ヲ僞造シ詐欺取財ヲ爲サントスルモ遑ナキノミナラス犯罪ノ證據不充分ナルニ原裁判官於テ右等ノ罪アリト認定セラレタルハ即チ事柄ノ模樣ニ因リ有罪ナリトノ推測ヲ下サレタル者ニシテ治罪法ノ原則ニ背馳セル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補谷口重輝於テハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ治罪法第百四十六條第二項ノ明文ニ依リ承審官ニ特任スル所ノ採證及ヒ事實判定ノ當否ヲ論難シ原裁判ヲ違法ナリト云フニ過キサレハ即チ治罪法第四百十條十一項中ニ定メタル上告ノ原由ト爲スヲ得ヘカラス而テ原裁判ハ他ニ違法ノ廉アルヿナキヲ以テ上告ノ旨趣ハ都テ相立サル者トス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ハ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十四號

○判文（故殺ノ件）明治十五年十一月廿五日上告
同　十六年七月廿六日申渡

青森縣陸奥國二戸郡堀野村
十三番地平民湯屋稼
菅谷熊吉
明治十五年六月
二十五年八月

明治十五年六月三十日東京重罪裁判所ニ於テ右菅谷熊吉カ被告事件ヲ審判シ菅谷熊吉ハ薪割ヲ用テ伊澤清吉ノ左耳上部ヲ毆打シ因テ死ニ致シタル者ト爲シ刑法第二百九十九條ニ依リ重懲役九年ニ處ストノ言渡ヲ爲シタリ東京重罪裁判所檢事岡本豐章ハ之ヲ不當ノ裁判ナリトシ上告ヲ爲セリ其要點ハ本件ノ所爲ニ對シ重罪裁判所カ刑法第二百九十九條ノ罪アリト判決シタルハ全ク同法第二百九十四條ヲ解誤シタルニ原因ス抑故殺ノ罪ニ付テハ殺意アルヲ證明スルハ極メテ必要ナリ而テ其殺意タル必スシモ犯者ニシテ我ハ被害者ノ生命ヲ絶ツト其決意ヲ表スルヲ限リ之ヲ認視スヘキニアラサルナリ若シ被害者ノ死避ク可カラサル結果卽チ危險ノ場所又ハ慘酷ナル器械ノ用法ニ出タル場合ハ故意アリタリト爲サヽル可カラサルナリ故ニ本件ノ如キハ刑法第二百九十四條ヲ適用シ處分ス可キ者ナリ然ルニ原裁判所カ刑法第二百九十九條ヲ適用シタルハ法律ヲ誤用シタル者ナリト謂フニ在リ對手人菅谷熊吉カ答辯ノ要領上告ノ論旨ハ單行ノ論理ニ止マリ事物各自ノ情ト理トヲ參酌シタルモノニ非サレハ本件適當ノ論理ナリト云フ可カラス若シ被害者ニ於テ被上告人ニ對シ一モ暴行ヲ加ヘス被上告人ニ於テ上告狀明記シタルカ如キ所ノ兇行ニ出タル者ナラハ上告ノ論理或ハ其當ヲ得ム本件ノ如キハ被害者ヨリ過甚ノ暴行凌辱ヲ受ケ憤怒ニ堪エサルヨリ事ノ輕重大小ヲ顧ルノ遑ナク其憤怒ヲ漏スノ結果偶々被害者ヲ死ニ致シタル者ニシテ始終殺意ナキ場合ニ於テハ故殺ヲ以テ論ス可キ者ニ非スト謂フニ在リ

被上告代言人白石剛ハ答辯ノ旨趣ヲ擴張シ被上告人ノ所爲ハ故殺ヲ以テ論ス可キ者ニ非スト論辯シ且附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被上告人カ所爲ハ自己ノ身体ニ暴行ヲ受ケタルニ原因シタル者ナレハ刑法第三百九條ヲ適用シ其罪ヲ宥恕スヘキ者ナルニ原裁判此ニ出テサルハ不當ナリト云フニアリ本院檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

凡器物ノ用法及ヒ現場ノ景況ニ於テ避ク可カラサルノ危險又慘酷ナル所爲ヲ行ヒタル殺害ハ法律ノ推測ヲ以テ有意ノ故殺ナリト認定スルヲ得然レトモ被上告人ニ於テ毫モ殺意ナキノ證據充分ナルトキハ器物ノ用法又ハ現場ノ景況ノミニ拘ハリ概子故殺ノ所爲ナリト審斷ス可カラサルナリ本案菅谷熊吉カ被告事件ハ器物ノ用法及ヒ現場ノ景況ニ於テハ避ク可カラサル慘酷ノ所爲アリト雖原裁判所ニ於テ擧示シタル所ノ書類ヲ視ルニ其初メ被害者伊澤清吉カ爲メニ下駄ヲ以テ其面部ヲ毆打セラレ流血スルニ至ルモ神田五軒町巡査派出所ニ訴出其出張ヲ請求シタル等ノ事實ニ依レハ其平允ノ處分ヲ乞フノ意ニシテ毫モ其兇害ノ意ナキヲ觀ルニ足レリ而テ被上告人カ飲酒歸宅ノ際被害者伊澤清吉カ臺所ニ睡臥シタルヲ見テ憤怒仍ホ止マス急遽思慮スルニ遑ナク薪割ヲ以テ伊澤清吉ヲ毆打シ死ニ致シタル者ニシテ其殺意ナキハ亦原裁判所カ認定シタル所ナリ因テ刑法第二百九十九

條ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣ハ相立タサル者ト爲ス

又刑法第三百九條ハ自己ノ身体ニ暴行ヲ受ケタルニヨリ直ニ怒ヲ發シ云々トアリテ本件ノ如キ其暴行ヲ受ケタルモ既ニ他人ノ爲メニ引分ケラレ被害者ハ臺所ニ睡臥シタル景況アリテ多少時間ヲ經過シタル所爲ニ對シ適用ス可キ者ニ非レハ附帶上告ノ旨趣モ亦相立タサル者ト爲ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十五號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十一月廿八日上告
同　十六年七月廿六日申渡

福島縣磐城國磐前郡北目村
平民久野幾吉妻檜物工　セン　弘化四年二月生
同縣同國同郡同村平民涌井
清三郎女同雇工　タツ　明治元年七月生

明治十五年六月十九日平輕罪裁判所ニ於テ右兩名カ被告事件ヲ審理シ長澤知貞所有ノ竹藪ニ入リ生筍ヲ竊取セシ事實アルモノト斷定シ刑法第三百七十三條第三百七十二條及ヒ第三百七十六條ニ依リ「セン」ハ重禁錮一月二十日ニ處シ監視六月ニ付シ「タツ」ハ仍ホ同第八十條末項ニ照シ重禁錮二十日ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補宮地直親ハ上告セリ其要旨タル本案ハ鈴木米吉ヲ以テ被害者ト認ムヘキ充分ノ證據アリ而テ長澤知貞ニ係ル所爲ハ未遂犯ニ止ル者ナルモ原裁判官カ其米吉ヲ被害者ト認メスシテ知貞ノミヲ認メシハ不當ナリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

諸般ノ證憑ヲ判定シテ犯罪事實ノ有無ヲ審斷スルハ治罪法第百四十六條ニ基キ一々事實裁判官ニ任從スル所且ツ原裁判言渡書ヲ見ルニ其事實斷定上毫モ瑕瑾アルヿナシ依テ上告ノ論旨ハ總テ相立タサル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十六號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年七月廿六日申渡

山形縣羽前國最上郡南山村
平民農業　神野保

明治十五年八月
三十三年

右保カ毆打創傷被告事件ニ對シ明治十五年八月廿一日新庄治安裁判所ニ開キタル山形輕罪裁判所於テ刑法第三百一條第二項ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリ

トシ原檢察官上告ヲ爲スノ要旨ハ被害者カ訴狀ト醫師ノ診斷書トヲ參觀スルモ微々タル創傷ニテ疾病又ハ休業ノ事實アルモノト認ムルヲ得ス然ルニ原言渡ノ第三百一條第二項ヲ適用セルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判所於テ被告カ高山德次郎ニ對シ毆打創傷ヲ爲シタルモノト認定セシ事實ハ相當ナルモ其心証ニ資リタル被告ノ供述被害者ノ告訴狀醫師ノ診斷書等ヲ監査スルニ創傷ノ爲メニ疾病又ハ休業ニ至ラシメタルノ証憑毫モ見ルヘキナシ然ルニ原判決ノ輙スク刑法第三百一條第二項ヲ適用セシハ即チ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百廿九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルヿ左ノ如シ

神野保

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ人ヲ毆打創傷シタルモノト認メタル事實ハ原裁判官ノ判定スル所ニ依リ刑法第三百一條第三項疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ストアル範圍内ニ於テ重禁錮一月ニ處ス

於大審院檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十七號

○判文〔恐喝取財ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告
同　十六年七月廿七日申渡

神奈川縣相模國足柄下郡小田原驛綠町二丁目熊次郎方借店平民人力車挽

大野定吉

明治十五年七月
三十五歳七ケ月

右定吉カ被告事件明治十五年七月七日小田原治安裁判所ニ開キタル横濱輕罪裁判所ニ於テ審理シ其所爲刑法第三百七十八條ニ該ル强盜重罪犯ナリトシ治罪法第三百六十條ノ規則ニ從ヒ未タ豫審ヲ經サルニ付横濱輕罪裁判所豫審判事ニ送付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部補吉岡隆亮ハ上告セリ其要旨ハ被告人ノ所爲ハ恐喝シテ金圓ヲ騙取セントシテ未タ遂ケサル者ニシテ其衣類ヲ奪取ルノ念ナキヿハ被害者ノ雇主ノ宅ニ到リ談判ヲ爲ス等ノ所爲ヲ見テ知ル可ク且ツ衣類ハ其場ニ捨置遁走セリ然ルニ原裁判官ハ是等ノ點ニ注目セス故ヲニ言渡中〳〵脅迫暴行ノ數字ヲ記載シ衣類ヲ剝取リタル者ノ如ク觀察ヲ下シ重罪犯ト爲シタリ又假令刑法第三百七十八條ニ該ル重罪犯トスルモ其事未タ遂ケ得サル者ナレハ減輕シテ輕罪トナルヲ以テ仍ホ原裁判所ニ於テ裁判ス可キ者ナリ又重罪犯ト爲シナカラ管轄違ノ言渡ヲ爲サヽリシハ不法ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

訴訟書類ヲ閲スルニ被告事件ハ原檢察官公訴ノ如ク其狀情恐喝シテ人ノ財物ヲ騙取スルニ出テ强盜犯ノ事實ナキ者ニ似タリ然レモ是等ノ條件ハ尙ホ事實裁判所ノ判定ニ付シ茲ニ論決セスト雖原裁判官ニ於テ苟モ暴行ニ因テ成立タル强盜ノ重罪犯ト認メタルナレハ乃チ治罪法第三百六十條ノ明文ニ從ヒ管轄違ノ言渡ヲ爲シ而シテ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可キニ其第一ノ言渡ヲ爲サスシテ單ニ第二ノ言渡ノミヲ爲シタルハ越權ノ處分

ダルヲ免レサルヲ以テ破毀ノ原由アル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ東京輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十八號

○判文（脫檻逃走ノ件）明治十五年十一月廿九日上告
同　十六年七月廿八日申渡

大坂府河内國若江郡友井村
平民平八二男
松村藤吉
明治十五年四月
三十一年

右松村藤吉ノ被告事件ニ付明治十五年五月三十一日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告カ懲役終身服役中明治十四年三月十六日堺監獄ヲ脫シテ逃走シ其後就縛入監中明治十四年七月十八日再ヒ逃走シタルハ新法實施前ノ所爲ナルヲ以テ之ヲ舊法ニ照スニ第一次ノ行爲ハ明治九年第二十二號布告ニ依リ棒鎖三日ニ處スヘキ者又第二次ノ行爲ハ明治十年第二十五號布告ニ依リ棒鎖十日ニ處スヘキ者卽チ二罪俱發シタルヲ以テ舊法ニ罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ棒鎖十日ニ處斷スヘキ者ナルヲ以テ明治十四年第八十一號布告第十三條ニ照シ棒鎖十日ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補大野吉利カ上告ノ要旨ハ明治十年第二十五號布告ハ先キニ逃走ノ罪ヲ犯シ已ニ斷決ヲ經テ再ヒ犯シタル者ヲ罰スルノ律意ナルヘシ然ルニ本案被告ノ所爲ハ先キニ逃走ノ罪ヲ犯シタルモ未タ其判決ヲ經ス再ヒ同罪ヲ犯シタル者ナルヲ以テ兩次ノ罪等ク是レ同一ノ刑ニ該ル者ナルニ裁判所ニ於テ被告人第二次ノ行爲ハ明治十年第二十五號布告ニ依リ棒鎖十日ニ該ル者ト處斷セシハ擬律ノ錯誤アル裁判ナリト云フニアリ對手人松村藤吉ハ大野吉利カ上告趣旨ト意見ヲ同フスル旨ヲ答辨セリ又被告松村藤吉カ上告ノ要旨ハ已決四ノ逃走ハ二罪俱發例ヲ以テ論スルノ限リニアラサルモノヽ如シ又判文ニ舊法ノミヲ揭ケ新法ヲ明示サレサルハ刑法第三條第二項ノ元則ニ背戾シタルモノヽ如シ夫レ然リ被告ノ逃走罪ハ刑法ニ於テ第百四十一條第百四十二條第百四十三條第百四十四條何レヲ適用スルヤノ區分ヲ明記シ之ヲ舊法ニ比照シ輕キニ因テ處斷セサルハ不法ノ裁判ナリト對手人檢事補大野吉利カ答辨ノ趣旨ハ被告カ本件裁判言渡ヲ以テ刑法第三條及ヒ治罪法第三百四條ニ背キタル者トシタルハ其當ヲ得タルモ被告ノ所爲ニ對シ原裁判所カ二罪俱發例ニ照シ處斷シタルハ素ヨリ當然ナルニ已決四ノ逃罪ハ二罪俱發例ヲ以テ論スヘキモノニアラストノ申立ハ更ニ其理アルヲ見スト云フニアリ右二個ノ上告各其主唱スル所ヲ異ニスルモ同ク一個ノ裁判ニ對スル上告ナルヲ以テ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ二件ヲ併セ之ヲ審按スルニ原裁判ノ新舊法ヲ比照セサルハ刑法第三條第二項ノ原則ニ觸ルヽモノトス又已決四ノ逃走罪ニ二罪俱發例ヲ用フルヲ得サルノ法文ナク且原判文ヲ閱スルニ事實及ヒ法律ノ理由ヲ付シ治罪法第三百四條ニ背戾シタルノ痕跡アルヲ見サレハ被告藤吉カ右上告ノ趣旨ハ不相立モノトス然ルニ本案被告ノ所爲ニ對シテハ原檢察官意見ノ如ク二次罪ヲ犯スモ未タ前罪ノ判決ヲ經サル限リハ其後罪ヲ再犯

觀シ刑ヲ加重スヘキ理由ナケレハ單ニ明治九年第二十二號公布ニ依リ棒鎖三日ニ處スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出テサリシハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

松村藤吉

前ニ辨明スル理由ナルヲ以テ明治九年第二十二號公布及ヒ明治十四年第八十一號公布第十三條ニ依リ棒鎖三日ニ處スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千七十九號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十一月三十日上告
同　十六年七月廿七日申渡

岐阜縣飛驒國益田郡朝日村
十一番地平民又四郎長男
文學教員
牧本一洲
明治十五年八月
二十二歳六ケ月

明治十五年八月一日金澤輕罪裁判所ニ於テ右一洲カ受託金拐帶ノ被告事件ヲ審理シ其事實ヲ證明シ刑法第三百九十五條第三百九十條及ヒ第三百九十四條ニ照シ重禁錮三月罰金五圓ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ一洲ハ上告セリ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣意ヲ審按スルニ凡テ七條ニ分テ縷陳シ尚ホ追申書ヲ差出シ前趣旨ヲ敷衍擴張セリト雖モ要スルニ被告人ハ本案金圓ノ委託ヲ受ケタルヿ及ヒ之ヲ拐帶シタル所爲決シテ無シ又其犯罪事實ノ證憑トスルニ足ル可キ者毫モ有ルヿナシ然ルニ原裁判官ニ於テ其不充分ナル證憑ヲ以テ有罪ノ處斷シタルハ不服ナリト云ニ過キス抑衆證ヲ採擇シテ其事實有無ヲ判定スルハ治罪法第百四十六條ニ基キ一ニ事實裁判官ノ處分ニ任從スル所ニシテ輒シ之ヲ動カス可カラサル者トス今原裁判言渡書ヲ見ルニ毫モ瑕瑾アルヿナシ且ツ訴訟書類ヲ査スルモ其採用シタル諸證憑ニ於ケル更ニ不適法ノ點アルヿナシ故ニ上告ノ論旨總テ相立タサル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十號

○判文〔證書偽造ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年七月三十日申渡

石川縣加賀國江沼郡月津村
住士族
當時滋賀縣近江國滋賀郡神
出村寄留
田邊智物
明治十五年九月
二十八年九ケ月
二百二十五

滋賀縣近江國滋賀郡大津葛
原町住平民
田中嘉十郎
明治十五年九月
三十一年

右兩名カ僞造證書等被告事件ニ付明治十五年九月廿九日大津輕罪裁判所ニ於テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ノ上放免スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事首藤賴功上告ノ要旨ハ原裁判官ハ採證ノ法ヲ過リ事實ニ齟齬シタル不法ノ裁判ヲ爲シタルヲ以テ之ヲ破毀シテ更ニ至當ノ裁判アランヿヲ望ムト云ヘリ玆ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

凡證據ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルハ事實裁判官ニ任從スル所ニシテ之ヲ治罪ノ一原則ト爲ス今上告ノ趣意ヲ審案スルニ專ラ事實裁判官ノ職權內ニ侵入シ採證ノ當否ヲ論シ事實ノ判定ヲ難スルニ過スシテ治罪法第四十條ニ定メタル上告ノ理由ナキモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ法リ之レカ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十一號

○判文〔無屆不參ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年七月三十日申渡

東京府下谷區上野町一丁目
拾八番地平民
石井新太郎
年齡不詳

右石井新太郎ハ明治十五年八月二日東京始審裁判所ニ於テ無屆不參ノ科ニ付明治十年第五號布告ニ依リ罰金二圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ被告人ハ詞訟事件ニ付明治十五年七月二十六日同二十七日ノ兩日中出頭スヘキ旨ノ命令ヲ受ケタルモ單ニ二十六日ヲ期シ出頭ス可キノ命アルニ非サルヲ以テ七月二十七日出頭シタル處其前日即チ二十六日ニ無屆不參セシ者ト認メラレ罰金ノ言渡アリタルハ不當ナリト云フニ在リテ事實ノ有無ヲ陳辨シ原裁判ニ不服ノ旨ヲ訴フルニ過キス抑大審院ハ法律適用ノ當否ヲ監査スルノ所ニシテ事實ノ覆審ヲ爲スノ所ニ非ス本案事件ノ如キハ原裁判所ニ於テ被告人ハ呼出當日ニ無屆不參セシ者ト判定シ相當ノ處分ヲ爲シタルモノナレハ法律上毫モ不當ト認ムヘキノ廉アルニ非サルヲ以テ上告ノ旨趣總テ相立サルモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十二號

○判文〔窃盜ノ件〕明治十五年十二月十三日上告
同　十六年七月三十日申渡

茨城縣常陸國東茨城郡常盤
村士族皆川寛方同居平民

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月十五日水戸輕罪裁判所カ刑法第百五十五條同第三百六十六條同第九十二條同第百條第三項仍ホ第三百七十五條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ八月ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セスト上告セリ其要領ハ水戸警察署ニテ申述シタル口供ハ腹痛シテ本心ヲ覺知セス皆川源ヨリ植木鉢賣買ノ依頼ヲ受ケタルモ其品ヲ窃取シタルニ非ス之ヲ證セン爲メ加藤友七ヲ召喚アランコヲ請求セシニ之ヲ棄却セラレタリト云ヒ又上告追伸書ヲ以テ原裁判所カ刑法第三百七十五條ヲ適用セラレタルヲ見レハ本罪ハ未遂犯ナルニ同第百十二條ヲ適用セラレス且法律ノ理由ヲ揭ケス突然監視八月ヲ附加スト言渡サレタルハ共ニ不當ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人檢事補若井平世ハ上告趣意ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判ハ允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

治罪法第三百五十七條ニ裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル証人ヲ呼出シ鑑定人ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スコヲ得トアリテ原裁判所カ新ナル證人ヲ必要ナリトセサレハ之カ請求ヲ斥ケタルモ職權内ノ處分ナレハ敢テ違法ナリト云フヲ得ス又原裁判言渡ヲ見ルニ皆川源ノ植木鉢三個ヲ竊取シタルモノト認定セシモノナリトハ見ルニ足ルモ其未遂犯ニ係ルトノ事實理由ヲ揭ケス突然刑法第三百七十五條ヲ適用シテ同第百十二條ヲ適用セス且監視八月ヲ附加スト言渡スニハ之カ法律ノ正條ヲ明示セスンハアルヘカラサルニ明示セス即チ法律ノ理由及ヒ事實ノ理由ヲ欠キタル治罪法第四百十條第九項ニ適當スル上告ノ理由アルモノト判定ス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ栃木輕罪裁判所ニ移ス者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十三號

○判文（毀棄器物ノ件）明治十五年十二月廿三日上告
同十六年七月三十日申渡

愛媛縣伊豫國西宇和郡高野地
村平民　宇都宮鶴松
明治十五年八月
四十五年

右鶴松カ被告事件ニ付明治十五年八月十八日大洲治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ今長谷學校ノ段楷子ノ裏板ヲ蹴破リタルモノトシ刑法第四百二十一條ニ照シ重禁錮十五日ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事代理警部補村上政行カ上告ヲ爲スノ要旨ハ刑法第四百二十一條ニ依照スルキハ重禁錮又ハ罰金ノ内ヲ單ニ適施スヘキ法章ナルニ重禁錮十五日ニ處シタル上仍ホ罰金ヲ附加セシハ不當ナリト又本院檢事加納久宜ハ上告ニ對スル意見ヲ陳述シ且附帶上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告カ所爲ハ刑

法第四百十七條ニ該當スルモノニシテ之ニ同第四百二十一條ヲ適用シタルハ擬律錯誤アル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ因テ之ヲ審按スルニ刑法第四百十七條ニ曰ク人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリテ其建造物ニ附着スル壁或ハ二階梯子段等ノ如キハ卽建造物ノ一部分ニシテ之ヲ毀壞スルトキハ本條ノ支配スル處ナリ今承審官カ確認スル被告事件ノ事實ニ於テハ本院檢事附帶上告旨趣ノ如ク刑法第四百十七條ヲ適用スヘキヲ至當ナリトス然ルニ原裁判茲ニ出テス刑法第四百二十一條ヲ適用セシハ不當ナルノミナラス該條ヲ適用シナカラ罰金ヲ附加シタル共ニ擬律ノ錯誤アル裁判ナリト判決ス

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ法リ本院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

宇都宮鶴松

被告犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ認定スル處ニ依リ刑法第四百十七條ニ照シ重禁錮一月以上五年以下罰金二圓以上五十圓以下ノ範圍內ヲ以テ處斷スヘキ處酌減スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條及ヒ同第七十條ニ依照シ本刑ニ二等ヲ減輕シ重禁錮十五日ニ處シ罰金二圓ヲ附加スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十四號

○判文(官金費消等ノ件ニ付裁判管轄ヲ移ス件)明治十六年四月廿五日上告
同十六年七月三十日申渡

山形縣羽前國南村山郡鶴脛町士族　山口政恒　明治十六年二月二十六歳一ケ月

右政恒カ官金ヲ擅ニ費消シタルト賭博犯者ヲ故縱シタリトノ被告事件ニ付明治十五年十二月二十七日山口輕罪裁判所豫審掛ニ於テ其故縱事件ハ證憑充分ナラサルヲ以テ免訴シ官金費消事件ハ刑法第二百八十九條ヲ適用スヘキ重罪ナリトシ山口重罪裁判所ヘ移スト終結言渡ヲ爲シタルヲ不當ナリトシ故障申立原裁判所會議局ニ於テ之ヲ審理中明治十六年二月七日ヲ以テ政恒ハ裁判管轄ヲ移ス訴狀ヲ差出シタリ其趣旨ハ政恒ハ刑法上罰セラルヘキ所爲アルニアラス全ク無罪者ニシテ告發人宮原貞亮ハ却テ曲者ナリト雖トモ同人ハ山口警察署長ニシテ證人等ハ皆其指揮ヲ受ケ務ニ服スル身分ナル巡査ナリ加フルニ山口輕罪裁判所ノ裁判官檢察官ハ共ニ貞亮等ト親密交際アルモノナルヲ以テ既ニ豫審及ヒ會議局ノ審判上法律ニ背キ越權ノ處分比々之アリ頗ル嫌疑ト危險ノ恐レアルニ因リ公安ノ爲メ他ノ裁判所ヘ管轄ヲ移サレンコトヲ請求スト云ニ在リ茲ニ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長渡邊驥ノ意見書ニ依リ之ヲ判決スル左ノ如シ

訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シ得可キハ嫌疑ノ爲メニスル場合ニ限ルモノトス而シテ其場合ハ卽チ治罪法第四百五十四條ニ明示アル如ク被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ摸樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル時是ナリ本案訴訟書類ヲ查閱ス

ルニ被告人山口政恒ノ身分ハ山形縣ノ一士族ニシテ山口縣ノ巡査ヲ奉務セシモノヽミ其訴訟ハ官金費消等ノ事件ニ係リ而シテ別ニ地方ノ民心ニ關係ヲ保ツヘキ摸樣アルヲ見ス要スルニ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移スヘキ原由更ニ之ナキ者トス因テ上訴ハ棄却スルモノ也

大審院會議局ニ於テ

山形縣羽前國南村山郡鶴脛
町士族
山口政恒
明治十六年一月
廿六歳

右政恒カ擅ニ官金ヲ費消シ及ヒ賭博犯者ヲ故縱シタリトノ被告事件ニ付山口輕罪裁判所ニ於テ豫審中ノ處分ニ對シ故障申立シニ付明治十六年一月三十三日同裁判所會議局ニ於テ之ヲ審理シ故障ノ申立ハ相立スト判決セリ

政恒ハ其判決ヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨ハ第一豫審判事補ハ治罪法ノ規則ニ背キタル召喚狀ヲ發シナカラ被告人カ其日時ニ出廷セサルトテ勾引ノ上勾留シ且ツ一度ノ訊問モ無ク收監狀ニ換ヘ其令狀ニ被告人カ未タ取調ヲ受ケサル官金窃取ト賄賂受收トノ被告事件ヲ記載シタルハ越權ノ處分ナリトノ故障申立ノ爲シタルニ原會議局ハ故障ノ趣意ト相違シタル條件ニ付判決ヲナシタリトノ第二被告事件ノ告發人及ヒ證人等カ僞證誣告ノ所爲アルコトヲ豫審判事補ニ告發シタルニ同判事補ハ之ヲ審理セサルノミナラス檢事ノ意見ヲ聽カスシテ棄却シタルハ治罪法第百十四條ニ背キタリトノコト第三豫審調書中陳述ノ變更增減ヲ請求スレトモ採用セス謄本ヲ請求スレトモ附與セス又被告人カ陳述ハ其半ヲ採錄シ誣告者カ陳述ハ充分ニ錄取スルニ付異議ノ申立ヲ爲シタレトモ認可セス是皆越權ノ處分ナリトノ第四豫審中被告人カ指名ノ證人ヲ召換セス證憑集取ノ請求ヲモ採用セス却テ誣告者カ指名スル僞證人ヲ召喚シ證言セシメタルハ不法ナリトノ第五豫審判事補ハ詐言ヲ以テ被告人ヲ訊問シ治罪法第百五十條ニ背ケリトノ第六豫審判事補ハ誣告者トモ云フヘキ告發人及ヒ證人等ニ被告人カ調書ノ謄本ヲ下付シ之ヲ携帶セシメテ被告人ト對質訊問シタルハ越權ノ處分ナルニ原會議局ニ於テ越權ニアラスト判決シタルハ不當ナリトノ第七收監狀ニ記載シタル官金窃取ト賄賂受收トノ二條件ニ付故障ヲ申立タルニ原會議局ハ賄賂受收ノ點ニ付判決ヲナサヽリシトノ第八被告人ニ送達シタル原會議局判決書ハ契印及ヒ官署ノ印ヲ押捺シアラサレハ治罪法第二十五條ノ規則ニ背ケル言渡ナリトノ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告第二第三第四第五ノ趣旨ハ尙是豫審中ノ處分ニ付不當ヲ論告スルモノニ係リ而シテ訴訟書類ヲ查閱スルニ被告人カ原會議局ニ向テ判決ヲ請求シタル故障ノ點ハ豫審中法律ニ背ケル令狀ヲ發シタルト告發人及ヒ證人ニ被告人カ陳述書ノ謄本ヲ下附シタル等ノ條件ニ止リ右第二乃至第五ノ如キハ未タ曾テ會議局ノ審判ヲ經サル條件ナルヲ以テ茲ニ上告ノ原由ト爲シ論擧スルヲ得サルモノトス而シテ上告第一ノ趣旨ニ付原豫審掛カ令狀ヲ發シタル摸樣ヲ監查スルニ皆治罪法第百十八條以下ノ規則ニ從ヒ其職權上爲シ得ヘキ手續ヲ履行シタルモノニシテ更ニ違法ノ處分アルコト無シ且ツ被告事實ノ訊問ハ前ノ豫審

掛ニ於テ既ニ之ヲ爲シタル末後ノ豫審掛カ繼續受理シタルモノナルヲ以テ一度ノ訊問ヲモ爲サスシテ收監狀ニ換ヘタリト爲スヲ得ス故ニ原會議局ニ於テ背法ノ令狀ニアラス越權ノ處分ニアラスト爲シタルハ相當コシテ又毫モ故障ノ點ト相違セシ判決ニアラス上告第六ノ趣旨ヲ案スルニ元來豫審判事等裁判官タルモノハ謄本下付ノ如キ事務ヲ管掌スルモノニアラサレハ假令告發人等ノ手ニ之ヲ携帶シ居ルモ以テ直ニ同掛リカ下付シタルモノト速了ス可カラス又對質ノ際書類ヲ携帶スヘカラストノ制限ナケレハ之レヲ制止セサリシトテ越權ノ處分トナスヲ得ス上告第七ノ趣旨ヲ按スルニ其論點ハ豫審判事補ニ於テ官金窃取ト賄賂收受ノ犯罪ニ適用スヘキ刑法ヲ令狀ニ記載シタルハ不當ナリト云フニ歸シ而シテ原會議局判文ニ特ニ賄賂收受ノ條件ヲ明言セサルモ〔其收監狀ニ罰スヘキ正條ヲ掲ケタルハ治罪法第百二十九條第二項ノ成文ニ基キタルモノナレハ〕云々ト說明シタレハ即チ令狀中ニ刑法ヲ掲記シタルノ不當ナラサル理由ニ付既ニ充分ノ判定ヲ與ヘタルモノトス上告第八ノ趣旨ヲ按スルニ判決書ノ謄本等ヲ送達スルハ總テ書記局ノ管掌ニシテ會議局即チ裁判官ノ責任ニアラス故ニ假令其送達シタル謄本ニ式ノ如ク捺印アラストスルモ之ヲ以テ其判決ヲ不法ナリトナスヲ得ス

以上判示スル通上告ノ論旨總テ相立タサヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十五號

○判文〔强盜未遂ノ件〕明治十五年十二月七日上告
同　十六年七月三十一日申渡

愛媛縣伊豫國上浮穴郡小田村平民　井上友次郎
同縣同國下浮穴郡川井村平民　森寅三郎

右兩名カ被告事件ニ付明治十五年九月廿二日宇和島輕罪裁判所ニ於テ被告ノ所爲ハ强盜未遂犯ニシテ重罪ナルヲ以テ管轄違ナルニ付治罪法第三百六十條同第三百六十一條ニ依リ宇和島輕罪裁判所ノ會議局ニ送付スル旨言渡タル處同裁判所檢察官ハ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告カ所爲ハ新法實施前ニ係ルヲ以テ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ强盜律改正條其兇器ヲ持スル者ハ財ヲ得スト雖モ云々トアルニ照シ井上友次郎ハ懲役終身ニ適シ森寅三郎ハ往キニ松山裁判所ニ於テ竊盜再犯杖六十ノ處斷ヲ受ケタルニ付强盜初犯ヲ以テ論シ終身ノ刑ニ一等ヲ加ヘ絞ニ該ルモ尙ホ懲役終身ニ止ムモノトス新法ニ於テハ刑法第三百七十八條ノ輕懲役ニ適スルモ未遂犯罪ナルカ故ニ同第百十三條ニ據リ一等ヲ減スレハ同第六十九條二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該ル然ルニ二人以上兇器ヲ携帶シタルヲ以テ同第三百七十九條ニ據リ二等ヲ加ヘ三年以上七年以下ノ重禁錮ニ處シ同第三百八十四條ニ據リ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收ス可キモノトス依テ輕キ新法ニ從ヒ明治十五年司法省丙第二十一號達ニ據リ宇和島輕罪裁判所ニ於テ審判ス可キモノトス然ルヲ原言渡此ニ出サルハ治罪法第四百十條第三項ノ原由アル不法ノ言渡ナリト

云フニ在リ依テ本院撿事加納久宜ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

治罪法第三百六十條ニ被告事件重罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ云々同第三百六十一條ニ被告事件豫審ヲ經タル時ハ之ヲ其裁判所ノ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シトアルニ由テ之ヲ觀レハ原裁判所カ其自カラ重罪ナリト認視シタル事件ニ對シ之ヲ同裁判所會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲シタルハ敢テ之ヲ法律ニ背キタル言渡ナリト云フヲ得ストス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ照シ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

於大審院撿事加納久宜立會宣告ス

第千八十六號

○判文〔窃盜ノ件〕明治十五年十二月十二日上告
同　十六年七月卅一日申渡

岡山縣備中國下道郡原村平民農業
岩澤平三郎
明治十五年八月
十四年十一ヶ月

窃盜被告事件ニ付明治十五年八月廿八日玉島治安裁判所ニ於テ岡山輕罪裁判所カ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條及ヒ第八十條第八十五條第八十六條第七十一條ニ依リ十日ノ拘留ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部補松本照太郎ハ上告セリ其要領ニ曰被告平三郎カ窃盜ノ罪ハ宥恕減輕自首減輕ニ因リ五等減ニ該ルモノナルモ其四等ヲ減スレハ減シ盡シテ刑法第七十一條ニ依リ違警罪ニ處スヘキモノタルヤ明瞭ナリ然ラハ則チ其五等減中剩ル一等ハ違警罪即チ拘留ノ刑ニテ仍ホ減輕スヘキモノナルニ原裁判所ハ之カ減輕ヲ與ヘス拘留十日ノ刑ヲ言渡タルハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムトノコ

對手人岩澤平三郎ハ撿察官上告ニ付別ニ意見ナシト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會撿事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第七十一條ニ禁錮ヲ減シ盡シタルトキハ拘留ニ處スヘキヲ命令セシニ止リ本案平三郎カ被告事實ノ如ク其減輕五等ニ當該スルト雖モ既ニ四等ニテ減シ盡シ拘留ノ刑ト爲リタル上ハ其剩レル一等ヲ拘留ノ刑ノ中ニテ之ヲ減輕スヘキトノ律意アルヿナシ因テ上告趣旨相立タサルモノトス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ撿事加納久宜立會宣告ス

第千八十七號

○判文〔窃盜ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年八月一日申渡

熊本縣熊本區阿彌陀寺町平民
池田德太郎
明治十五年七月
十四年五月

右德太郎カ被告事件ニ付明治十五年七月二十五日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年七月十七日山鹿郡岩原村島田長十宅ノ竹垣ヲ推分ケ潛リ入リ井水ヲ飲居リタルヲ差押ヘラレ當時竊盜ヲ爲サントノ念慮ナリト答ヘタルヿ明白ナリトス此行爲タルヤ夜間人ノ邸宅ニ入リタルノ證アルモ被告人ニ於テ窃盜ヲ爲サントノ念慮ナリト

ハ其陳述ニ止マリテ窃盗ヲ爲サントスル景狀ノ証スヘキナケレハ直チニ之ヲ採テ窃盗未遂ノ罪ト爲スヲ得可カラサルニ依リ刑法第百七十二條第百七十一條第一項ニ照シ夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入リタルノ罪トナシ一月以上一年以下ノ重禁錮ノ處一等ヲ加重シ一月七日以上一年三月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ者トス因テ被告人德太郎ニ對シ重禁錮二月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ上告ノ要領ハ第一被告ハ窃盗ヲ爲サントノ念慮ニテ竹垣ヲ潛リ他人ノ邸内ニ立チ入リタレハ窃盗未遂犯ヲ以テ論シ而シテ被告ハ十六歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十條ニ依リ減等スルヲ允當トスヘシ第二被告ハ假リニ窃盗未遂犯ヲ以テ論スヘキ行爲ナキニモセヨ晝間人ノ邸宅ニ侵入シタル者ナレハ夜間人ノ邸宅ニ入リタリトノ裁判ハ擬律ノ錯誤亦甚シト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案被告カ所爲ハ原判文ニ明示セル如ク元來窃盗ノ目的ヲ以テ故ラニ竹垣ヲ越ヘ人ノ邸宅ニ入リタルトノ自白アレハ之ヲ以テ故ナク人ノ邸宅ニ入リタル者ト判定スルヲ得ス即チ窃盗ノ目的ヲ以テ島田長十ノ邸宅ニ侵入シタルモノナルカ故ニ窃盗未遂犯ヲ以テ論シ右科刑法第三百六十六條及ヒ刑法第三百七十五條ニ因リ仍ホ第百十二條ニ照シ本刑二月以上四年以下ノ重禁錮ノ範圍ヨリ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ノ範圍ニ於テ刑ヲ科スヘキ處被告ハ十六歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十條末項ニ照シ本刑ニ又二等ヲ減シ十五日以上一年以下ノ重禁錮ノ範圍ニ於テ一月十五日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ依リ監視ニ付スヘキモノトス然ルニ原裁判所ノ判決爰ニ出ス夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入リタル云々ノ條ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ原裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

但シ告訴狀ニ依レハ被告カ島田長十宅ノ垣ヲ破リ潛リ居リタルハ午後一時頃トアリテ夜間ニハ非サレヒ被告カ所爲ハ窃盗未遂犯ヲ以テ論スルキハ晝夜ノ區別ハ刑ニ差違ナキニ因リ殊更ニ辨明ヲ要スルノ限ニ在ラストス

池田德太郎

右ニ辨明スル如ク被告カ所爲ハ刑法第三百六十六條及ヒ第三百七十五條ニ依リ仍ホ第百十二條ニ照シ重禁錮二月以上四年以下ノ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ノ範圍ニ於テ處斷スヘキ處被告ハ十六歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十條末項ニ照シ本刑ニ又二等ヲ減シ十五日以上一年以下ノ重禁錮ノ範圍ニ於テ一月十五日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十八號

○判文〔竊盗ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年八月一日申渡

愛媛縣伊豫國北宇和郡丸穗
村平民人力車夫
宮川熊太郎
明治十五年十月
三十三年
二百三十九

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月十六日宇和島輕罪裁判所カ二罪ニ渉ルヲ以テ刑法第百條同第百九條ニ照シ一ツノ重キ同第三百六十八條ノ本刑ニ一等ヲ減シ六月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事竹岡丕仲ハ上告セリ其要領ハ被告熊太郎ハ角田長太郎カ塀ヲ越ヘ家宅內ノ物品ヲ竊取スルヲ戶外ニ瞭望シ又長太郎ヨリ竊盜ノ賍タルヿヲ知テ金物珊瑚等ヲ貰ヒ受ケ又不正ノ情ヲ知テ紺縮緬帶外一品ヲ質入レノ牙保ヲ爲シタル三罪ニテ一ノ重キ踰越竊盜ノ從犯ヲ以テ論シ監視ヲ附加スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ擬律錯誤ナリト云フニアリ

對手人宮川熊太郎ハ原裁判允當ナリトノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑法第二章第一節第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアリ本案熊太郎カ被告事實ハ現ニ刑法第二章第一節ニ揭載アル即チ第三百六十八條ノ從犯ナリト斷定セシモノナレハ相當ノ監視ヲ附加スヘキモノタル明瞭ナルニ原裁判所ハ本刑重禁錮ノミ言渡シ刑法第三百七十六條ヲ適施セサルハ擬律錯誤ナリト判定シ治罪法第四百三十一條ニ依リ附加監視ノ一部分ニ對シ直ニ裁判スル左ノ如シ

宮川熊太郎

前ニ辨明スル如クナルニ因リ刑法第三百七十六條六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依リ被告宮川熊太郎カ本刑ニ監視十月ヲ附加スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千八十九號

○判文〔官吏職務妨害ノ件〕明治十五年十二月七日上告
同　十六年八月一日申渡

廣島縣安藝國佐伯郡玖波村
居住平民大工職
新枝八重吉
明治十五年六月
二十八年

右八重吉カ被告事件ニ對シ明治十五年六月五日廣島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年四月十六日巡査大矢千本ヘ對シ惡口申掛ケタルヿヲ以テ同人カ廿日市分署ヘ引致セントスルニ際シ猶ホ暴行ヲ以テ抗拒シ同人ヲ毆打シ爲メニ創傷ヲ爲シ五日間疾病休業ニ至ラシメタルモノト認定シ刑法第百三十九條第一項同第百四十條同第三百一條第二項同第百四十一條第一項同第百條第一項同第三項ニ照シ一ノ重キ右第百三十九條ニ依リ處斷スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヿヲ以テ同第八十九條第一項同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ二月ノ重禁錮ニ處シ二圓五十錢ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ右八重吉カ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告ハ當時酒氣ノ爲メニ精神ヲ錯亂シ巡査ニ對シ暴行罵詈ヲ爲シタルカハ勿論誰人ニ對シ之ヲ爲シタルヤヲ覺知セサルヿヲ以テ未タ犯罪ノ成立セサルモノトス今仮リニ一歩ヲ讓リ罪トナルヘキ條件アリトスルモ被告ハ當時酒氣ニ乘シ之ヲ爲シ其官吏ニ對スルヿタルヿヲ知ラサレハ刑法第百三十九條ニ照シ處斷セラルヘキモノニ非ス又巡査大失千本ニ於テ毆傷ノ爲メ七日間ノ休業ヲ爲シタリト云フモ同人ニ於テ被告ヲ拘引シ即時訊問セル位ナレハ七日間ノ休

業ヲ爲スヘキ理ナシ故ニ被告ハ刑法第三百一條第三項ノ本刑ヨリ減輕セラルヘキナルニ原裁判茲ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ因テ本院檢事加納久宜ノ陳述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告論旨ハ渾ヘテ原裁判官カ特有ノ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定ニ對シ徒ニ不服ヲ鳴スモノニ過スシテ治罪法第四百十條各項ノ規程外ニ涉ル即チ上告ヲ爲スヲ得ルノ原由之ナキモノナルニ因リ同法第四百二十七條ニ照シ之ヲ棄却スル者也

於大審院檢事加納久宜立會宣告ス

第千九十號

○判文〔囚徒逃走ノ件〕明治十五年十二月十三日上告
同　十六年八月一日申渡

青森縣陸奥國東津輕郡新茶屋町四十四番地平民理髮職
當時函館監獄署已決囚
小笠原藤吉　明治十五年十月　二十二歳七ヶ月

函館縣函館區西川町一番地
平民日傭稼
當時函館監獄署已決囚
小松久五郎　明治十五年十月　二十二歳十ヶ月

囚徒逃走被告事件ニ付明治十五年十月四日函館輕罪裁判所ニ於テ右被告人兩名ノ所爲ニ對シ刑法第百四十二條同第百四十五條同第百四十九條同第百十二條ニ照シ重禁錮一月十五日ニ處スト言渡シタリ

原裁判所檢事補須賀勞則ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタルノ趣旨ハ被告人等ハ同意シテ獄窓ヲ毀壞逃走シタル犯蹟アリ其證ハ被告小松久五郎小笠原藤吉カ函館縣警部補品川篤次郎ノ面前ニ於テ爲シタル調書ニ其逃走ヲ共謀シタル口供相齟齬セリ其齟齬スル所以ハ互ニ事實ヲ隱蔽スル者ト謂ハサル可ラス然ルニ裁判官ハ之ヲ審問セス輙ク刑法第百四十二條第一項ニ依リ處斷シタルハ不法ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ論旨ハ被告人等カ不吻合ノ供述ニ因リ審理ヲ盡サスシテ裁判ヲ爲シタルハ專恣ノ所分ナリト謂フニ在レトモ原裁判所ハ逃走ノ主謀者ナル亡住田金平カ毀ヲ置タル場所ヨリ各自脫出シタル者ト認定シタル者ナレハ其事實ヲ論難シテ上告ノ原由ト爲スヲ得ス然レトモ原裁判所カ證憑トシテ擧示シタル所ハ被告事件ニ付相當官吏ノ作リタル調書檢察官ノ意見被告人ノ答辨是レナリ今其調書及ヒ函館監獄署逃走場所ノ圖面等ニ依リ之ヲ査閲スルニ被告小笠原藤吉小松久五郎ハ亡住田金平供々監獄署內食室廊下ノ窓ヨリ潛出シ表板塀ヲ乘越ヘ逃走シタルヲ見認メタレ直ニ看守押丁等追跡シ藤吉ハ該署ヨリ北ノ方二丁程隔リタル高砂町九番地便所ニ於テ久五郎ハマツヲ製造所ノ近傍ニ於テ捕押ヘラレタル證據アル者ナレハ逃走已遂犯ト言ハ

サル可ラス然ルニ裁判官ハ如此事實ノ證憑ヲ擧示シナカラ未遂犯罪ノ例ニ照シ處斷シタルハ乃チ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ原裁判言渡ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ大審院ニ於テ直ニ裁判スルヿ左ノ如シ

小笠原藤吉
小松久五郎

原裁判所カ擧示シタル犯罪ノ事實及ヒ證憑ニ因リ囚徒逃走ノ犯罪ナリトス依テ刑法第百四十二條第一項ニ依リ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ處囚徒三人以上通謀シテ逃走シタルニ付刑法第百四十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ一月七日以上七月十五日以下ノ範圍内ニ於テ各重禁錮四月ニ處スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千九十一號

○判文〔樹木盜伐ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年八月一日申渡

千葉縣上總國夷隅郡小土呂
村平民農業
有家市郎兵衛
明治十五年十月
六十一年
同縣同國同郡同村平民炭燒
業
關吉左衛門
明治十五年十月
六十四年

右被告事件ニ付豫審終結故障ノ申立ニ對シ明治十五年十月十八日千葉輕罪裁判所會議局ニテ被告カ故障ノ趣意ハ豫審判事カ證憑ニ因リ之カ事實ヲ推測シ輕罪ノ所爲ト見認メ本衙ヘ移スノ言渡ヲ爲シタルハ固ヨリ職權ニシテ又被告ハ事實ニ付喋々スルモ治罪法第二百四十六條ノ明文アルニ依リ故障ヲ爲スヲ得サルモノナルヲ以テ豫審判事ノ言渡ヲ認可スト判決シタル處被告市郎兵衛外一名ハ之ヲ不法トナシ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ豫審掛カ證憑ニヨリテ推測ヲ下タシ一方ノ證憑ヲ質サスシテ終結爲セシハ所謂證憑ナキナリ且ツ被告カ所爲ハ伐木セシ所ノ山林ハ被告ノ所有ト確認スルヲ以テ伐採シタルモノニテ固ヨリ有心故造ノ所爲ニアラサレハ犯罪者タラサルニ會議局ハ豫審判事カ千葉輕罪裁判所ヘ移スノ言渡ヲ認可シタルハ不法ナリト云フニアリ因テ任專判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ上告ノ旨趣ハ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル採証法ト事實判定ノ當否ヲ辨論シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ上告ヲ爲スノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ヲ棄却スル者也

於大審院檢事加納久宜立會宣告ス

第千九十二號

○判文〔毆傷及ヒ恐喝取財ノ件〕明治十五年十二月二日上告
同　十六年八月二日申渡

大分縣豊前國宇佐郡上矢部
村平民農　山口仁六　明治十五年九月
二十八年三月
立石彌六　明治十五年九月
二十一年五月
岩尾壽六　明治十五年九月
二十一年九月
山口武六　明治十五年九月
二十一年一ケ月
山口伊太忠　明治十五年九月
十八年一月

明治十五年九月十四日中津輕罪裁判所ニ於テ右山口仁六外四名ノ被告事件ヲ審判シ犯罪ノ證憑充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補伴政埠ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人等カ野崎勘一ヲ毆打創傷シ及ヒ勘一ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取シタルノ事實證憑明白ナルニ因リ法律ニ照シ處斷ス可キヲ原裁判所カ證憑不充分トシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律其當ヲ得サルナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告人等カ野崎勘一ヨリ三味線衣類等ヲ領受シタル所爲ニ對シ恐喝シテ財物ヲ騙取セリト認ム可キ證憑充分ナラスト判定シタルハ不當ノ裁判ト謂フヿヲ得ス然リト雖ヒ其言渡書ニ被告人等カ野崎勘一ヲ逮捕シタルハ勘一ナルヿヲ知リ故ラニ爲シタル證據不充分ナリトアルニ依レハ擅ニ人ヲ逮捕シタルノ事實ヲ認メタル者ナルニ仍ホ證據充分ナラスト判定シタルハ即チ言渡理由ノ齟齬アル者ト謂ハサルヲ得ス且本案公訴ノ主點ハ毆打創傷事件ニシテ被告人ノ自白醫師ノ診斷書等ニ依リ被害者ノ現ニ疾病休業ニ至リタル事實明瞭ナルニ其毆打創傷事件ニ對シテハ何等ノ判決ヲ下サスシテ輙ク無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ即チ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サヽル者ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判ハ治罪法第四百十條第七項第九項ノ場合ニ適當スル破毀ノ原由アルニ因リ同第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ福岡輕罪裁判所小倉支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千九十三號

○判文（竊盜ノ件）明治十五年十二月十六日上告
同　十六年八月二日中渡

熊本縣肥後國玉名郡二俣村
平民源次郎長男水車職
木村丈平　明治十五年十月
二十七年
二百四十七

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月六日山鹿治安裁判所ニ於テ熊本輕罪裁判所カ刑法第七十七條ニ依リ其罪ヲ論セスト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部本多素一ハ上告セリ其要領ハ被告丈平ハ姦事ヲ爲サント謀計ヲ工ミニシ竊盜ニヨリ其望ヲ遂ケントスルニ原由セシモノナルニ原裁判所ハ無意犯ナリトシ刑法第七十七條ヲ適用シ處斷シタルハ不法ナリト云フニアリ

對手人木村丈平ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證憑ニ照シ「ツダ」カ寢所ヘ忍入リタルハ痴情ノ爲メナリシヿハ明亮ニテ被告人ハ成ルヘク「ツダ」カ覺ラサルヲ要スヘキニ故ラニ「ツタ」ノ手ヲ握リ又銀釵ヲ拔取リタルモ之ヲ掩終ラスシテ「ツタ」カ指環ヲ以テ姦事ノ誓約ヲ立タルヨリ異議ナク之ヲ返還シタル者ナレハ被告人カ目的ハ銀釵ヲ窃取ルニ在ラスシテ銀釵ヲ以テ痴情ノ媒介トスルニ在リ故ニ被告人カ竊盜ノ罪ヲ犯スニ意ナキヿハ亦自ラ判然タリトノ事實ノ理由ヲ付シ無意犯ナリト認定セシモノニ對シ之ヲ非難スルモ事實認定ハ原裁判所ノ特任スル權内ニテ輙ク侵入シ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得サレハ即チ治罪法第四百十條ノ第一ヨリ第十一ニ至ル定規ニ適當セス因テ上告ノ趣旨相立タス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千九十四號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿日上告
同　十六年八月二日申渡

岡山縣備中國上房郡百濟村
平民石工　西

明治十五年七月
長平
二十七年

窃盜被告事件ニ付明治十五年七月三日高梁治安裁判所ニ於テ岡山輕罪裁判所カ所犯刑法實施前ニ係ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ其輕キ刑法第三百六十六條同第八十九條同第九十條ニ依リ一月十五日ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部丹羽次郎ハ上告セリ其要領ハ被告長平ノ事實ハ新法實施前ノ犯罪ヲ實施ノ後自首セシモノニテ舊自首法ハ依然存在セシモノナレハ特リ本罪ノミナラス其自首ヲモ新舊法ヲ比照シ其輕キニ依リ處分スヘキモノナルニ原裁判所ハ單ニ刑法第三百六十六條ヲノミ適用シ處分セシハ不法ナリト云フニアリ」

對手人西長平ハ原裁判至當ナリト心得タレハ別ニ申立ルヿナシト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルニ

西長平カ被告事實ハ明治十二年中ノ犯罪ニテ其後處々潛匿セシモ逃レ難キヲ覺リ明治十五年六月廿五日自首セシモノタルハ原裁判所ノ認ムル處ナリ然ラハ則チ明治十四年第八十二號布告第十二條ニ新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタルモノヲ以テ本刑ト爲ストアルニ照シ被告長平ノ自首ハ新法實施後ニ係ルモノナルニモセヨ本罪新法實施前ニアレハ本罪ノ上自首減輕シタル後ニアラサレハ新舊法ヲ比照シ得ヘキモノニアラサルニ

原裁判所ハ其本罪ノミ新舊法ヲ比照シ自首減輕ニ至テ單ニ新法ニノミ問擬セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ私訴ニ係ル裁判ヲ除クノ外全部ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

西長平

高梁治安裁判所ニ於テ岡山輕罪裁判所カ右長平ニ對シ明治十五年七月三日裁判言渡タル其事實ノ理由及ヒ證憑トニ依リ窃盗ノ罪ヲ犯シ自首シタルヿ明白ナリ卽チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百六十六條八ノ所有物ヲ窃取シタル者ハ窃盗ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此ノ節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル首出ニ係ルモ官ノ捕獲セント欲スルヲ知リタル後ナルニ因リ同第八十五條ヲ適用スヘキ限リニアラス然リト雖モ酌量スヘキ情狀アルヲ以テ一等ヲ減輕シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮トナル

而シテ所犯新法實施前ニ係ルヲ以テ之ヲ舊法ニ照スニ賊盗律窃盗條其盗贓估計金壹圓以上懲役六十日官ノ捕獲セントスルヲ知テ自首スルニ付改定律例第五十九條ニ依リ一等ヲ減シ懲役五十日情狀ヲ量リ一等ヲ減シ同四十日ニ該ル

因テ刑法第三條及ヒ明治十四年第八十二號布告ニ依リ新舊法ヲ比照シ其輕キ舊法ニ從ヒ西長平ヲ懲役四十日ニ處スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千九十五號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十一月十六日上告
同　十六年八月三日中渡
山口縣長門國阿武郡萩古魚
棚町居住平民
河村豊三郎
明治十五年五月
二十三年十ケ月

右豊三郎カ被告事件ニ付明治十五年五月十三日萩治安裁判所ニ開キタル山口輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年三月中石田利三郎及ヒ平田吉五郎方ニ至リ種々詐言ヲ以テ衣類ヲ騙取シタル者ト判定シ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ及ヒ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告豊三郎上告ヲ爲スノ要旨ハ石田利三郎外一名ノ衣類ハ借受ケタルモノニテ全ク騙取シタルニ非ス然レハ借用物費消ニ問ハルヽモ詐欺取財ヲ以テ論セラルヽノ理ナシト云フニ在リ對手人警部久芳正吉ハ被告カ詐欺取財犯ナルハ明瞭ニシテ原裁判ハ至當ナリト答辯セリ

爰ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

本按上告ノ旨趣ハ凡テ事實ニ止リ畢竟原裁判官カ衆證ニ據リ職權ヲ以テ爲シタル事實判定上ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由トナスヲ得サルモノニシテ到底原裁判ハ毫モ破毀ヲ求ムヘキ法律ノ瑕瑾アルヿナシ因テ治罪法第四百二十七條ニ法リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ撿事池上三郎立會宣告ス

第千九十六號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十一月三十日上告
同　十六年八月三日申渡

栃木縣下野國鹽谷郡上高根澤村平民　赤羽甚吉　年齢不詳
同縣同國那須郡南向田村平民　麺山仙松　明治十五年七月
同縣同國芳賀郡大谷津村平民　川又要松　明治十五年七月　三十年

右甚吉外二名カ賭博被告事件ニ付明治十五年七月十七日宇都宮輕罪裁判所ニ於テ犯罪ノ証憑充分ナラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルヲ不法トシ原裁判所撿事補須古織之助ハ上告ヲ爲シタリ茲ニ之ヲ按スルニ本件ノ裁判言渡ハ明治十五年七月十七日ニシテ同月十九日上告申立ヲナシ其八日目即チ二十六日ニ趣意書差出シタルモノナレハ治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ云々トアルニ悖戻スルヲ以テ同法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアル明文ノ如ク其訴權ヲ失フタルモノトス因テ本件訴旨ノ當否ヲ論スルヲ要セス該上告ハ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ撿事池上三郎立會宣告ス

第千九十七號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月五日上告
同　十六年八月三日申渡

大分縣豊後國大分郡松岡村平民農　安部長次郎　明治十五年十月　二十九年十一月

明治十五年十月十一日大分輕罪裁判所會議局ニ於テ安部長次郎カ豫審終結ノ言渡ニ對スル故障申立ヲ判決シ豫審判事カ被告人ノ所爲ヲ以テ刑法第三百一條ヲ適用ス可キ犯罪ナリトシ爲シタルハ相當ナルニ因リ故障ノ申立ヲ棄却スト言渡シタリ長次郎ハ其判決ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告人ハ藤野由太郎ヲ毆打創傷シタルヿナシ且本件ハ既ニ由太郎ト私和ヲ遂ケ告訴ノ願下ヲナシタル者ナレハ刑法第三百一條ヲ適用セラルヽノ理由ナシト云フニ在リ大審院ニ於テ撿事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

証憑ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ決スルハ裁判官ノ判定ニ任從スル者ナレハ事實ノ有無採證ノ當否ヲ陳辨スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヿヲ得ス又被害者ヨリ告訴ノ願下ケヲ爲シタルモ之ヲ以テ犯罪ノ消滅ス可キ者ニ非ス本件上告ノ如キハ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ於テ一モ適當スル者ナキニ因リ上告ノ理由ナシト確認ス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千九十八號

○判文〔窃盗ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年八月三日申渡

福岡縣筑前國御笠郡太宰府
村平民
木原久次郎
明治十五年七月
五十四年一ヶ月

窃盗被告事件ニ付明治十五年七月二十八日福岡輕罪裁判所カ犯罪ノ證憑不充分ナリトシ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補井上計之助ハ上告セリ其要領ニ曰被告カ借區以外ニ於テ石炭採掘シタルハ盗意ニ爲ルノ著明タルニ原裁判所カ其證憑不充分ナリト認定セシハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムトノヿ

對手人木原久次郎ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證憑ニ照シ窃盗罪アリト認ムヘキ證憑充分ナラスト認定シタル其採證ノ如何ヲ論難スルモ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヿヲ得ス何ントナレハ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ原裁判所カ特任スル權内ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千九十九號

○判文〔官林盗伐ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告
同　十六年八月三日申渡

新潟縣越後國西頸城郡田屋
村平民農
相澤定右衛門
明治十五年七月
六十一年三月
保刈與三左衛門
明治十五年七月
三十二年七月
朝日久藏
明治十五年七月
三十九年四月
小竹文吉

二百五十六

明治十五年七月十一日高田輕罪裁判所ニ於テ右被告六名カ官林盜伐事件ヲ審判シ相澤定右衛門保刈與三左衛門朝日久藏ニ對シ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ヲ適用シ重禁錮一月監視六月ノ刑ニ處シ小竹文吉小竹勝平上谷定治郎ハ年齡二十歲未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮二十二日監視六月ノ刑ニ處スト言渡シタリ被告六名ハ其裁判ニ服セス上告ヲ爲シ趣意書及ヒ辨明書ヲ差出シ被告等カ犯罪ノ証憑ナキ理由ヲ反覆辨明シタリ其要旨ハ被告等カ柴ヲ刈取リタル地所ハ官有山內ニ非スシテ被告等カ共有地所ニ係リ固ヨリ盜伐ノ所爲ニ非ス然ルニ原裁判所ハ村繪圖ヲモ點檢セス又證人ヲモ呼出サスシテ輙ク官林盜伐ノ罪アリト判定セラレシハ不當ナリ且右地所ハ現今境界爭論ノ詞訟中ニ係ルヲ以テ民事ノ裁判確定スルニ非サレハ官林ナリヤ將タ被告等ノ共有地ナリヤ判定セサルニ刑事ノ裁判ヲ以テ土地ノ境界ヲ定メ有罪ナリト斷決セラレタルハ推測ニ出タル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

小竹勝平 明治十五年七月十九年十一月

上谷定治郎 明治十五年七月十八年三月

治罪法第百四十六條ノ後項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ衆證ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ決スルハ專ラ承審官ノ權內ニ在ル者ナレハ其事實判定上ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヿヲ得サルモノトス本案被告事件ノ如キハ原裁判所ニ於テ相當官吏ノ作リタル調書衆證人ノ陳述田屋田伏兩村ノ地引繪圖及ヒ地引帳等ニ據リ被告等ハ官山ニ入リ柴木ヲ伐採竊取シタリトノ事實ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑ニ處シタルモノナレハ毫モ不法ト認ム可キノ點アルニ非サルナリ而テ上告ノ旨趣ハ專ラ土地ノ境界ヲ論辯シ事實證憑ノ有無ヲ陳述シ徒ニ原裁判ニ對シ不服ノ旨ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ヲ爲スヿヲ得ルノ場合ニ於テ一モ適當スル者アルニ非サルヲ以テ上告ノ理由ナシト確認ス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千百號

○判文〔官吏侮辱ノ件〕明治十五年十二月九日上告
同 十六年八月四日申渡 京都府下京區第廿七組塗師屋町平民餅商 淺尾龜太郎 明治十五年八月六十四年生月不知

右龜太郎カ官吏侮辱被告事件ニ付明治十五年八月八日京都輕罪裁判所ニ於テ被告ハ女婿小林直次郎ナル者犯罪アリテ拘留ノ身トナルヲ以テ屢保釋願出スルト雖モ許可セサルヲ不快

ニ存シ明治十五年七月三十一日午後三時飲酒酩酊ノ上本衙ニ出頭シ係リ官小山判事補ニ面會セントスルヲモ同人ハ已ニ退廳セシニヨリ其旨訴所詰ヨリ申聞ルヲ聞入レス尚強談ニ及フニヨリ巡査田中重韶ヨリ之ヲ制止スルモ肯セサルノミナラス劫テ右重韶ニ對シ品々罵詈シタル證憑ハ同人カ告發狀其他ニ依リ犯狀明白ナルモノト認定シ刑法第百四十一條ニ照シ重禁錮六月ニ處シ罰金十圓ヲ附加ス但小山判事補ヲ罵詈シタルモ其目前ニ在ラサルノミナラス同人ヨリ告訴ナキニ因リ之ヲ問ハスト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補小室確爾ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ當該官小山判事補ニ面會ヲ乞フモ已ニ退廳セシニ因リ其旨訴所詰ヨリ申聞クルモ聞入レス强談ニ及ヒタルヿハ載セテ裁判言渡書ニアリ然ラハ其目前ニ非サルモ小山判事補カ行フ可キ職務ニ對シ侮辱シ則チ保釋願ヨリ生スル侮辱タルヤ明カナレハ之ヲ親告セサルトテ不問ニ措クヘキモノニ非ス刑法第百四十一條末段其目前ニ非スト雖モ刑行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者トアリ本件ノ如キハ衆人常ニ出入スルノ官衙ニ於テ人ノ見聞ヲ憚カラサルヤ公然ナリ對手人ナクシテ衆人中高聲ヲ發シ言ヲ述フルヤ演說ナリ究竟スルニ刑法第百四十一條ノ前段ハ官吏ノ目前ニ於テ侮辱スルノ所有ナルニ因リ特ニ形容言語ノ二個ニ止リ其後段ハ間接ニ侮辱スルノ所爲ナルニ因リ刑行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ノ三個ニアリ又前段ニ言語ノ文字ヲ用ヒ後段演說ノ文字ヲ用ユルハ其直接ト間接ノ區別ニ依リ差異アルナラン又言渡書但書中侮辱ノ文字ヲ罵詈トシタルハ裁判言渡後ノ變換ニ係ルヲ以テ其効ナキモノトス右ノ理由ナルニ依リ巡査ノ職務ニ對シ侮辱シタル罪トハ繼續犯トシ其罪ヲ問フヘキモノナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第百四十一條第一項第二項ノ區別ハ法文ニ明示セル如ク第一ハ官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者云々第二ハ其目前ニ非スト雖モ刑行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者云々トアリテ其目前ニ於テスルト否トノ區別ハ勿論其侮辱スル所以ノ方法亦判然區別アリテ自カラ混同スヘカラサルモノアリ本案上告ノ如キ被告龜太郎カ小山判事補ノ職務ニ對シ訴所詰ニ於テ罵詈シタルノ事實ヲ右第二項ニ問ハサルハ不當ナリト云フト雖モ該所爲タルヤ其已ニ目前ニ於テセサリシ事柄ナルハ舍テ論セス和第二項ノ所謂演說ハ固ヨリ第一項ノ言語トハ其體裁自カラ殊別ニシテ彼此相混同スヘカラサルノミナラス其公然ト云爾モ又自カラ區界アリ例ヘハ公衆ヲ集ムルカ又ハ多人數會合ノ席カ若クハ街頭群集ノ中ニ於テスルノ謂ニシテ訴所詰ノ如キ人ノ常ニ出入スル所ヤ或ハ偶然何人カ聽居ル等ノ場合ヲ指シタルモノニ非サレハ則チ被告カ所爲卽チ小山判事補ニ對シ其目前ニ非スシテ訴所詰ニ於テ二三ノ言語ヲ以テ罵詈シタリトノ事實ハ固ヨリ之ヲ右第二項ニ問フヿヲ得ス況ヤ其果シテ同判事補カ職務ニ對シタルトノ事實ハ原裁判官確ト之レカ認定ヲ下サヽルニ於テオヤ若夫レ親告ヲ待ツヤ否ノ事及ヒ言渡書但書中文字ヲ變換シタルヿ（上告書中侮辱ヲ罵詈ト變換シタルトアレトモ原判文ノ謄本ニハ全ク其書入レナシ又上告書中引用ノ原判文ニハ罵詈ヲ本行ニシ傍ラニ侮辱二字ヲ記入セルヲ觀レハ上告書中ノハ誤謬ト認ム）ニ至テハ前述ノ次第ナルニ由リ別ニ辨明ヲ要スルノ限ニアラス右ノ理由ニ付該上告ハ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ之ヲ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百一號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿三日上告
同　十六年八月四日申渡

島根縣出雲國意宇郡雜賀町
第千廿三番地平民
秋鹿熊太郎
明治十五年七月
二十一年

熊太郎カ竊盜被告事件ニ對シ明治十五年七月廿九日松江輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條同法第三百七十六條及ヒ同法第九十二條ニ照シ重禁錮三月ニ處シ監視十月ヲ附加シタル裁判ニ服セス被告熊太郎カ上告ノ要旨ハ被告ハ先久佐兵衛ノ留主宅ヘ忍入リ衣類五點ヲ竊取セリト認定セラレタルハ事實相違スルモノニシテ被告カ携帶セシ所ノ衣類ハ亡祖母ノ所有品ニシテ決テ他人ノ品ヲ竊取セシコトナシ然ルニ原裁判官ハ猥リニ被告ヲ盜犯ト認メ被告カ請求シタル証人ヲ喚問セスシテ只被害者ノ陳述ト盜難届書トニヨリ刑ヲ言渡サレタルハ不妥當ノ審理ニシテ又無事ノ寃罪ニ陷リタリト云フニアリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

本案上告ノ旨趣ハ專ラ事實裁判官ノ職權内ニ侵入シ証憑採擇ノ點ヲ論シ事實ノ判定ヲ難スルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項以外ニ渉ルヲ以テ上告爲スノ理由ナキモノトス

仍テ同法第四百二十七條ニ法リ之レカ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二號

○判文〔官文僞造ノ件〕明治十五年十一月廿四日上告
同　十六年八月六日申渡

新潟縣越後國東頸城郡坪野
村平民農
民事原告人　村山多市郎
同縣同國中魚沼郡伊達村平
民農
民事原告人　保坂千代太郎

新潟縣越後國中魚沼郡伊達村平民上村周太郎同縣同國東頸城郡浦田村平民本山彦吉郎カ官文書僞造等ノ被告事件ニ係ル豫審免訴ノ言渡ニ對シ右民事原告人兩名ヨリ爲シタル故障ニ付明治十五年七月十八日長岡輕罪裁判所會議局於テ故障ノ理由ナキ者トシ豫審官於テ被告カ犯罪ノ證憑充分ナラサルヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ナリトシ右言渡ヲ認可シタル處民事原告人村山多市郎保坂千代太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ犯罪ノ事實明確ナルニ豫審官於テ証據徵集ヲ盡サヽル而已ナラス法律上證人ノ資格ヲ有セサル者ノ陳述ヲ聽キ輙ク犯罪ノ證憑充分ナラサル者トシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ即チ越權ノ所分ナルニ付原裁判所會議局ヘ故障ナシタルニ同會議局於テハ故障ノ理由ナキ者トシ右免訴ノ言渡ヲ認可セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ本院檢事加納久宜於テハ右會議局ノ判決相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨意見ヲ陳述セリ玆ニ之ヲ審判スル左ノ如シ

治罪法第二百四十六條第二項民事原告人ハ私訴ニ付キ越權ノ處分アルニ因リ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スヿヲ得トアリテ私訴裁判上ニ關スル越權處分アルニ非サレハ故障ヲ爲シ得サル者ナリ而シテ今民事原告人カ原裁判所會議局ヘ故障爲シタル旨趣ハ總テ公訴上即チ犯罪ノ處分ニ付彼是不服ヲ唱フルニ過サレハ之ヲ以テ豫審終結ノ言渡ヲ破毀シ得ヘカラサルハ勿論豫審官カ証人トシテ取調タル宮澤治三郎ハ刑法第百十四條第百十五條ニ定メタル被告ノ親屬ニ非サルヲ以テ同會議局於テ故障ヲ棄却シ豫審官カ爲シタル免訴ノ言渡ヲ認可シタルハ相當ニシテ上告ノ旨趣ハ一モ治罪法第四百十條ノ規則ニ適合セサル者トス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ上告ヲ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月十五日上告
同　十六年八月六日申渡

千葉縣安房國淺井郡鹽浦村
平民兼吉弟漁業
里見久七
明治十五年九月
十七年

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月八日東京輕罪裁判所カ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ其輕キ同第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮二月十日ニ處シ監視七月ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢事松本素彥ハ上告セリ其要領ニ曰被告里見久七カ竊盜事件ハ新法實施前ニ係ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ處斷セシハ允當ナルモ明治十四年第八十一號布告ノ第十條ニ依ヲス監視ヲ附加セシハ法律ノ解釋ヲ誤リタル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人里見久七ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

明治十四年第八十一號布告第十條ニ舊法ニ於テ休刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セストアリ本案久七カ本刑ハ新舊法ノ比照ニ因リ其輕キ新法ヲ以テ處斷セラレタルモノニテ此ノ法律ヲ適用スヘキ當然ナルニ原裁判所ハ此ノ法律ニ依ラス監視ヲ附加シタル一部分ヲ破毀シ之ヲ取消ス者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四號

○判文〔氏名詐稱ノ件〕明治十五年十二月十六日上告
同　十六年八月六日申渡

福岡縣筑前國御笠郡太宰府村
平民書畫師
小野好文
明治十五年九月
二十八年八ヶ月

氏名詐稱被告事件ニ付明治十五年九月廿六日久留米治安裁判所ニ於テ福岡輕罪裁判所カ官

署ノ取調ヲ受クル際氏名ヲ詐稱スルモ刑法ノ問フ處ニアラストシ無罪ヲ言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部補吉住諺也ハ上告セリ其要領ニ曰被告小野好文ハ客店ニ投宿シ大坂府安堂寺町平民西田成章ト詐稱シタルヲ以テ福岡縣ニ設達警罪目ニ依リ拘留ノ刑ヲ言渡シタリ然ルニ其取調ヲ受ルニ當リ尙又官署ニ對シ筑後國御笠郡太宰府村平民小野瑛之助ト詐稱シタルヿ拘留中發覺セシニ因リ求判シタル處原裁判所ハ取調ヲ受クルニ當リ氏名等ヲ詐稱スルモ刑法ニ論問スヘキモノニアラストシ無罪放免ヲ言渡セシハ擬律錯誤ナリトス因テ破毀ヲ求ムトノヿ

對手人小野好文ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍自分氏名職業ヲ詐稱シ云々トアルハ其訊問ニ對スルト自カラ爲シタルトヲ問ハス苟モ故意ヲ以テ官署ニ對シ詐稱シタル者ヲ罰スヘキノ法文ニテ本案好文ノ被告事件ノ如キ官署取調ヲ受クルニ際シ氏名ヲ詐稱シタルコモセヨ此ノ法文ノ制裁ハ免カレ得ヘカラサルナリ然ルヲ原裁判所カ之ヲ無罪ナリト判斷セシハ不法ノ裁判ニテ到底擬律錯誤ト言ハサルヲ得ス以上ノ理由ニ因リ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

明治十五年九月二十六日久留米治安裁判所ニ於テ福岡輕罪裁判所カ裁判言渡書ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ証憑ニ據リ官署ニ對シ氏名ヲ詐稱シタル罪ヲ犯シタルヿ明白ナリ之ヲ

小野好文

罰スル法律ハ

刑法第二百三十一條ニ官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ該ル

因テ小野好文ヲ三圓ノ罰金ニ處シ裁判入費ノ全部ヲ負擔セシムル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五號

○判文（偽造證書ノ件）明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年八月六日申渡

京都府山城國綴喜郡南村平
民農業　東川富次郎　明治十五年十月三十四年八ヶ月

私書偽造及ヒ詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十月三十一日京都輕罪裁判所カ刑法第三百九十條同第三百九十四條同第三百九十七條同第二百十條同第二百十二條同第百條ニ依リ八月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ仍七月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ私書偽造詐欺取財ノ所爲アルコトアラサルニ建村又三郎ノ告訴ヲ偏信セラレ寃罪ニ陷リタルモノニテ不服ニ堪ヘス謹テ覆審ヲ願フト云フニアリ

對手人檢事補山田彌八郎ニ於テハ原裁判ハ允當ニテ上告ノ趣旨ハ不當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各証憑ニ照シ心證ニ感スルヲ資リ認定セシ事實ニ對シ徒ニ不服ヲ唱ヘ覆審ヲ請願スルト雖モ事實覆審ハ本院ノ權内ニアラサレハ破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スニ由シナシ即チ治罪法第四百十條ノ第一ニヨリ第十一ニ掲ケタル定規ニ適當セス因テ上告ノ趣旨相立サルモノトス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ撿事池上三郎立會宣告ス

第千百六號

○判文〔誣告ノ件〕明治十五年十二月廿二日上告
同　十六年八月六日申渡

東京府下荏原郡八幡塚村平民農　竹内初五郎　明治十五年十一月三十九年

右初五郎カ被告事件ニ對シ明治十五年十一月十日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ武澤彦太郎竹内茂左衛門カ私書ヲ僞造セシ者ナリト告訴シタルハ同人共ヲ輕罪ノ刑ニ陷ラシメント誣告シタルモノト判定シ刑法第三百五十五條同第二百二十條第二ノ例ニ照シ重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告初五郎カ上告ヲ爲スノ要旨ハ虎列刺病死人竹内太郎吉カ火葬料其外ノ官費願出書ヲ品川警察署ヘ差出シタルハ武澤彦太郎竹内茂左衛門カ僞書セシニ相違ナクシテ決テ誣告シタルニアラスト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ據リ立會撿事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣意ハ事實裁判官ニ特任スル所ノ事實ノ判定ニ對シ之カ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ規定シタル以外ニ係ルヲ以テ上告ヲ爲スノ原由之ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ撿事加納久宜立會宣告ス

第千百七號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十一月十七日上告
同　十六年八月七日申渡

兵庫縣播摩國飾東郡東魚町　平民　荒物商　小泉長次郎　明治十五年七月二十八年八月

右被告事件ニ付明治十五年七月二十二日姫路輕罪裁判所ニ於テ被告ハ第三十八國立銀行十三等手代中明治十五年六月二十九日該銀行ニ於テ印南郡今市村伊藤長次郎ヨリ預金ノ内出金ノ旨ヲ僞リ金七千圓ヲ拐帶シ而テ當時精神完全ニシテ該所爲ヲ犯シタルモノニ付刑法第三百九十五條第三百九十條同第三百九十四條等ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ八月ノ監視ニ付スル旨言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告長次郎上告ヲ爲スノ要旨ハ被告於テ性質虛弱ニシテ寒署ノ際偶然發狂スルヿ屢々之レアリ這般ノ所爲ノ如キモ精神錯亂セ

シ際ニアルハ原正二郎等ノ陳述ニ依リ明白ナリ又タ公判ノ際証人ヲ喚徵スルトテ中止延期セシモ嘗テ新ナル証人ノ出庭シタルヿヲモ聞カサルノミナラス告訴人カ告訴ヲ拋棄シ豫審判事カ之ヲ許サレタルニモ拘ハラス前判決ヲ下タサレシハ法律ニ抵觸スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ上告ノ趣旨ハ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實認定上ノ當否ヲ論辨シテ不服ヲ訴フルニ過キサルモノトス何トナレハ原訴訟書類ヲ監査スルニ他ニ違法ノ廉ナク且ツ公訴ハ告訴ノ棄權ニ因テ消滅スルモノニアラサレハナリ到底上告ノ旨趣相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ヲ棄却スルモノ也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百八號

○判文〔窃盜未遂ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告
同　十六年八月七日申渡

徳島縣阿波國勝浦郡小松島村平民船乘業　田中由藏　明治十五年七月十九年十ケ月

右由藏カ被告事件ニ付明治十五年七月二十二日高松輕罪裁判所於テ被告ハ曩キニ重禁錮二月監視六月ノ處斷ヲ受ケタルモ仍ホ窃盜ヲ爲サントシテ携ヘタル鑿ヲ以テ中富觀慶方大手門ノ横ヨリ忍入壁ヲ破壞セントスルニ容易ニ破壞セサルヨリ傍ノコモ垣ヲ破リ居宅裏ヘ立入リシモ戶締ノ堅固ナル故ニ最初破壞セントセシ壁ヲ切破リ居ルヿヲ事主ニ覺知セラレ右鑿ヲ捨置キ逃走ノ途中捕ニ就キタルハ被告ノ白狀司法警察官ノ作リタル調書被害者ノ告訴證據物件等ニ依リ事實明白ナルヿヲ以テ其所爲ハ刑法第三百六十八條同第百十二條同第九十二條同第八十一條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮二月二十三日監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ檢事補大井信本カ上告ヲ爲スノ要旨ハ未タ其事ヲ謀リ又其豫備ヲナスニ止マルモノハ其ノ事ヲ行フタリト云フヘカラス卽チ本案被告カ所爲ハ單ニ人ノ住居ヲ侵シタル罪ニ過キサルモノナルニ變シ易ク動クヘキ意思ノミニ拘泥シテ前言渡ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

本件被告カ窃盜ヲ爲サントシテコモ垣ヲ破毀シ尙ホ壁ヲ切破リ居ル際事主ニ覺知セラレタルヿハ原訴訟書類ヲ監査スルニ其判文ニ示セル如ク事實證憑明白ナリトス而シテ右所爲ハ窃盜ノ事ヲ行ヒ未タ遂ケサルモノナレハ原裁判所ニ於テ卽チ刑法第三百六十八條同第百十二條等ヲ適用セシハ共ニ不相當ノ裁判ニアラサレハ到底上告ノ旨趣相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百九號

○判文〔官吏侮辱ノ件〕明治十五年十二月十九日上告
同　十六年八月七日申渡

佐賀縣肥前國佐賀郡八戶町　二百六十九

平民湯屋渡世　三島重次郎　明治十五年九月二十五年一ケ月

官吏侮辱被告事件ニ付明治十五年十月十日佐賀輕罪裁判所カ刑法第百四十一條ニ依リ一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ニ曰巡査山下正袈裟カ違警犯ヲ見誤リシ憤怒ノ餘リ苛刻ノ所置ヲ蒙リシモノコテ其際決テ侮辱セシコアラス偶然不敬ノ言語ヲ吐キシマテナルニ正當ナル証人ヲ喚問セス却テ平素遺恨アル証人ノ證言ヲ採リ刑法第百四十一條ノ長期ノ嚴刑ニ處セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ外ナラス

對手人檢事補橋本哲ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判ハ毫モ不法ニアラスト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證憑ニ照シ認定セシ事實ニ對シ其當否ヲ論難スルト雖モ事實認定ハ原裁判所ノ特任スル權内ナレハ輙ク侵入シ破毀ノ原因ト爲スヲ得ス又證人ノ適當ナラサルヲ唱ヘ不服ノ一理由ト爲スモ決テ不適當ノ證人ト見ルヘキナク加ルニ採證ノ權ハ原裁判所ノ特有スル權内ダルハ載セテ治罪法第百四十六條ニ明了ナリ其他刑法第百四十一條最長期ノ刑ヲ受ケタリト云フモ最上最下ノ範圍内ニ於テ其刑ヲ言渡スハ是亦原裁判所ノ權内ナレハ他ヨリ之ヲ動スコヲ得ス因テ上告ノ趣旨相立タス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十號

○判文〔官吏侮辱ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年八月七日申渡

熊本縣肥後國熊本區西子飼町二十三番地士族　森文喜　明治十五年六月二十年八月

右文喜カ官吏侮辱被告事件ニ付明治十五年八月二十八日熊本輕罪裁判所ニ於テ刑法第百四十一條第二項ニ依リ第一項ニ照シ重禁錮一月十五日罰金十圓ヲ附加スヘキ處曩キニ誹毀罪ニ依リ重禁錮十五日附加罰金五圓ニ處セラレタルニ付第百條第三項及ヒ第百二條ニ照シ其所犯情狀最モ重キ一ノ第百四十一條ノ罪ヲ以テ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算シ重禁錮十五日附加罰金五圓ヲ扣除シ餘ル重禁錮一月罰金五圓ヲ附加ストノ裁判ヲ不當トシ同裁判所檢事補中島孝叔カ上告爲シタル趣旨ハ被告カ明治十五年一月二十五日熊本新聞千百六十三號雜報欄内ニ掲ケタル所爲ハ刑法第三百五十八條第二項ニ該ル犯罪ナリ然ルニ明治十五年三月八日他ノ誹毀罪ニ依リ重禁錮十五日罰金五圓ノ刑ニ處セラレタルニ付刑法第百條第三項及ヒ第百二條ニ照シ刑ノ適用ヲ請求シタリ然ルヲ巡査ノ職務ニ對シ侮辱シタル罪トシテ刑法第百四十一條第二項ニ依リ重禁錮一月罰金五圓ヲ附加セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フコアリ又被告文喜カ上告爲シタル要領ノ第一條ハ巡査某カ交番所ノ近傍ナル堤塘ニ於テ

醜行アリシヲ公布シ某カ私行ハ之レヲ誹毀シタルニ相違ナキモ其職務ニ關ハル行事ヲ誹毀シテ職務ヲ侮辱シタルニアラス又其第二條ハ前ニ二罪ヲ犯シ既ニ重禁錮十五日罰金十圓ノ刑ヲ受ケタルヲ以テ前後ノ刑ヲ通算シ巡査ヲ誹毀セシ罪ハ之レヲ論スヘカラス若シ誹毀罪ヲシテ巡査ノ職務ヲ侮辱セシモノトシ刑法第百四十一條ヲ適用スルモ前ニ受タル附加罰金五圓ヲ扣除セハ剩ル罰金ナキニ付單ニ重禁錮一月ニ處セラルヘキモノナリト云フコアリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審按スルニ原裁判官ニ於テ侮辱セシ文書ナリト認メタル熊本新聞第千百六十三號雜報欄内ノ一章ヲ閲スル處手ニ角燈云々或ハ官棒云々同町ノ裏塘巡迴ノ折柄云々トアルハ即チ巡査ノ巡行中ノ事ヲ揭載セシモノナレハ官吏ノ職務ヲ行フニ對シ侮辱シタルモノナルハ明瞭ニシテ刑法第百四十一條第二項ニ該當スル論ヲ俟タス將タ亦被告カ曩キニ處刑ヲ受ケシ罪ハ讒毀ノ一罪ト成法誹毀ノ一罪ニシテ其讒毀ノ罪ハ原宣告書ニ數罪俱發ノ例ニ依リ處斷シアリテ誹毀ハ新聞條例違犯ナレハ明治十四年第七十二號布告ニ基キ數罪俱發ニ依ラサリシハ是レ亦適法ニシテ共ニ上告ノ趣意ハ相立タス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之レヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十一號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月廿一日上告
同　十六年八月七日申渡

岩手縣陸前國氣仙郡氣仙村
平民大工職
菅野福三郎　明治十五年八月
十七年二ヶ月

岩手縣陸中國西磐井郡中里
村平民農業
佐藤榮七　明治十五年八月
二十四年六ヶ月

窃盜被告事件ニ付明治十五年八月四日磐井輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十八條同第三百六十九條同第三百七十六條ニ依リ榮七ヲ十月ノ重禁錮ニ處シ十月ノ監視ヲ附加シ福三郎ハ仍ホ同第九十二條同第八十一條ヲ適用シ十月ノ重禁錮ニ處シ十月ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補庄田金次郎ハ上告セリ其要領ニ曰福三郎榮七ノ所爲ハ鎖鑰ヲ開キタルニアラス雨戸ヲ引キ明ケタル迄ナレハ刑法第三百六十六條ヲ適用スヘキ允當ナルニ原裁判所ハ同第三百六十八條ヲ適施シタルハ不當ナルニ因リ破毀ヲ求ムトノ了

對手人菅野福三郎佐藤榮七ハ苔辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ニ〔東磐井郡川邊村千葉與四郎方ニ戸ヲ開キ忍入リ金錢衣類雜品ヲ竊取シ云々〕ト其事實ヲ認ダリ其認タル事實ハ戸ヲ開キタルノミニアリテ之ニ鎖鑰ノ施シアリシニアラズ又鎖鑰ニアラサルモ人ノ啓開ヲ妨クルニ足ルヘキ効力ヲ有スル戸締ヲ爲アリシモノトモ認メサレハ尋常ノ窃盜罪ニテ即チ刑法第三百六十六條ニ依リ處斷スヘキモノナルニ原裁判

茲ニ出テサルハ擬律錯誤ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ之ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

菅野福三郎
佐藤榮七

明治十五年八月四日原裁判所カ言渡タル事實ノ理由及ヒ各證憑ニ據リ窃盗ノ罪ヲ犯シ福三郎ハ其當時齡十六歳以上二十歳ニ滿タス且再犯ニ係ルヿ明白ナリ之ヲ罰スル法律ハ刑法第三百六十六條八ノ所有物ヲ窃取シタル者ハ窃盗ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百六十九條二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フトアルニ因リ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮トナル同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル而シテ福三郎ハ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニ依リ本刑二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ一等ヲ加ヘ三月三日以上六年三月以下トナル且犯時齡十六歳以上二十歳以下ナルヲ以テ一等ヲ減シ二月九日以上四年八月七日以下ノ重禁錮トナル

右ノ理由ニ原キ菅野福三郎佐藤榮七ヲ各八月ノ重禁錮ニ處シ十月ノ監視ヲ附加スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十二號

○判文（無届不參ノ件）明治十五年十二月廿二日上告
同　十六年八月七日申渡
三重縣伊勢國一志郡牧村平民安次郎長男農
小林平次郎
明治十五年六月二十六年

右平次郎カ被告事件ニ付明治十五年六月十五日安濃津治安裁判所ニ於テ被告ハ同廳ノ呼出ニ應セス不參シタル者ト爲シ明治十年第五號及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ依照シ罰金八圓ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告平次郎カ上告ヲ爲シタル要旨ハ裁判所ノ呼出期日出頭ノ途中ニ於テ發病セシニ依リ使ヲ以テ出頭猶豫願書ヲ差出シタルニ裁判所ハ之ヲ受理セラレス正當ノ理由アリテ不參セシモノニ罰金ヲ科セラレタルハ不服ナリト云フニ在リ同裁判所檢事補横山高成ハ原裁判適當ナル趣旨ヲ以テ答辨ヲ爲セリ因テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本案ヲ檢審スルニ被告平次郎カ始末書ヲ閲スレハ出頭可仕ノ處途中ニテ俄然腹痛差起リ候ニ付云々初太郎ヲ以テ出頭御猶豫願上候儀モ苟茫午前第十時ニ至レハ受附ニ於テ却下セラレ候間不得止不參ニ相成候トアリ因是觀之ハ被告ハ法衙ノ呼出ヲ受ケ當日不參セシハ明白ナリ然レハ其出頭セサルニ於テ正當ノ理由アリテ不參セシモノナルヤ否ヤノ點ニ付テハ事實ノ判定ハ裁判官ニ任從スル處ノ職權ニアリ本件被告カ所爲ハ正當ノ事故之レナキモノト承審官ニ於テ認メタルモノニシテ其事實ノ判定ニ對シテハ上告ヲ爲スノ理由トスルヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十三號

○判文〔竊盜及ヒ印影盜用ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
同　十六年八月七日申渡

福岡縣筑前國夜須郡下秋月
村平民雇人稼
大　塲　延　喜
明治十五年九月
十八年十ケ月

竊盜及ヒ印影盜用詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月十二日東京輕罪裁判所カ刑法第三百六十六條同第二百八條第二項同第三百九十條同第百條同第八十一條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮一年六月ニ處シ監視一年ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補磯邊是綱ハ上告セリ其要領ニ曰印影盜用詐欺取財ノ二罪ハ原裁判所ノ判決其當ヲ得タルモノナルモ約定手形ヲ僞造行使シタルモノナレハ刑法第二百九條ノ重罪ト三罪ナルニ之ヲ不問ニ措キ約定手形用紙ヲ窃取シタル罪ヲ問ヒタルハ擬律錯誤ナリト認メ破毀ヲ求ムトノ〻

對手人大塲延喜ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

原裁判言渡ニ〔豫テ雇主儀平カ深川區龜住町十三番地久次米銀行出張所ヨリ受取リ置タル預金引出手形用紙第二十一號一枚ヲ竊取シ此ニ金高百五拾圓受取人同雇人木村竹之助ト記入シ其名下ヘ堀越新太郎ノ印影ヲ盜用シ其他儀平方仕切判金銀受取判及ヒ小印ヲ押捺シ之ヲ以テ同銀行ヲ欺罔シ金百五十圓ヲ騙取シタル事實ハ被告人延喜ノ白狀被害者ノ告訴各証人ノ陳述及ヒ該手形ヲ以テ充分ノ證憑ナリトス云々〕ト現ニ約定手形ヲ僞造行使シタル事實ヲ認メナカラ刑法第二百九條ニ約定手形ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ云々トアルヲ適用セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス因テ治罪法第四百二十九條ニ依リ之ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

明治十五年九月十二日東京輕罪裁判所カ言渡シタル裁判ノ事實ハ被害者ノ告訴各証

大　塲　延　喜

竊盜印影盜用第三約定手形僞造行使第四詐欺取財ノ罪ヲ犯シ其當時齡十六歳以上二十歳ニ滿タサル〻明白ナリ即チ之カ事實ヲ罰スル法律ハ

第一ノ事實ハ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ窃取シタル者ハ窃盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二同第二百八條他人ノ私印ヲ僞造シ行使シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ストアルニ因リ一等ヲ減シ四月十五日以上三年九月以下ノ重禁錮三圓七拾五錢以上三拾七圓五十錢以下ノ罰金トナル

第三同第二百九條爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス第四同第三百九十條第二項ニ因テ官私ノ文書ヲ僞造シ云々ハ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストアリ第二第三ノ重キ

本條アルニ因リ此ニ本條ヲ用ヒス

以上三罪俱ニ發シタル者ナルヲ以テ刑法第百條ニ依リ其重キ同第二百九條輕懲役ノ一ニ從フ而シテ齡十六歳以上二十歳ニ滿タサルニ因リ同第八十一條同第六十九條ニ依リ一等ヲ減シ二年以上五年以下ノ重禁錮トナル仍ホ同第二百十二條ニ照シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル

因テ大塲延喜ヲ二年二月ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加スル者也

但犯罪ノ用ニ供シタル手形用紙ハ所有主ヘ還付シ押收シタル時計帽子蟇口袋ハ還付ス

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十四號

○判文〔監守盜ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告
同　十六年八月八日申渡

静岡縣遠江國敷知郡濱松驛
番地不詳士族
野田忠
明治十五年三月
三十三年十一月

右野田忠カ被告事件ニ對シ明治十五年三月廿二日德島重罪裁判所ニ於テ被告ハ脇町治安裁判所民事受付係奉職中明治十四年五月ヨリ明治十五年一月廿八日ニ到ルノ間ニ人民ヨリ上納スル罫紙代價或ハ身代限財產賣却代金會計係ヘ預ケタルヲ取出シ又ハ預ケスシテ直チニ窃取シタル金員併テ四百二十圓餘ナルヿ明了ナリ然レトモ其監守者ニアラサルヲ以テ之ヲ刑法ニ照スニ所犯新法實施以前ヨリ實施後ニ至ルノ繼續犯罪ナルニ付單ニ刑法第三百六十六條ニ照シ四年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ヲ不當トシ同裁判所檢事野中久徵カ上告ヲ爲スノ要旨ハ抑繼續犯ト稱スルモノハ永續シテ犯ス罪ヲ云フモノニシテ被告事件ノ如キ即時成シ終ル單一犯ノ塲合ヲ指スモノニ無之然ルヲ繼續犯罪ナリトシ刑法第三條及第百條ニ依ラサリシハ不法ノ裁判タルノミナラス脇町治安裁判所民事受付係ノ職務タル民事ニ關スル金錢出納ニ係ル職掌ナルヿハ被告人ノ陳述等ニテ明瞭ナレハ則チ被告ハ其監守ノ金圓ヲ窃取シ或ハ其窃取スルニ因リ受レレハ右數罪中一ノ重キ明治十五年一月十四日平山伊藏ノ財產賣却金二百七十圓上納ノ內五圓ヲ窃取シ因テ金錢遞附錄ヲ變換シタル所爲ヲ問ヒ刑法第二百八十九條ニ照シ九年以上十一年以下ノ重懲役ニ處スヘキモノトス將タ假リニ原裁判ノ如ク監守ノ責ナキモノトスルモ被告ノ遞附錄ヲ減少變換シタル所爲ハ刑法第二百五條ヲ適用セサル可ラス然ルニ原判決彼カ如キハ頗ル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ本院檢事加納久宜ニ於テハ原檢察官カ論告ノ如キ即チ被告カ金圓ヲ窃取スルニ因テ官ノ文書ヲ變換シタル云々ノ事ハ全ク原裁判所カ判定外ノ事實ニ係ルヲ以テ本院ニ於テ採用ス可キモノニ非スト陳述シ且附帶上告ヲ爲シテ曰ク原裁判ニ所謂被告ハ監守者ニアラストハ何等ノ理由ニ根據スルヤ若シ果シテ監守者ナラサル時ハ之レカ理由ヲ判示セサル可カラサルニ今其然ラサルハ是卽チ事實ノ理由ノ不備ナルモノトス又被告カ所爲ハ新法實施前後ニ跨リタルモノナレハ其盜金ハ官金ノ性質ヲ有スルモノナルヤ否ヤ等ノ事實ヲ判明シテ新舊法ヲ比照ス可キニ偏ニ窃盜繼續犯ト爲シタルハ

是亦事實理由ノ不備ナルモノトス又原檢察官ニ於テハ被告カ官ノ文書ヲ變換シタル事件ノ公訴ヲ爲シタルニ原裁判官カ更ニ該事件ニ對スル判定ヲ與ヘサルハ是所謂請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サヽルモノナリ右三個ノ不法アルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ更ニ他廳ニ移シ審判セシメラレンヿヲ望ム ト代言人河村秀俊ニ於テハ被告人カ該金監守ノ責任ナキハ既ニ原裁判官ノ判定スル處タリ將タ被告カ所爲ノ如キハ累次一個ノ盜罪ヲ犯シタルモノナレハ即チ繼續犯ヲ以テ論ス可キモノニシテ新舊法ヲ比照スヘキモノニ非スト陳辯シタル後附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ民事詞訟上ニ管スル金圓ヲ辨理セルハ都テ判事ノ指命ニ賴ルモノナリ故ニ被告ハ人民ト判事トノ間ノ使介タルニ過キスシテ監守ノ責ナキハ判然ナレハ該所爲ニ對シテハ刑法第三百九十五條ヲ適用ス可キモノトス然ルニ原判決茲ニ出サルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

依テ之ヲ審按スルニ原裁判言渡書ヲ閲スレハ本案被告人カ所爲ハ民事受付係奉職中新法實施前後ニ跨リ數次ニ民事訴訟ニ管スル金圓ヲ窃取シタルモノナルヿハ其判示スル處ナレヒ然レヒ其窃取ヲ行ヒタル次數ハ新法實施前ニ在テ果シテ幾次ニシテ節次合算シ其賍ヲ併セハ金額若干圓ナルヤ又新法實施後ニ在ルノ盜數ハ果シテ幾次ナルヤ將タ右數罪中所犯情狀最重キ者ハ果シテ何レノ罪ナルヤ等ヲ判示セス加之民事受付係ナルモノハ其民事訴訟ニ關スル金圓ヲ受授スルノ職務タルニモ拘ハラス其管守者ニアラスト判決セルハ是亦果シテ何等ノ事理ニ根由セルヤ其理由ヲ明示セサルハ共ニ是事實ノ理由ヲ附セサル不當ノ言渡ナリトス而シテ又本案被告事件ハ前述ノ如ク新法實施前後ニ渉ル數罪ナレハ其實施前ニ在ル所犯ハ刑法第三條第二項ノ法文ニ照シ新舊法ヲ比照シ然ル後刑法第百條以下ノ數罪俱發例ニ依リ處斷スヘキニ之ヲ繼續犯ナリトシ單ニ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ是實ニ擬律ノ錯誤ナルノミナラス原書類中ノ公訴狀及公判始末書ヲ査閲スルニ原檢察官於テハ被告人カ官ノ文書ヲ變換シタル事件ノ公訴ヲ爲シ居ルニ原裁判所カ更ニ該事件ニ對スル判定ヲ與ヘサルハ是洵トニ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サヽルモノトス

右辨明ノ如ク本案ハ治罪法第四百十條第七項第九項第十項ノ塲合ニ適當スル破毀ノ原由アルモノナルニ付同法第四百二十八條ニ則リ原裁判ヲ破棄シ兵庫重罪裁判所ニ移シ審判セシムルモノ也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十五號

○判文（損害要償ノ件）明治十五年十一月三十日上告
同　十六年八月八日申渡

新潟縣越後國中魚沼郡川治
村助作二男
丸山喜平治
明治十五年八月
三十一年十月

右喜平治カ被告事件ニ付民事原告人德永重太郎德永久太郎ヨリ爲シタル私訴ニ對シ明治十五年八月廿一日長岡輕罪裁判所ニ於テ重太郎カ六日町治安裁判所ヘ出頭セシハ被告ヘ係リ損害要償ノ勸解出願中ニテ被告ヨリ勸解出願ニ及ハレタル爲メ特別ニ召喚ヲ受ケシニ非ル

旨申立久太郎ハ被告カ重太郎ヘ係リ勸解願出ルヲ聽キ重太郎ヲ慰問ノ爲メ六日町ヘ立越シタルニ重太郎ノ請求ニ因リ引合トシテ同廳ヘ出頭セリト申立ルヲ視レハ共ニ被告カ犯罪ニ因テ生シタル損害ニアラサルモノトス又重太郎久太郎ニ於テ長岡輕罪裁判所檢事ヘ告訴シ又久太郎カ十日町警察署ヘ告訴シ又ハ被告宅ヘ立越シタル入費ハ犯罪ニ因リ直接ニ受ケタル損害トナスヲ得ス其他私訴ヲ爲シ又ハ公廷ニ出頭シタル旅費日當ハ私訴裁判費用ニ屬スヘキモノニシテ民事原告人ノ私訴ハ總テ相立タス私訴裁判費用ハ原告人ノ擔當タルヘク旨言渡シタル處右民事原告人兩名ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ノ犯罪ヲ告訴シ又ハ裁判所若シクハ勸解廷ヘ出頭シタル等ノ爲メ前後十餘日間休業シ許多ノ金錢ヲ費消シタルハ何レモ被告カ犯罪ニ因リ生シタル損害ナルニ原裁判所ニ於テ是等ノ私訴ヲ棄却セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ上告對手人卽チ被告喜平治ハ上告趣意書ノ送達ヲ受クルモ期限內答辨書差出サス茲ニ專任判事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審判スル左ノ如シ

法文ノ所謂犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償トハ例ヘハ詐欺ノ手段ニ因テ詐取セラレタル所ノ財物又ハ不法ニ毀壞セラレタル所ノ器具等ニ對シ之カ賠償ヲ得ルノ謂ニシテ本案要償ノ如キ勸解廷ヘ出頭ノ入費ハ勿論私訴及ヒ公訴ノ費用卽チ之レカ爲メニ休業シタル時間ノ積算若クハ費消シタル旅費日當等ハ夫ノ所謂犯罪ニ因リ生シタル損害ノ部內ニ加算スヘキモノニ非レハ則チ原裁判至當ニシテ上告ノ旨趣ハ相立タサルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十六號

○判文〔受寄財物費消ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年八月八日申渡

廣島縣廣島區東白島町六十
七番屋敷居住平民
民事原告人　八木米吉

右八木米吉ヨリ廣島縣安藝國高宮郡可部町平民三谷八十八ヘ係ル費消受寄財物被告事件ニ付明治十五年八月廿九日廣島輕罪裁判所ニ於テ原被兩造對質ノ上犯罪ノ證憑充分ナラサルニ付治罪法第三百五十八條ニ依リ被告三谷八十八ニ對シ無罪且拘留ヲ放免シ民事原告人ノ請求ハ治罪法第二百二十四條ニ依リ棄却スルトノ言渡ヲ爲シタリ

民事原告人八木米吉ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シ其趣旨ヲ二項ニ分テリ其一公行シタル裁判言渡ニハ被告三谷八十八ヨリ立川東太郎外一名ヘ地所家屋ノ賣却ヲ爲シタルハ明治十五年四月中トアリ後ニ被告人ヨリ描改ヲ願出四月ヲ二月ト爲シタルモ公行ノ裁判ハ事實ノ理由組齟アル者ナリ其二裁判言渡書中〔秘密ノ契約アリトスルモ之ヲ被告カ他人ヘ賣渡シタルトテ罪ト爲ル可キ者ニアラス〕トノミアリテ何等ノ理由ニ依リ罪ト爲ラサルヤ法律ノ理由ヲ付セサル者ナリ以上ノ如ク原裁判ハ不法ノ廉アルヲ以テ破毀ヲ求ムト謂ニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ依リ私訴ニ關スル裁判言渡ニ對シ不服ヲ訴フルコアラスシテ公罪法第四百十二條ノ規則ニ依リ私訴ニ侵入シ公判言渡ノ如何ヲ論難シ破毀ヲ試ントスルコ外ナラサルヲ以テ當然棄却ア

ル可シト辯明セリ仍テ判決スルヿ左ノ如シ

民事原告人カ上告ヲ爲スヿヲ得ルノ場合ハ治罪法第四百十二條ニ原キ同第四百十條ニ則ラサル可ラス今八木米吉カ上告ノ趣旨ハ原裁判所カ被告三谷八十八ニ言渡シタル文字ノ改正又ハ無罪タルヘキ理由ヲ證明セスト云フヲ以テ論據トスルニ過キス果シテ文字ヲ改正シタリトスルモ民事原告人ノ請求ニ毫モ利害ノ影響アルニ非ス又公正ノ證書ヲ以テ得タル權利ハ容易ニ取消スヿ能ハサルノミナラス未タ信用ス可ラサル內約ノ證書ヲ以テ被告人カ犯罪ヲ證スルニ足ラサルヿ勿論ナレハ上告ノ理由トハ爲ス可ラサル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千百十七號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十一月三十日上告
同　十六年八月九日申渡

岡山縣備中國小田郡東三成
村平民農業
川上涙太郎　明治十五年八月二十八年十月生

涙太郎カ被告事件ニ付明治十五年八月二十九日岡山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ詐欺取財ノ罪アリトシ刑法第三百九十三條ニ依リ仍ホ同法第三百九十條ニ照シ處斷スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮一月十五日ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ同法第三百九十四條ニ依リ六月ノ監視ニ付ストノ言渡ニ對シ被告カ爲シタル上告ノ要旨ハ原裁判採證事實ノ不當ナルヲ以テ之カ平翻アランヿヲ願フト云フニ外ナラス對手人檢事樺島鎭八答辨ノ要領ハ原裁判相當ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件上告ノ旨趣ハ事實裁判官ノ職權內ニ侵入シ事實採證ノ如何ヲ論難シ覆審ヲ求ルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項以外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ法リ該上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十八號

○判文〔財產毀壞ノ件〕明治十五年十二月五日上告
同　十六年八月九日申渡

福島縣磐城國磐前郡中ノ作
村平民舊戶長
坂部權左衛門　明治十五年七月五十一年三月

右被告事件ニ付明治十五年七月六日平輕罪裁判所ニ於テ被告ハ警部在ラサル地即チ中ノ作村戶長ニテ治罪法第六十條第二項司法警察官ノ地位ニ居リタル當時人ノ身体ヲ妨害セントスル報告ヲ受ケ其手配ヲナシタルモ願下ケアリタリ迚保護ノ處分ヲナシ了ラサルモ事濟ミタリト信認シ財產毀壞ノ犯罪アルヲ知ラサルニ出テタルモノナルニ依リ刑法第七十七條ニ

照シ其罪ヲ論セスト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ同裁判所檢事井手亨カ上告ヲ爲シタル要旨ハ吉田善平カ被告ニ對シ告訴ノ申立ヲ爲シ而シテ直チニ該訴ヲ願下タル後再ヒ右善平カ代人トシテ松原熊太郎ハ平警察署ニ告訴ヲ爲セシ書中ニ戶長役場ヘ犯罪ノ件告訴シタレ𪜈取上ケ無之故告訴スル旨記載アリテ被告ハ身體財産ヲ妨害スル犯罪アルノ告訴アルニ當リ治罪法ニ定メタル處分ヲ爲サヽルヿ明白ナルニ事實證憑ヲ審ニセスシテ刑法第七十七條ニ照シ其罪ヲ論セスト判決シタルハ不法ナリト云フニアリ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ上告ノ趣旨ハ之ヲ要スルニ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル採證ト事實判定ノ當否ヲ論辯シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ノ規程外ニ渉リ上告ヲ爲スヲ得ルノ原由之レナキニ付キ同法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ヲ棄却スル者也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百十九號

○判文〔官吏侮辱ノ件〕明治十五年十二月十一日上告
同十六年八月九日申渡

京都府丹波國天田郡吳服町
平民
越山元之助
明治十五年六月
十七年十一月

右元之助カ官吏侮辱被告事件ニ付明治十五年六月十九日園部輕罪裁判所ニ於テ被告カ公然ノ演說中案山子ヲ借リ來リテ以テ臨場ノ警察官ニ比シ正シク其職務ニ對シ侮辱シタル者ト認定シ刑法第百四十一條ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ處二十歲未滿ニシテ且情狀原諒スヘキヲ以テ刑法第八十一條同第八十九條及ヒ第九十條ニ照シ通シテ二等ヲ減シ十五日ノ重禁錮ニ處シ三圓ノ罰金ヲ附加ストノ裁判ヲ不當ナリトシ被告元之助カ上告爲シタル要領ハ演題非常ノ說第一項ニ於テハ非常ノ豫知スヘカラサル万樣異形ノモノタル云々ヲ擧ケ痛論シ第二項ニ非常ノ結果如何ヲ指摘シ田中ノ案山子ヲ以テ維新以前ノ景況ニ比喩シタリ又鳥雀藪ニ演說スレハ案山子來リテ之ヲ停止シ鳥雀畑ニ集合スレハ案山子來リテ解散ヲ命ス云々ハ前意ヲ受ケ鳥雀ハ西洋各國ヲ比例シ則各國カ幕府ニ乞テ條約ヲ爲サントセシモ幕府ハ之ヲ鎖港セントシタルハ即チ中止解散ヲ命スルモノニ譬喩セシナリ其最後ニ至リテ非常ノ說本論ニ入リ警察官ノ保護篤サヲ解キ演說ノ順序ヲ逐ヒ上段ノ意ヲ後ニ受クルハ演說ノ常ナリ然ラハ案山子ノヿタルハ必竟譬喩ニ止リ本論ニアラス故ニ監臨ノ警官ニ於テモ案山子云々ノ演說ニ對シテハ何等ノ障碍モナカリシ是レ罪ヲ犯スノ豫意ナキヲ証明ス又警官カ法衙ニ向ツテ求刑セシハ判決ノ前頭ニ云フ民情視察云々ニアツテ案山子云々ノ演說ハ問ハサリシ加之警官モ自分ニ對シ幾多ノ私怨ヲ挾ミ故意ノ情アルヿハ警官カ檢事ヘ對シ送附シタル書中ニ自分ハ平素我儘ヲ以テ自認シ人ヲ蔑視ス云々トアリテ自分カ權利ヲ壓束セシ言詞ナリ其弊タル遂ニ事ヲ執テ公平ヲ任スル法官ノ一身ニ於ケルモ其感觸ヲ及ホシ已ニ法官ハ其訴ヲ受ケサル案子山云々ノ裁判ヲ爲シ

タルニアリ是レ治罪法第四百十條第七第九第十ノ三項ニ抵解スルノミナラス案山子云々ハ一ツノ譬喩ニシテ罪ヲ犯スノ意ナケレハ刑法第七十七條ノ不論罪ナリト縷述セリ玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ主旨ハ被告カ案山子云々ノ譬喩ヲ以テシタル演說ハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノトノ原裁判ハ訴外ノ裁判ナルノミナラス案山子云々ハ維新前ノ日本人民ニ譬喩シタルモノニシテ警察官吏ニ譬喩シタルニ非ラスト云フニ在リト雖モ抑原裁判官カ臨監官吏ノ作リタル演說筆記ニ依リ案山子云々ノ譬喩ハ正シク該官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル事實ナリト認定シタルハ敢テ不當トスヘカラサルハ勿論原檢察官カ公廷ニ於テ被告事件トシテ案山子云々ノ事ヲ陳述シタルハ公判始末書ノ明載スル所ナレハ固ヨリ之ヲ訴外ノ裁判ト云フヿヲ得ス其他臨監ノ警察官ニ於テ案山子云々ノ演說ハ罪ト認メラレサレハコソ該演說中ニハ何等ノ故障モ爲サヽリシ及ヒ警察官ハ私怨ヲ狹ミタル云々ノ點ニ至テハ既ニ原檢察官ノ答辨セル如ク全ク被告ノ誤認ニ出テ又ハ何等ノ証憑ニアラサル事ナレハ固ヨリ取ルニ足ラサルモノトス要スルニ本案上告ハ徒ニ事實ノ判定上不服ヲ訴フルニ過キスシテ事實裁判官ノ特有セル職權内ニ侵入シ治罪法ノ規定セル規則ニ背馳シ上告ノ原由ナキモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ遵ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十號

○判文（窃盜ノ件）明治十五年十二月十一日上告
同　十六年八月九日申渡

栃木縣下野國安蘇郡田沼宿
平民　黑沼龍次郎　明治十五年八月二十五年

右龍次郎カ窃盜被告事件ニ付明治十五年八月十九日栃木輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年七月七日午後十二時頃八下田仙吉所有機織場ノ雨戸ヲ外シ忍入リ該場ニ織掛ケアリタル糸入木綿編反物ヲ切斷窃取シタルモノトシ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ照シ三月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付ス旨言渡タル裁判ニ對シ同裁判所檢事補牛込喜一カ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告カ所爲ハ機織場雨戸ノ栓張棒ヲ以テ固鎖シアルヲ押外シ忍入リ織掛ケアル反物ヲ窃取シタルモノナレハ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條ヲ適用ス可キモノナリ然ルヲ原裁判此ニ出サルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ依テ本院檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ本案原裁判所カ判定スル所ノ事實ニ對シテハ刑法第三百六十八條ヲ適用ス可キモノトス何トナレハ該條ノ所謂鎖鑰トハ其鎖具ノ金屬又ハ木製等ダルニ拘ハラス都ヘテ他ノ排入ヲ防拒ス可キ方法ヲ以テ戸締リヲ爲シアルモノヽ謂ナレハナリ今公判始末書ヲ檢スルニ栓張棒ヲ以テ戸締リヲ爲シアリタルハ被告ノ自供スル所ニシテ原裁判官ニ於テモ既ニ之ヲ採取シナカラ獨リ刑ノ適用此ニ出サルハ便チ擬律ノ錯誤ナリトス依テ原裁判ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ノ規則ニ照シ本院ニ於テ直チニ裁判ス左ノ如シ

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條ニ照シ六月ノ重禁錮ニ處シ八月ノ監視ニ付スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十一號

○判文（附加刑執行ヲ遁レタル件）明治十五年十二月十八日上告

同　十六年八月九日申渡

黒沼龍次郎

二百九十

羣馬縣上野國西羣馬郡高崎驛平民濱藏二男絹商

森山岩太郎　明治十五年六月

羣馬縣上野國西羣馬郡湯上村平民幸八長男髮結職

木暮磯吉　明治十五年六月十四年

東京府麹町區祝田町平民仙吉弟大工職

淺野金太郎　明治十五年六月十三年八ヶ月

附加刑ノ執行ヲ遁レタル被告事件ニ付明治十五年六月廿四日東京輕罪裁判所カ監視規則ニ違背シタル廉ニ付テハ證憑充分ナラストシ無罪ヲ言渡シタル裁判ニ對シ檢事補川井忠雄ハ上告セリ其要領ハ被告人共ノ現ニ別房留置中窃ニ脫出セシモノナレハ刑法附則第三十二條ニ揭ケタル明文ニ因リ刑法第百五十五條ニ從ヒ處分スヘキモノナルニ原裁判所ハ別房留置中逃走シタル事實アリト認メナカラ監視ノ規則ニ違背シタル證憑充分ナラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人森山岩太郎木暮磯吉淺野金太郎ハ之ニ答辯セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判言渡ニ（曩キニ重禁錮及ヒ監視ニ付スル言渡ヲ受ケ主刑滿限ノ後引取人之レナキ等ニテ市ケ谷監獄署ニ止メ置監視中自宅ヘ立戻リ度トノ念慮ヲ懷キ居ル際偶々少年檻ノ窓ヲ破リ脫出シタル者アルヲ認メ之ヲ好機ト爲シ其跡ヨリ竊ニ脫出シタルハ被告人各自ノ申立看守乙津七三郎等ノ始末書ニ徵シ明カナリ云々）ト其事實ヲ認メタルモノナレハ刑法附則第三十二條ニ監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ云々トアル規則ヲ犯シ逃走セシモノニテ即チ刑法第百五十五條ニ問擬スヘキモノナルニ原裁判所ハ証憑不充分ナリト斷定シ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡シタルハ不法ノ裁判ニテ擬律錯誤タルヲ免カレサルモノト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ之ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

森山岩太郎

木暮磯吉
淺野金太郎

原裁判カ明治十五年六月廿四日裁判言渡タル事實ノ理由及ヒ證憑ニ照シ市ケ谷監獄別房留置場ヲ逃走シ監視規則ヲ犯シ其當時各齡十二歳以上十六歳ニ滿タサルモ是非ヲ辨別シテ犯シタルヿ明白ナリ之ヲ罰スル法律ハ刑法附則第三十二條監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シトアルニ違背セシ者ナルニ因リ刑法第百五十五條監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ該ル而シテ犯時各齡十二歳以上十六歳以下ナルモ辨別アリテ犯シタルモノナルニ依リ同第八十條第二項ニ依リ二等ヲ減輕シ七日以上三月以下トナル

因テ森山岩太郎木暮磯吉淺野金太郎ヲ各一月ノ禁錮ニ處スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十二號

○判文（投票僞造ノ件）明治十五年十二月廿二日上告
同　十六年八月九日申渡

岡山縣美作國久米北條郡桑
上村平民農業
松田友藏

右友藏カ被告事件ニ付明治十五年八月十日津山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十四年岡山縣甲第百三十三號布達ニ社寺檀家中衆望ノ歸スル者三名以上相撰戸長役場ヘ届出云々トアルニ因リ弘法寺ニ於テ同寺總代撰擧會ヲ開キ其投票人ノ甲元又三郎外十八名ノ來會セサル迎檀ニ一紙ニ同名共ノ氏名ヲ記載シ之ニ代印ヲ爲シテ投票セシ者ナリト判定シ刑法第二百三十三條ニ照シ重禁錮一月罰金五圓ノ刑ヲ言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告友藏カ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告カ所爲ハ寺總代ヲ撰ンコ際シ檀家中ノ相談會ニ成立セシ投票ニシテ公撰ノ投票ニアラサレハ刑法上罪トナルヘキモノニアラスト云フニアリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ刑法第二百三十三條ニ公撰ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ云々トアル其投票ハ政令ヲ以テ選拔スルノ票投ヲ謂フモノニシテ人民ノ協議上ニ成立スル投票ヲ指稱スルノ法意ニハアラサルナリ又明治十四年岡山縣甲第百三十三號布達ヲ按スルニ社寺總代人ノ儀氏子檀家（氏子檀家ナキ者ハ信徒）相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者ヲ三名以上相撰ミ戸長役場ヘ届出今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ可差出云々トアリテ其布達ノ精神タルヤ社寺ノ願届等ハ氏子檀家中ノ總代ニ連署セシムルヲ要スルニ依リ其總代ヲ豫メ相撰ヒ戸長役場ヘ届出テ置ク可キトノ趣意ニシテ總代ヲ撰フニ公同ノ投票ヲ以テ之ヲ定ムルノ方法ヲ布令シタルモノニアラサルヤ明カナリ本件被告松田友藏カ僞造セシ投票ハ檀家中協議上ヨリ成立タルモノニシテ政事上ニ關スル投票トハ大ニ其性質ヲ異ニスルヲ以テ其所爲ハ刑法上之ヲ罰スヘキモノニアラストス然ルニ原裁判

明治十五年八月
六十二年

官ハ右ノ事實ヲ認メナカラ刑法第二百三十三條ヲ適用シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ法リ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

松田友藏

右ノ理由ナルニ依リ刑法第二條及ヒ治罪法第三百五十八條同第二百二十四條ニ依リ無罪放免スルモノナリ

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十三號

○判文〔漂流物隱匿ノ件〕明治十五年十二月廿七日上告
同　十六年八月九日申渡

熊本縣肥後國託摩郡十禪寺
村平民農業
岡村慶次郎
明治十五年九月
二十八年三ヶ月

隱匿セシ漂流物タルヿヲ知テ受ケタル被告事件ニ付明治十五年九月二十八日熊本輕罪裁判所カ言渡シタル裁判ニ對シ檢事補森田廣矩ハ上告セリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ如ク判決ス

本案上告ノ趣旨ヲ審究スルニ先立チ其手續ノ如何ヲ見ルニ原裁判言渡ハ明治十五年九月二十八日ニアレハ治罪法第四百十四條ニ從ヒ三日內上告申立ヲ爲スヘキニ之ヲ爲サス突然十月九日ニ至リ上告趣意書ヲ差出シタルモ即チ定規ニ違背セシモノナリ仮リニ其上告申立ハ定規ヲ履ミタルモノナリトスルモ其趣意書ニ差出スヘキ期限ハ治罪法第四百十七條ノ定規ノ如ク同年十月七日ニ當レルニ之レカ期限經過シタル後ニ係レハ治罪法第二十條ニ依リ上告ヲ爲スノ權ヲ失ヒタルモノナリトス因テ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十四號

○判文〔監視規則違犯ノ件〕明治十六年七月十日上告
同　十六年八月九日申渡

鹿兒島縣大隅國大島郡名瀨
方伊津部村四十五番戶平民
農
奥清常
明治十六年三月
三十年七月

右清常カ被告事件ニ付明治十六年三月六日鹿兒島重罪裁判所ニ於テ被告ハ監視規則ニ違反シ及ヒ監視票ヲ毀棄シタル者トシ監視規則ニ背キタルハ刑法第百五十五條ニ依リ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘク監視票ヲ棄毀シタル所爲ハ官ノ文書ヲ棄毀シタルモノヲ以テ論シ刑法第二百三條第一項ニ依リ輕懲役ニ處スヘキモノトシ右二罪併發スルニ付刑法第百條ニ依リ一ノ重キニ從ヒ輕懲役ノ處所犯原諒スヘキ者トシ本刑ヨリ二等ヲ輕減シ重禁錮一年六月ニ處シタル裁判ニ對シ本院檢事長渡邊驥ハ司法卿ノ命ニヨリ非常上告ヲ爲シタル旨趣ハ犯人ニ下付シタル監視票ハ官文書ノ性格ヲ有セサルカ故ニ原裁判所ニ於テ被告清常

カ監視規則ニ違犯シタルニ刑法第百五十五條ヲ適用シタルハ至當ノ判決ナルモ官文書ヲ毀棄セシ罪アリトシ刑法第二百三條ニ依リ處斷シタルハ即チ治罪法第四百三十五條ニ所謂法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ玆ニ之ヲ審按スルニ刑法附則第二十六條ニ依リ犯人ニ下付スル監視票ノ如キハ元官署ノ調製ニ係ルモノト雖モ已ニ其票ヲ犯人ニ下付シタル後チ之ヲ受ケタル犯人該票ヲ毀棄シタル場合ハ官ノ文書ヲ破棄シタル者ヲ以テ論スベキモノニアラス何トナレハ監視票ノ性質ハ犯人謹慎ヲ表スル爲メ警察署ニ其票ヲ出シ認印ヲ受クルモノニシテ專ラ監視ノ刑ヲ受ケタル犯人ニ便益ヲ與フル爲メナレハ已ニ其票ヲ犯人ニ下付シタル以上ハ是即チ犯人ノ所有ニ同シキヲ以テナリ故ニ本院檢事長上告ノ如ク原裁判所ニ於テ被告カ監視規則ニ違反シタル所爲ニ對シ刑法第百五十五條ヲ適用シタルハ相當ナルモ監視票ヲ毀棄シタルヲ以テ官ノ文書ヲ毀棄シタル罪ト斷定シタルハ不法ノ裁判ナリトス因テ本件ハ治罪法第四百三十五條第二項ニ照シ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

奥清常

右ハ前ニ辯明スル如クナルニ因リ被告カ監視票ヲ毀棄シタル所爲ハ刑法第二條ニ依リ罪ノ問フ可キナシ其監視規則ニ違犯シタル所爲ハ刑法第百五十五條監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依リ重禁錮六月ニ處スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十五號

○判文（詐欺取財ノ件）明治十五年十二月二日上告
同　十六年八月十日申渡

廣島縣備後國深津郡新涯村
平民農　大瀬石太郎
明治十五年九月
三十七年八ヶ月

右石太郎カ正數外ノ金員ヲ徵收シタル被告事件ニ係ル豫審終結ノ故障申立ニ對シ明治十五年九月二十日尾道輕罪裁判所會議局ニ於テ被告ハ故障ノ申立ヲ爲スモ治罪法第二百四十八條ノ期限ヲ過キ猶ホ其趣意書ヲ差出サヽレハ判決ヲ爲スニ由ナキヲ以テ之レヲ棄却ストノ言渡ヲ不服トシ右石太郎ハ上告ヲ爲セリ而シテ其趣旨ハ渾テ反覆事實ヲ陳辨シ以テ豫審判事カ採証上ニ不當アリト云フニ在リ依テ本院檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

治罪法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアルヲ以テ之ヲ觀レハ被告ニ於テ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障申立ヲ爲スモ其期限內之レカ趣意書ヲ差出サヽルヲ以テ原裁判所會議局カ之ヲ棄却シタルハ固ヨリ適法ノ判決ニシテ上告ノ旨趣ハ都テ治罪法第四百十條各項ノ規程外ニ渉リ上告ヲ爲スヲ得ルノ原由ナキニ付同法第四百二十七條ニ照シ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十六號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年十二月十九日上告
同　十六年八月十日申渡

岡山縣美作國西西條郡上才
原村平民大工職
藤本萬吉

右萬吉カ被告事件ニ付明治十五年十月十日鳥取輕罪裁判所ニ於テ被告ハ邑美郡川外大工町士族三谷祿次郎後藤多一郎ヲ欺罔シ物品詐取セシモノトシ刑法第三百九十條及ヒ第三百九十四條ニ照シ重禁錮三月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法トシ同裁判所檢事補福田武規カ上告ヲ爲スノ要旨ハ三谷祿次郎外四名ノ告訴ニ係ル五次ノ犯罪公訴セシニ被告カ三谷祿次郎後藤多一郎ニ對スル所爲耳ヲ判決シ安田甚藏楢山甚平ヲ欺罔シ飲食シタル所爲ヲ不問ニ付シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件ハ原檢察官カ上告論旨ノ如ク檢察官ヨリ被告カ五次ノ犯罪ヲ公訴セシニ原裁判官ニ於テ被告カ安田甚藏外一名ニ對スル二次ノ所爲ヲ不問ニ措キタルハ不法ノ裁判タルヲ免レス何トナレハ檢察官カ右二名ニ對スル被告カ犯罪ヲ公訴セシトハ公判始末書ニ揭ケテ明白ナレハナリ因テ治罪法第四百二十八條ニ法リ原裁判ヲ破毀シ岡山輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十七號

○判文〔藥品取扱犯則ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年八月十日申渡

岩手縣陸中國南岩手郡東中
野村平民佐藤庄兵衛雇人
福井新八

右被告事件ニ付明治十五年七月十三日盛岡輕罪裁判所會議局ニ於テ被告ハ佐藤庄兵衛雇人ニシテ青粉ヲ販賣スルニ際シ店頭ニ其品ナキヨリ土藏中ニ釣シアル綠青ヲ青粉ト信シテ賣渡シ因テ人ヲ疾病ニ致シタル所爲ハ雇主庄兵衛ニ於テ被告カ未タ該家ニ雇ハレサル前ニ綠青ヲ販賣セシコトアリシモ藥品取扱規則頒布ノ後該營業ヲ廢止シ其殘品ヲ土藏ニ入レ置キタルモノナレハ被告ハ藥品ノ蓄ヘアルヲ知ルノ理ナク且其物色青粉ニ肖似セシニ依リ疑ヲ容レサルハ當然ナリ況ンヤ十六歲ニ滿サル幼者ニシテ充分ノ思料ヲ有セサルモノナレハ罪ヲ犯スノ意ナキハ勿論其行爲已ムヲ得サルニ出テ一モ疎虞ノ憑徵アラサレハ過失ニヨリ人ヲ疾病ニ致シタルモノトナスヲ得サルモノトス因テ豫審係カ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ當然ナリト判決セシ處同裁判所檢事補菅原良三郎上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告ニ於テ平素販賣スル處ノ青粉ハ食物着色ノ用ニ供スルモノナレハ他物ト取違ヘサル樣注意ヲ加フヘキハ當然ノ務ナルニ其土藏ノ中ニアルモノハ青粉ナルヤ否ヲ質サス自ラ青粉ナリト誤信シテ綠青ヲ販賣

シ因テ人ヲ疾病ニ致シタルハ即チ疎虞ノ所爲ニシテ刑法第三百十九條ニ依リ處斷スヘキモノナルニ會議局判決ノ此ニ出テサルハ不法ナリト云フニアリ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

刑法第八十條ニ罪ヲ犯ス時滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否ヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス云々トアリ本案被告事件ヲ審按スルニ綠青ヲ青粉ト取違ヘタルノ事實ハ假令其手續ノ已ムヲ得サル所アルニセヨ到底之ヲ不注意若クハ疎虞ト謂ハサルヲ得スト雖モ元來被告ハ僅カニ十三年餘ノ幼者ニシテ未タ充分ノ思料ヲ有スル者トナスヘカラサレハ固ヨリ是等ノ不注意ナキヲ以テ斯ル幼者ニ責望スヘカラサルヤ明ケシ則チ所謂是非ノ辨別ナクシテ犯シタル者ニ非スシテ何ソ但豫審終結ノ言渡及ヒ會議局ノ判決ヲ閲スルニ其理由ヲ揭示スルニ至リ一ハ被告カ幼年ナルヿヲ問ハスシテ唯其罪トナル事實ヲ知ラサルニ出テタル所爲ナリト云ヒ一ハ重モニ其行爲ノ已ムヲ得サルニ出テ疎虞ノ實ナキ所以ヲ主張スル等稍瑕瑾アルヲ免レスト雖モ到底該被告事件ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ者ニシテ豫審ノ言渡會議局ノ認可トモ齊シク同一ノ結果即チ免訴ニ出テタレハ右言渡等ニ對シテハ別ニ破棄ヲ要セス治罪法第四百廿七條ニ遵ヒ該上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十八號

○判文〔銃獵規則違犯ノ件〕明治十五年十二月八日上告
同 十六年八月十日申渡

千葉縣安房國長狹郡成川村
平民農　　青山又治

明治十五年五月
二十四年

右又治カ被告事件ニ付明治十五年五月十五日木更津輕罪裁判所ニ於テ被告カ鳥獸獵規則違犯事件取調ヲ爲シタル處被告ハ公訴以前已ニ徵兵ニ應シ東京鎭臺佐倉營所ヘ入營セシヲ以テ治罪法第四十八條ニ從ヒ管轄ニアラスト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ檢事碧川直澄カ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告又治カ犯罪ハ未タ入營セサル以前ニアルニヨリ已ニ入營ノ後ト雖モ之ヲ管理スヘキモノナルニ原裁判所於テ其管轄ニアラスト言渡シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ治罪法第二十九條ニ於テ通常裁判所ニテ管轄スヘキモノト陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキモノトノ彼此ノ管係ヲ切斷シタル上ハ被告カ犯罪ノ當時ハ假令ヒ常人ナルモ已ニ發覺シテ公訴起ルノ場合ニアリテ東京鎭臺佐倉營所ニ入營シ身軍人トナリタルモノナレハ被告カ犯罪事件ハ通常裁判所於テ管轄スルヲ得サルモノナルヲ以テ原裁判所カ治罪法第四十八條ニ從ヒ其管轄ニアラスト言渡シタルハ不法ノ裁判ニアラサレハ上告ノ旨趣相立タサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百二十九號

○判文（竊盜ノ件）明治十五年十二月十六日上告
同　十六年八月十日申渡

靜岡縣伊豆國中郡田古村五
十七番地居住平民大工職
關市三郎
明治十五年六月
十六歲一月

明治十五年六月十九日八王寺治安裁判所ニ開キタル横濱輕罪裁判所ニ於テ右被告關市三郎カ竊盜ノ所爲ニ對シ刑法第三百六十六條ニ依リ犯時十六歲未滿ナルヲ以テ刑法第八十五條同第八十六條ニ照シ本刑ニ五等ヲ通減シ減シ盡スニ因リ刑法第七十一條ニ依リ拘留二日ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ從ヒ監視六月ニ付スト言渡タリ

大審院檢事長渡邊驥ハ明治十五年十二月四日付ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其趣意ハ原裁判所カ法律ニ依リ減盡シテ拘留ニ處シタルハ允當ナルモ拘留ノ刑ニ監視ヲ附加シタルハ不法ナルニ因リ治罪法第四百三十五條ニ原キ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ依テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ裁判スルヿ左ノ如シ

刑法第三百七十五條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアリテ拘留ノ刑ニ監視ヲ附加スヘキ正條アルコト無シ然ルニ原裁判所ハ輕罪ノ刑ヲ減盡シ拘留二日ニ處シタル被告人ニ對シ監視ヲ附加シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判所カ刑法第三百七十六條ヲ適用シ監視六月ニ付スト言渡シタル部分ヲ破毀シ之レヲ取消ス者也

第千百三十號

○判文（烟草稅犯則ノ件）明治十五年十二月廿二日上告
同　十六年八月十日申渡

愛媛縣伊豫國新居郡西條榮
町士族雜商
若原金一郎
明治十五年九月
五十年

煙草印紙再貼用被告事件ニ付明治十五年九月二十六日西條治安裁判所ニ於テ松山輕罪裁判所カ犯罪ノ証憑充分ナラサルニ因リ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部補高島德次郎ハ上告セリ其要領ニ曰被告金一郎カ其店頭ニ展列セル袋入ノ烟草ニ一旦相用ヒタル印紙ニテ裏面ニ藍色葉ノ字ノ糊着セル歷々徵スヘキ痕跡アルモノナルニ原裁判所ハ之ヲ証憑不充分ナリト認定セシハ擬律錯誤ニ係ル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムトノヿ

對手人若原金一郎ハ其裏面如何樣垢付キアルモ表面消印ナキ上ハ再貼用ニアラストノ趣旨ヲ述ヘ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各証憑ニ照シ必証ヲ資リ犯罪ノ証憑充分ナラスト認定セ

シ其事實認定ニ對シ採証ノ當否ヲ論難スルモ破毀ヲ求ムル原因ト爲スヲ得ス何トナレハ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ中立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ原裁判所ノ特任スル權内ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十一號

○判文〔強盜未遂ノ件〕明治十五年十二月廿五日上告
同　十六年八月十日申渡

茨城縣下總國猿島郡塚崎村
平民農業
落合宗次郎
明治十五年九月
二十八年

脅迫被告事件ニ付明治十五年十月九日栃木輕罪裁判所公廷ニ於テ檢事補外島保佶ハ本件強盜未遂犯ナリト思料シ既ニ豫審ヲ經タル者ニ付治罪法第三百六十一條ニ依リ會議局ニ移スノ言渡アランコトヲ求ムト云フニ對シ本案ハ強盜未遂犯ニアラス單一ナル脅迫罪ナリトシ之ヲ棄却スル旨言渡タル裁判ヲ不法ナリトシ仍ホ上告セリ其要領ニ曰被告ハ他ノ一名ト共ニ兇器ヲ携帶シ强盜ヲ爲サントシテ已ニ行ヒ未タ遂ケ得サリシ重罪犯者タルヲ以テ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シ其旨申立シニ原裁判所ハ之ヲ單一ノ脅迫罪ナリトシ管轄違ノ申立ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニアリ

對手人落合宗次郎ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

公判始末書豫審終結言渡及ヒ公廷ニ於テ已ニ調査ヲ爲シタル豫審廷ノ調書並ニ被害者蓬田友吉ノ調書ヲ閲スルニ被告ハ他ノ一名ト謀リ强盜爲スノ目的ヲ以テ他ノ一名ハ斧被告ハ桐ノ棒ヲ携ヘ共ニ被害者ノ門前ニ至ルモ戸締リ嚴重ニシテ輙ク開扉スルヲ得サルヨリ詐言ヲ以テ之ヲ開カシメント爲シタルモ亦應セス因テ開門セサレハ放火スヘシト脅迫シタルニ被害者ノ家族騷動シテ其場逃走シタリトノ顚末明載アルヲ以テ之ヲ觀レハ其强盜豫備ノ區域ヲ離レ決意ニ着手セシモノト云ハサルヲ得ス然ラハ則チ二人以上兇器〔斧トアリ又鉞トアルモ其現物ニ就カサレハ直チニ以テ兇器ト云ヒ難シ假リニ兇器ノ字ヲ塡ス〕ヲ携ヘ强盜ヲ爲サントシテ遂ケサルモノニテ其罪刑法第三百七十九條以下ニ當該スル重罪ナリトス然ルヲ原裁判所ハ單一ノ脅迫罪ニテ則チ輕罪ナリトシ檢察官ノ請求ヲ棄却シタルハ越權ノ處分ナリト判定ス因テ治罪法第四百二十八條ニ依リ已ニ履行シタル公判ノ手續ヲ破毀シ更ニ適法ノ判決ヲ受ケシメン爲メ被告事件ヲ水戸輕罪裁判所會議局ヘ移ス者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十二號

○判文〔私印僞造ノ件〕明治十五年十二月廿七日上告
同　十六年八月十日申渡

長崎縣肥前國長崎區麹屋町

平民宿屋營業　田島内藏之助　明治十五年八月

私印僞造被告事件ニ付明治十五年八月九日長崎輕罪裁判所豫審判官ハ證憑充分ナラサルヲ以テ免訴ストノ豫審終結言渡ニ對シ檢事補上原寛滿ハ故障ヲ爲シタルニ同會議局ニ於テモ亦豫審終結言渡ヲ認可セシニ因リ仍ホ上告セリ其要領ニ曰内藏之助カ被告事件ハ鑑定人濱崎熊次郎カ鑑定書並ニ長崎區役所回答書ニ因リ三溝善三ヘ貸付金催促ノ訴狀ハ僞印僞證タル證憑充分ナルニ原會議局ハ證憑不充分ナリトノ豫審終結言渡ヲ認可シタルハ不法ノ判決ナルヲ以テ破毀ヲ求ムトノ趣旨ヲ答辨セリ

對手人田島内藏之助ハ原判決允當ナリトノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處承審判官カ正當ノ權内ニアリテ各證憑ヲ取捨シ其心證ヲ資リ犯罪ノ證憑充分ナラスト認定セシ其採證ノ當否ヲ非難スルモ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨無効ナリトス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十三號

○判文〔無届遲參ノ件〕明治十五年十二月廿八日上告
同　十六年八月十日申渡

島根縣石見國那賀郡濱田浦　平民職業不詳　江尾吉太郎　明治十五年十一月　二十三年七ヶ月

勅解廷及ヒ民事廷呼出ニ對シ無斷遲參セシ事件ニ付明治十五年十一月十三日濱田治安裁判所カ明治十年第五號同十四年第七十二號布告ニ依リ金五錢ノ科料ニ處スト二個ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ檢事補井上暢達ハ上告セリ其要領ハ事件二個ナルモ其呼出シヲ受ケタルハ同一ノ裁判所ニアレハ各個ニ就テ處罰セス之ヲ一罪トシ罰スヘキ相當ナルニ各個ニ就キ罰シタルハ不當ナリト云ヒ又裁判言渡中ニ其事實ヲ揭ケス且署名捺印セス治罪法第三百四十條第二項同第四百十條ニ違背セシ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人江尾吉太郎ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

明治十年第五號布告ハ一ノ單行法律ナリトス然ラハ則チ明治十四年第七十二號布告第五條ニ從ヒ數罪俱發ノ例ニ依ルヲ得ヘカラサルモノタルヤ明晰タリ而シテ裁判言渡書ニ事實理由ヲ付セス且裁判官ノ記名調印ナキト云フト雖モ遲不參處分ノ如キハ特殊治罪ノ手續アル即チ民事裁判官ニテモ直チニ處分スヘキモノニテ治罪法ノ手續ニ據ラサルモ別ニ

不利益ヲ與ヘサレハ不法ト爲スノ限ニアラサルナリ其他治罪法第三百四十條同第四百十條ニ違背セシト云フモ前ニ辨明スル如クナレハ一々之ヲ贅辨セス因テ上告ノ趣旨總テ相立タサルモノトス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十四號

○判文〔人ノ器物毀損ノ件〕明治十五年十二月八日上告
同　十六年八月十一日申渡

神奈川縣武藏國南多摩郡八王子八日町第六十三番地平民柏原彌吉方同居平民八力車夫　木村重吉　明治十五年八月三十二年七月

右重吉カ被告事件ニ付明治十五年八月十四日八王子治安裁判所ニ開キタル横濱輕罪裁判所於テ被告カ明治十五年八月三日他人ノ器物ヲ毀損セシ所爲ハ飲食酩酊ノ爲メ知覺精神ヲ喪失シ是非ヲ辨別セスシテ爲シタル者ト認定シ刑法第七十八條ニ照シ其罪ヲ論セス直ニ放免ス但右犯罪ノ用ニ供シタル駒下駄ハ所有主ニ還付シ毀損シタル物品二箇損害賠償金三拾七錢三厘ハ寺田淺次郎ヘ被告ヨリ賠償スヘシト言渡シタル處原裁判所檢事代理警部德屋穎仲ハ上告ヲ爲シタリ其主旨ハ被告ノ所爲タル其熟醉中ニ在リト雖モ引致巡査ノ作リタル號外手續書及ヒ被告カ當時ノ擧動其他被告ハ平生酒ヲ嗜ム等ノ事蹟ニ就テ之ヲ視レハ被告ハ飲酒ノ爲メ知覺精神ヲ喪失シ是非ヲ辨別セスシテ犯シタル者ニ非ス然ルニ原裁判官於テ飲酒酩酊ノ爲メ知覺精神ヲ喪失シ是非ヲ辨別セスシテ爲シタル者ト認定シ放免ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ被告重吉答辨ノ旨趣ハ原裁判至當ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ヲ按スルニ人ノ性質ニ異同アリテ飲酒熟醉ノ爲メ知覺精神ヲ喪失スル者アリ又如何ニ酩酊スト雖モ爲メニ是非ヲ辨別セサルノ甚キニ至ラサル者アリ是等ノ識別ニ至テハ則チ治罪上承審官ノ認定ニ任從スヘキ者ナリ然而シテ本件ハ承審官於テ諸般ノ証憑ニ依リ當時ノ事蹟ニ徵シ被告ノ所爲ハ飲酒酩酊ノ爲メ知覺精神ヲ喪失シ是非ヲ辨別セスシテ爲シタル者ト認定シタル事實ナレハ則チ他ヨリ其事實ニ立入リ之カ判定ノ當否ヲ論難スルヲ得ス故ニ上告ノ旨趣ハ相立サル者トス

右理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ法リ上告ヲ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十五號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月六日上告
同　十六年八月十一日申渡

山口縣周防國吉敷郡山口早間田町居住平民元山口縣警

部補代理巡査　山根光雄（明治十五年九月二十六歳七ヶ月）

官吏人民ニ對スル犯罪被告事件ニ付明治十五年九月十一日山口輕罪裁判所ニ於テ右被告山根光雄カ所爲ハ井上仁平ノ被告事件ヲ訊問スル際其罪狀ヲ陳述セシムル爲メ警棒又ハ笞杖ノ如キ物ヲ以テ仁平ヲ毆打創傷シ二十日以下ノ時間休業ニ至ラシメタル犯罪ナリト認定シ刑法第二百八十二條及第三百一條第二項ニ照シ重キニ從ヒ刑法第二百八十二條ニ依リ重禁錮四月罰金五圓ニ處スト言渡セリ

被告山根光雄ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ本件井上仁平カ告訴ノ原因タルヤ己レニ私怨アル他ノ教唆ニ乘シ併テ自己ノ犯罪ヲ免レント欲シ自分及ヒ野村德造ヲ誣ユルニ無根ノ造說ヲ以テシ仁平カ頭部外一ケ所ニ疵痕アルヲ幸ヒトシ醫師ノ診斷書ニ因リ被害ノ證ト爲スト雖モ自分カ毆傷シタリト云フノ時ヨリ已ニ數閱日ヲ經過シタル後ニ在レハ何等ノ所爲ニ因リ傷ヲ成シタルヤ固ヨリ推測シ能フ可キ道理ナキノミナラス自分カ之ヲ傷ツケタリト云フノ證ト爲スニ足ラサル可シ自分カ拷訊セサルヿハ現場立會タル證人藤山智哲ノ陳述ヲ以テ充分明亮ナル可シ且本件ニ對シ檢察官ニ於テハ證憑不充分ト爲シ公訴ヲ拋棄セラレタルヲ見テモ其無罪ナルヿ知ル可キナリ幸ヒニ野村德造ハ仁平ヲ喚問ノ當日出張不在ナルノ證據アル有テ其誣指ヲ免レタルモ自分ハ遂ニ刑ノ言渡ヲ受ケタリ是レ未タ審理ヲ盡サヽル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

對手人檢事松長光吉カ答辯ノ要領ハ上告ノ趣意ヲ約スレハ不充分ナル證據ニ因テ裁判ヲ言渡サレタルハ不當トスルニ在リ抑本案ノ公判ニ於テハ被害者井上仁平ハ同一ノ被告人野村德造ニ對シ故意ヲ以テ不實ノ陳述ヲ爲シタル廉分明ニシテ山根光雄ニ對シタル證言ニ於テモ甚タ信ヲ措キ難ク而シテ他ニ間接ノ證憑アルモ之ヲ以テ罪ヲ斷スルハ頗ル不充分ナルヲ感覺シ本職ニ於テハ悉皆公訴ノ權ヲ拋棄シタルナリ然レトモ裁判官ハ光雄ヲ有罪ナリト認メ刑ノ言渡ヲ爲シタル以上其事實認定ノ點ニ對シ上告ヲ爲スハ法律ノ許サヽル處ナルニ因リ當然棄却アル可シト陳辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事池上三郎ノ趣意ヲ聽クニ上告ノ論點ハ專ラ證據ノ如何ニ在テ其趣旨不相立モノヽ如シト雖モ原裁判ハ實ニ越權且擬律ノ錯誤アル者ト考量スルニ因リ卽チ其理由ヲ述ヘ以テ附帶ノ上告ヲ爲サント欲ス抑治罪法第三百四條ニ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ云々一切ノ證憑ヲ明示ス可シ又同法第三百五十八條ニ犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シトアリ本案裁判言渡書ヲ閱スルニ井上仁平カ被告事件ヲ訊問スル際云々トノミアリテ一モ之カ證憑ヲ明示セス裁判官ハ何ニ因テ其事實ヲ認メタル乎之ヲ知ルニ由ナク茲ニ原書類ニ就キ之ヲ探究スルニ本案ノ證人タル藤山智哲ハ被告人ニ於テ仁平ヲ毆打シタルヿナシト證言シ又醫師ノ診斷書ノ如キハ間接ノ證トスルモ疵痕ノアルト云フニ過スシテ必ス有罪ノ證トスルニ足ラス由是觀之被告人カ仁平ヲ拷訊シタルヿハ毫モ其證憑ノ見ルヘキナシ故ニ原裁判所ハ之カ證憑ナキニ因リ明示スル能ハサル者ト認メサルヲ得ス夫レ如此ハ卽チ治罪法第三百五十八

條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヿ當然ナリ然ルニ擅ニ無證ノ事實ヲ掲ケ刑法第二百八十二條ヲ適用シタルハ特リ擬律錯誤ノ裁判ノミナラス治罪法ノ成規ニ違背シタル越權ノ處分ナリトス依テ本院ニ於テハ被告人利益ノ爲メ專ラ擬律錯誤ノ一點ニ對シ至當ノ判決アランコトヲ企望スト辨明セリ仍テ裁判スルコト左ノ如シ

凡犯罪ノ事實ヲ認定シ證憑ヲ採擇スルハ裁判官ノ特權ナリト雖モ其行爲ヲ推究セス物理ニ適合セサル認定ハ輒チ治罪法第百四十六條ヲ擅用シタル越權ノ處分ナリトシ治罪法ニ定メタル規則ニ依リ當然上告破毀ヲ求ムルノ原由ト爲ス可キナリ抑本件被告人ニ對シ何等ノ證據ニ因リ有罪ノ判定ヲ下シタル歟其理由ヲ知ルニ由シ無ク訴訟書類ニ就キ之ヲ監査スルモ被告人カ犯罪ノ證憑ト爲スニ足ルヘキ者アルコト無クシテ反テ被告人カ被害者井上仁平ヲ毆傷セサルヿハ證人藤山智哲カ陳述ヲ以テ之ヲ證明スルニ充分ナリトス夫レ井上仁平カ證言ノ信スルニ足ラサルヿハ檢事ニ對シ爲シタル告訴調書及ヒ公判廷ニ於テ申立タル證言ニ因レハ太田分署ノ達ニ應シ出頭シタル處山根野村兩巡査ヨリ博奕事件ノ訊問ヲ受ケタル末捕縛毆打セラレタリトノ趣旨ヲ陳述セリ然ルニ巡査野村德造ハ仁平ヲ喚問ノ際該署ニ在ラサルノ證ヲ立テタルカ故仁平カ故意ヲ以テ誣指シタルヿ判然セリ故ニ仁平カ證言ハ山根光雄ニ對スル陳述モ亦信用ス可ラサルナリ又醫師診斷書ノ如キハ固ヨリ仁平カ身体ニ疵痕アルヲ認メタル迄ニシテ本案被告事件ノ證據トハ爲ス可ラサル者ナリ果シテ然レハ被告人ノ行爲ハ有罪ノ證ナク其採證ハ物理ニ違ヒ到底證憑不充分ナルヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可キニ原裁判官ハ刑法第二百八十二條ヲ適施シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アル者トス依テ附帶上告ノ趣旨ニ原キ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ治罪法第三百五十八條ニ依リ被告山根光雄ニ無罪ヲ言渡ス者也

大審院ニ於テ檢事加納久宜立會宣告ス

第千百三十六號

○判文（證書ヲ騙取シタルノ件）明治十五年十二月十三日上告
同　十六年八月十一日申渡

三重縣伊賀國阿拜郡玉瀧村
平民中島敬吉事滋賀縣近江
國犬上郡百石町五番地
士族
小野敬吉
明治十五年九月
二十三年九月

右敬吉カ被告事件ニ付明治十五年九月十六日大垣治安裁判所ニ開キタル岐阜輕罪裁判所ニテ被告ハ安藤貞助衣斐利三郎ヲ欺罔シ實際申明シ證ト題セル證書ヲ騙取シタル者ト認定シ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ照シ重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視十月ニ付スル旨言渡シタル裁判ニ服セス被告敬吉上告ヲ爲スノ主旨ハ被告カ所爲上假ニ證書騙取ノ形跡アリトスルモ徹頭徹尾欺罔ノ意思ナク犯罪ヲ構造スヘキ元素ヲ具備セス況ンヤ毫モ騙取ノ所爲ナキニ於テオヤ然ルニ原裁判官ハ刑法第七十七條ヲ適用セスシテ反テ同法第三百

九十條ニ依リ處斷セラレタルハ勿論安藤真助カ取戻ヲ請求シタル分ハ乙號證ナルニ請求以外ノ證書即チ甲號證ヲ彼ニ還付セラレタルハ何レモ不當ノ裁判ニシテ其他原判文中事實ニ相違スル廉枚擧ニ遑アラス因テ該裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ原裁判所檢察官警部補岩田寛廣ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審判スル左ノ如シ

被告ニ於テ人ヲ欺罔シ証書類ヲ騙取シタルヿ之ナキ旨逐條辨疏スト雖モ治罪法第百四十六條第二項ノ明文アルアリテ採證及ヒ事實ノ判定ハ總テ承審官ニ特任セルモノナレハ犯罪ヲ構造スヘキ條件ヲ具備スルト否トハ是卽チ承審官ノ認定ニ任スヘキ者トス然リ而シテ本件ハ承審官ニ於テ被告カ所爲ハ証書ヲ騙取セルモノナリト認定シタル者ナレハ卽チ他ヨリ該事實ニ侵入シ其認定ヲ動シ得ヘカラサルハ勿論其証書還付ノ點ニ至テモ原裁判ハ明治十五年九月十九日原裁判所ニ於テ安藤真助代人衣斐利三郎ニ言渡シタル如ク實際申明シ証甲號ノ分ハ右真助於テ被告ニ騙取セラレタル證書ナルモ其乙號ハ真助ノ所有ニ非ルヲ以テ惟リ甲號証ヲ真助ニ還付シタル者ナレハナリ其他原判文中一トシテ違法ノ廉アルヿ非レハ上告ノ旨趣ハ都テ相立サル者トス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十七號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月十五日上告
同　十六年八月十三日申渡

神奈川縣武藏國西多摩郡黑澤村五十七番地居住平民農業

柳内伴次郎　明治十五年十月　四十二歳

同縣同國同郡青梅町字大柳三百十番地居住平民農業

新平妻

原鴫　イセ　明治十五年十月　四十四歳

監禁制縛並ニ毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十月十四日八王子治安裁判所ニ開キタル横濱輕罪裁判所ニ於テ右柳内伴次郎カ所爲ハ島田佐吉ヲ擅ニ監禁制縛シテ毆打創傷二十日以上疾病休業ニ至ラシメタル者ト判定シ刑法第三百二十三條同第三百二十四條同第三百一條第一項ニ照依シ情狀ヲ原諒シ刑法第九十條ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮六月ニ處シ原島「イセ」ハ右制縛スル際麻繩ヲ給與シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ト判定シ刑法第百九條ニ依リ正犯伴次郎ノ刑ニ一等ヲ減シ仍ホ情狀ヲ原諒シ刑法第九十九條同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ重禁錮四月十五日ニ處スト言渡シタリ

原裁判所檢察官警部瀧本了最ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタルノ趣旨ハ被告柳内伴次郎ハ原

島新平ト共ニ島田佐吉ヲ毆傷シ二十日以上疾病ニ至ラシメ傷ノ輕重ヲ知ルヿ能ハサル者ナレハ其重傷ノ刑ニ一等ヲ減シ處斷スヘキヲ共犯原島新平ノミ刑法第三百五條ヲ適用シ柳内伴次郎ニ對シ該條ヲ適用セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ又原島「イセ」ニ對シテハ刑法第三百二十三條ノ刑ヨリ減等スヘキ者ナルヲ「イセ」カ曾テ關知セサル罪刑法第三百一條第一項ノ刑ヨリ減等シタルハ是亦擬律錯誤ナルニ付キ被毀ヲ求ムト謂フニ在リ而シテ「イセ」ニ係ル上告申立ハ明治十五年十月三十日ニ在ルモ本犯ノ裁判確定セサル間ハ從犯ノ裁判モ亦確定セサル者ト見込上告スル旨ヲ附言セリ

被告柳内伴次郎ハ上告趣意ニ對シテハ意見ナキ旨ヲ答辨シ別ニ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ被告人ハ事發覺前青梅分署ヘ自首シタル者ナレハ刑法第八十五條ニ從ヒ減輕ヲ與ヘラルヘキ者ナリト論辨シ又原島「イセ」ハ其制縛スヘキ器具ヲ手ツカラ貸與ヘタルニアラス伴次郎ニ於テ被告人カ携フル繩ヲ取外シ用井ダル事實ナレハ固ヨリ無罪ノ言渡アルヘキ者ニシテ檢察官ノ上告モ亦其當ヲ得スト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ成規ニ從ヒ判決スルヿ左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閲スルニ被告柳内伴次郎ハ原島新平ト共ニ島田佐吉ヲ監禁制縛シテ毆傷ヲ成シタルヿ明確ナル旨明示シアリ然レハ則共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヿ能ハサル者ト言フ可ラサレハ固ヨリ刑法第三百五條ヲ適用ス可キ者ニアラス假令共犯人ノ一名ヲ輕キニ失シタリトスルモ夫カ爲メ本件ノ被告人ヲ減輕ス可キ法規アルヿ無シ又柳内伴次郎カ附帶上告ハ本件自首シタル旨申立レトモ原書類中其證ス可キ者アルヿ無ク却テ島田佐吉カ亂暴ヲ爲ス旨ヲ青梅分署ニ告發シテ巡査ノ出張ヲ請ヒ爲メニ毆傷事件ノ發覺シタルヿハ證スヘキ者アリ又原島「イセ」ニ係ル檢察官ノ上告申立ハ明治十五年十月三十日ニ在リテ原裁判言渡アリタルハ明治十五年十月十四日ニ在レハ治罪法第四百十四條ニ定メタル期限ヲ經過シ同法第二十條ニ依リ其權ヲ失ヒタル者トス此塲合ニ於テハ假令本犯ノ刑未確定ナリト雖トモ之ヲ以テ從犯ノ刑確定セスト言フ可カラス

右ノ理由ナルヲ以テ本件上告及ヒ附帶上告共ニ不相立治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十八號

○判文〔證劵印稅犯則ノ件〕明治十五年十二月十九日上告
同　十六年八月十三日申渡

埼玉縣武藏國兒玉郡南十條
村十四番地居住平民農業
中島長十郎　明治十五年十一月　三十五歳

證劵印紙ヲ再貼用シタル被告事件ニ付明治十五年十一月七日熊谷輕罪裁判所ニ於テ右長十郎ノ所爲ヲ審判シ刑法第百九十九條ニ依リ罰金三圓ニ處シ同第二百一條ニ從ヒ監視六月ニ付スト言渡シタリ

原裁判所檢事補高橋良榮ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ監視ノ刑ハ禁錮以上肉體ノ

刑ニ附加スヘキ者ニシテ單ニ罰金ニ止ル刑ニ附加スヘキ者ニアラサルニヨリ原裁判ハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ之ヲ裁判スル左ノ如シ

原裁判官ハ罰金ノ刑ニ處シタル被告人ニ對シ監視ノ刑ヲ附加シタリ抑モ刑法ニ定メタル監視ノ刑ヲ附加スヘキ者ハ體刑ニ該ル者ニ限リ適施スヘキ律意ニシテ罰金ノ刑ニ附加スヘキ者ニアラサルヿハ刑法第四十條ニ所謂監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算スト アルニ因テ之ヲ觀ルモ明瞭ナリ依テ上告ノ趣旨ヲ相當ナリトシ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判官カ被告中島長十郎ニ對シ刑法第二百一條ニ依リ監視六月ニ付スト言渡シタル部分ヲ破毀シ之ヲ取消スモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百三十九號

○判文〔新聞條例違犯ノ件〕明治十五年十二月廿二日上告
同 十六年八月十三日申渡

福岡縣筑前國福岡區博多下對馬小路士族
福岡日々新聞假編輯長
大隅捨虎

明治十五年十一月
十七年十一月

右捨虎カ被告事件ニ付明治十五年十月三十日福岡輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十三年第五十三號公布凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スル者ハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラス渾テ建白書ト爲シ元老院ニ於テ取扱候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事トアルニ依テ取扱フヘキ大分縣下酒造家總代佐藤安良ヨリ其筋ヘ差出シタル酒造減額ノ請願書ノ其筋ノ許可ヲ經スシテ明治十五年九月三十日以降數日ノ新聞紙雜報欄內ヘ連載セシモノト判定シ新聞紙條例第十六條院省使廳ノ許可ヲ經スシテ上書建白ヲ載スルヿヲ得ス犯ス者ハ罰前條ニ同シ同第十五條裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セサル者ヲ載スルコトヲ得ス又裁判官審判ノ議事ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ禁錮一月以上一年以下罰金百圓以上五百圓以下ヲ科ストアルニ依リ明治十四年第七十二號布告第二條ニ依リ被告ハ二十歳未滿ニ付刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月ノ輕禁錮ニ處シタル裁判ニ對シ被告捨虎カ上告ノ旨趣ハ此請願書ノ性質タルヤ一個人ノ利害ニ關スルト社會公衆ノ利害ニ關スルトヲ問ハス共ニ是レ疾痛慘怛ノ窮極ニ出ル情願最後ノ方法ナリ彼上書建白ノ性質ハ臣民上ニ向ツテ諫諍シ或ハ制法ノ建議等ヲ上陳スルモノナリ故ニ請願書ト上書建白トノ性質ヲ異ニスルヤ此ノ如ク判然タリ且新聞紙條例第十六條ニ院省使廳ノ許可ヲ經スシテ上書建白ヲ載スルコトヲ得ストアリテ請願書ヲ載スルコトヲ得ストノ明文ナキナリ然ルヲ原裁判所ハ全ク其性質ヲ異ニスル此請願書ヲ以テ彼上書建白ト混同シ又明文ナキ新聞紙條例第十六條ヲ適用シ處斷セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ判決スル左ノ如シ

明治十三年第五十三號布告人民ノ上書一般ノ公益ニ關スル者ハ何等ノ名目ヲ以テスルニ

拘ハラス渾テ建白ト爲シ元老院於テ取扱候云々トアルニ依レハ大分縣下酒造家總代佐藤安良カ其筋ヘ差出シタル酒造減額請願書ノ如キハ縱令請願書ノ名目タリトモ該書ノ性質此ノ布告ノ明文ニ依テ一般ノ公益ニ關スル建白ノ種類ニ歸スルヤ論ヲ俟タサルナリ左スレハ許可ヲ經スシテ猥リニ其請願書ヲ新聞紙ニ記載シタルヲ以テ新聞紙條例第十六條及ヒ第十五條ニ依リ處斷シタルハ不當ナリト爲スヲ得ス故ニ該上告ハ其原由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十號

○判文（窃盜ノ件、明治十五年十二月廿三日上告
同　十六年八月十三日申渡

福岡縣筑前國穗波郡菰田村
平民
福澤彌平
明治十五年六月
二十二年十月

右彌平カ被告事件ニ付明治十五年六月十二日福岡輕罪裁判所ニ於テ被告ハ窃盜罪ヲ犯シタル者ト判定シ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ窃取セシ者ハ窃盜ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依テ處斷スヘキ處所犯情狀原諒スヘキモノナルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減輕シ重禁錮一月ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ照シ六月ノ監視ニ付スル者也但被告人ハ明治十五年六月三日右始末ヲ飯塚警察署ヘ自首スルト雖モ已ニ事發覺ノ後ニ係ルヲ以テ其効ヲ有セスト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補八田一精カ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告カ自首ハ被害者ノ失單後ニ在リト雖モ其失單ダルヤ止タ被害者カ盜難ニ係リシ事ヲ官ニ屆ケ出タル而已ニシテ其盜犯何人タルヲ知ラサル以前ニ在レハ未發自首ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ニ在リ茲ニ大審院ニ於テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ刑法第八十五條ニ曰罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ストアルハ犯罪人ノ誰タルヲ官及ヒ被害者ノ覺知セサル前ニ自首シタル者ヲ謂フノ法意ナリ本件ノ被害者高野伊三郎カ明治十五年五月三十一日飯塚警察署ニ差出シタル盜難屆書ニ依レハ被害者伊三郎ニ於テ其盜爲ハ何人タルヲ覺知セス又飯塚警察署ニ於テモ未タ其罪犯ノ誰タルヲ認メサル前ニ自首セシ者ナリ而シテ被告ノ白狀及ヒ被害者ノ陳述ニ依レハ被告ハ自首シテ賍金全部ヲ還償シタル者タリ然レハ則チ被告カ自首ニ對シテハ刑法第八十五條及ヒ第八十六條ヲ適用シ本刑ヲ減輕スヘキモノトス然ルニ原裁判官ニ於テ被告ノ所爲ニ對シ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ照依セシハ相當ナルモ自首減輕法ヲ適施セサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス由テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

福澤彌平

右ニ辯明スル如クナルヲ以テ被告カ所爲ハ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキ處未發自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ依リ本刑ニ

一等ヲ減シ而シテ其賍金全數ヲ還償スルヲ以テ仍ホ同法第八十六條ニ依リ又二等ヲ減シ十五日以上一年以下ノ範圍ニ於テ重禁錮二十日ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スルモノ也

但被告カ呈供スル賍金ハ被害者ヘ下付ス

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十一號

○判文〔窃盗ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告
同　十六年八月十四日申渡

愛知縣尾張國愛知郡下一色
村七百六十番屋敷平民日雇
稼
村上条三郎
明治十五年十月
二十五年九月

右久米三郎カ窃盗ノ被告事件ニ對シ明治十五年十月十九日名古屋輕罪裁判所ニ於テ證憑充分ナラスト判定シ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補青木素カ上告ヲ爲スノ要領ハ今ヤ無罪ノ言渡ヲ爲スニ就テハ其證憑充分ナラサルノ反證ヲ擧ケ且其理由ヲ付シテ之カ言渡ヲ爲サヽレハ何等ノ點ニ依リ證憑充分ナラサルヤヲ知ルニ由ナシ然ルヲ單一ニ被告カ窃取シタリト確認スヘキ證憑充分ナラストシ無罪ノ言渡ヲ爲セシハ事實ノ理由ヲ付セサル裁判ナリト云フニアリ對手人村上久米三郎カ答辨ノ要旨ハ原裁判至當ナリト云フニ外ナラス玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ主要ハ本件無罪ノ言渡ヲ爲スニハ反證及ヒ其理由ヲ明示セサルヘカラスト論告スルモ治罪法第三百五十八條第一項ニ犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シト又其第三百五條ニ無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トシテ被告人ニ對シ犯罪ノ証憑ナキヿヲ明示スヘシトアリ由是觀之ハ無罪ノ言渡ヲ爲スニハ單ニ其証憑ナキヿヲ明示スルヲ以テ足レリトス然ラハ原裁判官カ犯罪ノ証憑充分ナラサルヿノミヲ示シテ無罪ノ言渡ヲナセシハ素ヨリ適法ノ裁判ニシテ問然スル所ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ法リ該上告ハ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十二號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十二月十二日上告
同　十六年八月十四日申渡

三重縣伊賀國阿拜郡上野紺
屋町平民日雇稼
尾崎喜助
明治十五年六月
四十二年九ケ月
三重縣伊賀國阿拜郡馬苦勞
町平民日雇稼

永井清七
明治十五年六月
四十三年生月不知
三重縣伊賀國阿拜郡服部町
平民農業

橋本源助
明治十五年六月
五十一年生月不知
大阪府大和國添上郡佐川村
平民農業

廣芝新助
明治十五年六月
四十三年生月不知
愛知縣三河國碧海郡國江新
鄉村平民浮カレ節太夫元

中根德次郎
明治十五年六月
二十二年二ヶ月
三重縣伊賀國阿拜郡丸桂村
平民鑄懸職

早川房次郎
明治十五年六月
二十六年四ヶ月
三重縣伊賀國阿拜郡本與村
平民雜業

小川幸吉
明治十五年六月
五十七年二ヶ月
三重縣伊賀國阿拜郡上野忍
町平民無職業

松井伊平
明治十五年六月
五十七年生月不知
三重縣伊賀國阿拜郡上野忍
町平民無職業

鐵崎乙吉
明治十五年六月
五十九年生月不知
三重縣伊賀國阿拜郡上野愛
宕町平民無職業

田中嘉左衛門
明治十五年六月
二十八年九月生
三重縣伊賀國阿拜郡上野清
水町平民雜業

博奕被告事件ニ付明治十五年六月十九日上野治安裁判所ニ於テ安濃津輕罪裁判所カ犯罪ノ証憑充分ナラサルヲ以テ無罪放免スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部堀萬興ハ上告セリ其要領ニ曰被告人共ハ現ニ博奕ヲ爲シ居リタルモノナルモ巡査ノ進行ヲ偵知シ其器具ヲ隱匿セシモノナルニ裁判官ハ被告人共ノ辨護ヲ偏信シ證憑不充分ナリト判定セシハ不法ナリト云フニアリ

對手人尾崎喜助外九名ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ述ヘ原裁判至當ナリト答辨シ永井清七廣芝新助早川房次郎ハ答辨セス

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證憑ヲ審究シ罪ト爲ルヘキ證憑不充分ナリトシ無罪ヲ言渡シタル採證ノ當否ヲ論難スルト雖モ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何トナレハ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨無効ナリトス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十三號

○判文（竊盜ノ件）明治十五年十二月八日上告
同　十六年八月十五日申渡

梶	半三郎	明治十五年六月四十三年四ヶ月
三重縣伊賀國山田郡下友生村平民日雇稼		
山村	金次	明治十五年六月四十二年四ヶ月
三重縣伊勢國安濃郡津北濱町平民小魚商		
坂口	乙吉	明治十五年六月三十一年生月不知
青森縣陸奥國下北郡檜川村宇之松長男平民漁業		
東	力藏	明治十五年六月二十三年七月
同人弟		
東	德藏	明治十五年六月十五年一月

右被告兩名ニ對シ漁業ノ爲メ人ノ海中ニ施シ置キタル魚釣縉ニ魚ノ懸リタル儘竊取シタル者トナシ刑法第三百六十六條同第三百六十九條同第三百七十六條ヲ適用シ力藏ハ重禁錮二月十五日ニ處シ監視六ヶ月ヲ附シ德藏ハ十六年未滿ナルヲ以テ仍ホ刑法第八十條ニ依リ宥恕シテ二等ヲ減シ

重禁錮四十五日ニ處シ監視六ケ月ヲ附スル旨宣告セリ

檢察官青森縣警部補都賀一覺於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲナシタリ其要領ハ海中ニ於テ人ノ施シ置タル釣縉ニ魚ノ懸リタル儘窃取シタル所爲ハ刑法第三百七十三條同第八十條同第三百七十六條ノ各條ヲ適用スルヲ相當ナリトス然ルヲ原裁判茲ニ出テス刑法第三百六十六條同第三百六十九條等ノ各條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第三百七十三條ニ曰ク山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ窃取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ窃取シタル者云々第三百六十六條ニ曰ク人ノ所有物ヲ窃取シタル者窃盜ノ罪ト爲シト云々被告等ニ於テハ人ノ生養シ若シクハ營業ニ關スル產物ヲ窃取シタル者ニアラスシテ漁業ノ爲メ人ノ海中ニ施シ置タル魚釣縉ヲ窃取シタル者ナリトス而テ其釣縉タル川澤池沼湖海ノ產物ニ非スシテ人ノ所有物ニ係ルハ言ヲ俟タス故ニ第三百六十六條第三百六十九條等ノ支配スヘキ所ニシテ第三百七十三條第三百八十條ニ問擬ス可キ者ニアラス原裁判所於テ前記ノ如ク判定シタルヲ擬律錯誤ノ裁判ト言フヲ得ス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十四號

○判文（集會條例違犯ノ件）明治十五年十二月廿二日上告
同　十六年八月十五日申渡
山口縣長門國赤間關區西ノ端町平民活版職　松野武左衛門　明治十五年八月　三十六年八ケ月
大分縣豐後國速見郡杵築村　平民代書業　桐幡復吉　明治十五年八月　二十五年七ケ月

集會條例違犯被告事件ニ付明治十五年八月廿六日赤間關治安裁判所ニ於テ山口輕罪裁判所カ刑法第五條及ヒ集會條例第十條ニ依リ武左衛門ヲ罰金十五圓ニ處シ仍ホ刑法第百五條ニ照シ復吉ヲ罰金十五圓ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス各上告セリ其要領ハ馬關懇親會ノ席上ニ於テ六種ノ政体ヲ說キタルハ學術上ノ可ニテ決シテ政談ニアラサルニ檢察官ハ之カ學術ト政談トノ區別ヲ爲サス輒ク求刑シ裁判官モ亦之ヲ容レ集會條例第十條ニ依リ處斷セラレタルハ不當ナリト云ヒ而シテ檢察官附帶上告ニ對シ前意ヲ擴張シ長崎宮城兩縣ノ伺指令ヲ引用シ政談ニアラサルトノ趣旨ヲ論述セリ

對手人檢察官警部古川龍藏ハ上告趣意ノ不當ナルヲ辨駁シ併セテ原裁判ノ完全ナラサルヲ認ムルヲ以テ爰ニ附帶ノ上告ヲ爲スト云フニアリ其附帶上告ノ要ニ曰該會ハ馬關懇親會約則ニ依リ開設シタルモノニテ卽チ政事ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合セシモノニテ集會條例第二條ニ從ヒ其届出ヲ爲スヘキヲ常懇親會ナリトシ詐僞ノ届出ヲ爲シタルモノ

ナレハ同條例第十一條ニ照シ罰金ト禁錮ノ刑ト併科スヘキニ原裁判ノ茲ニ論及セサリシハ不法ナリトノ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル所純ラ政談ニ涉ラス學術上ノ演說ナリト云フニアリト雖モ上告趣意書ニ自カラ云フ〔中略政体ノ如キモ頃日或書籍ヲ關スルニ六種ノ多キアリ其名ヲ問ヘハ君主專制立憲政体共和政体其他何々而シテ其專制政體トハ國君自カラ万機ヲ獨決ス立憲政體トハ國君ト万民ト共ニ政治ヲナス云々商業ハ各種アレモ我レハ從來營業スル茶商ヲ好キトス政體モ各種アレト立憲政體カ吾儕好キナリト〕事ヲ商業ニ假リ自己ノ論旨ヲ演說セシモノニテ何ソ之ヲ政談ニ涉ラサルト云フヲ得ンヤ其他長崎宮城兩縣ノ伺指令ヲ引用シ政談學術ノ區分ヲ論スルモ前ニ言フ如ク自己ノ論旨ヲ加ヘサレハ或ハ學術ニ止ルモノナリト云フヘキモ茶商ヲ好トス又立憲政体ヲ吾儕好キナリト演說セシ上ハ政談ニ涉リタル著明ナルノミナラス原裁判所モ亦職權ヲ以テ認定セシ事實ニアレハナリ

附帶上告ノ理由ニ付馬關懇親會約則同祝文等ヲ見ルニ其政談ニ涉リタルハ見ルニ足ルモ政党ヲ組織シ社員名簿ヲ相備ヘタルノ証蹟ナキ上ハ集會條例第二條ノ管理スヘキ限リニアラス故ニ原裁判所カ同條例第十一條ヲ適用セス同第十條ヲ適施シ裁判セシハ不當ニアラサルナリ因テ上告及ヒ附帶上告ノ趣旨共ニ相立タス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告及ヒ附帶上告共棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十五號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月二日上告
同　十六年八月十六日申渡

山梨縣甲斐國東八代郡一櫻
村八十九番地平民農間豆腐商
中村俊三
明治十五年六月
四十三歳二ヶ月

明治十五年六月五日甲府輕罪裁判所ニ於テ毆打創傷ノ被告事件ニ付刑法第三百一條第一項及ヒ第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮九月ニ處シタル言渡ニ對シ右俊三ハ上告セリ其要旨ハ原裁判所ハ曩ニ醫師三枝松壽カ自分ノ痛所ヲ診斷シナカラ後ニ審問ヲ受ルニ至リ曖昧ナル陳述ヲ爲スニ付宜シク診斷ノ實況ヲ證セン爲メ當時立會タル巡査坂本伊八ヲ召喚シテ訊問スヘキニ一回ノ喚問ヲモ爲サス又醫師岩間藤策ハ被害者中村喜平ニ加擔シ曲庇ス可キノ疑アル者ナルニ其爲シタル診斷書ヲ證憑ニ採用シ且鬪毆ノ敵手タル中村喜平ヲ不問ニ付シタルハ不當ノ所分ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

訴訟書類ヲ閲スルニ被告ニ於テ巡査坂本伊八ノ喚問ヲ請求シタルヿ曾テ之レナシ故ニ之ヲ喚問スルト否トハ裁判官カ適宜ノ所分ニ屬シ今更非難スルヲ得ス又岩間藤策ノ中村喜平ニ於ル親屬ノ關係ナキハ勿論其曲庇ス可キ等ノ證徵アルヲ見ス故ニ其診斷書ヲ採用スルモ固ヨリ裁判官ノ權内ニシテ更ニ不法ノ處分ニ非ス又鬪毆ノ敵手タル中村喜平ハ豫審

ニ於テ既ニ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ナレハ公判ニ於テ之ヲ不問ニ措キタルハ至當ナリ要スルニ上告ノ旨趣ハ治罪法第四百十條ニ定メタル原由一モ之ナキ者トス依テ同法第四百廿七條ニ從ヒ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十六號

○判文〔賣藥規則違犯ノ件〕明治十五年十二月二日上告
同　十六年八月十六日申渡

兵庫縣丹波國多紀郡箱谷村
平民農業
槇原榮次郎
明治十五年七月
六十三年六月
神戸輕罪裁判

右榮次郎カ被告事件ニ付明治十五年七月二十一日篠山治安裁判所ニ開キタル所ニ於テ被告ハ免許鑑札ヲ受ケス製藥セシ痲疾藥十服ヲ自宅ニ於テ賣却シタルヲ以テ明治十年第七號布告賣藥規則第二十三條ニ依リ罰金二十五圓ニ處スヘキ處情法ヲ酌量シ罰金七圓ニ處シ販賣セシ製藥并ニ賣得金ハ沒收スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ檢察官警部補園部信彰カ上告ヲ爲スノ要旨ハ賣藥規則違犯ノ如キ單行法律ニ依リ處斷スヘキモノト雖モ刑法第五條第二項ニ從ヒ情狀原諒スヘキトキハ刑法ノ總則ニ依ラサルヘカラス然ルニ原裁判所於テ刑法ノ正條ヲ明示セスシテ單ニ情狀ヲ酌量シ罰金七圓ニ處スト言渡シタルハ不法ナリト云フニ在リ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ本件被告カ所爲ハ明治十年第七號布告賣藥規則第二十三條ニ根據シ處斷ス可キモノナルモ所犯情狀原諒ス可キ時ハ刑法第五條第二項ニ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ揭ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアルニ依リ仍ホ同法第八十九條第九十條及ヒ第七十條ニ照シ本刑罰金額二十五圓以上五十圓以下ノ範圍內ヨリ四分一ツヽ一等又ハ二等ヲ減輕シ處斷ス可キモノナルニ原裁判ノ此ニ出テサルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルヿ左ノ如シ

槇原榮次郎

右ノ理由ナルヲ以テ被告榮次郎ハ明治十年第七號布告賣藥規則第二十三條ニ依リ二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス可キ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第五條第二項ニ準據シ仍ホ同法第八十九條第九十條及ヒ第七十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ罰金十二圓五十錢以上二十五圓以下ノ範圍內ヲ以テ罰金十二圓五十錢ニ處シ販賣セシ製藥并ニ賣得金ハ右規則第二十三條ニ依リ之ヲ沒收スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十七號

○判文〔官印僞造ノ件〕明治十五年十二月四日上告
同　十六年八月十六日申渡

高知縣土佐國香美郡楠目村
平民楠右衛門長男
野口金造

明治十五年七月十二日高知輕罪裁判所ニ於テ野口金造カ被告事件ヲ審判シ二罪中一ノ重キ
偽造官印ヲ使用セントシテ未タ遂ケサルノ罪ヲ論シ刑法第百九十五條ニ依リ未遂犯罪ナル
ヲ以テ二等ヲ減シ二年以上五年以下ノ重禁錮ノ處自首シタルニ因リ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ
酌量シテ二等ヲ減シ重禁錮六月監視六月ノ刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス被告金造カ上
告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告人カ金圓ヲ借入レントシタルハ自己ノ利ヲ圖ルニ非ス只實父ノ
困窮ヲ助ケントスルノ意ニ出タルナリ其債主ニ渡シタル証書ハ地所抵當ノ公正證書ヲ作ル
迄ノ時間債主ノ承諾ヲ得テ假リニ差入レタル者ニシテ本證書ニ非ス其付箋ニ偽印ヲ押捺シ
タルモ固ヨリ惡意アリテ詐欺ノ所爲ニ出タルニ非ス即チ罪ヲ犯ス意ナキ所爲ナレハ刑法第
七十七條ヲ適用セラル可キ者ナリト云フニ在リ大審院檢事池上三郎ハ其意見ヲ陳述シ且附
帶ノ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人カ自首ハ豫審調書ニ依レハ既ニ發覺後ニ係ルヲ以テ自
首減輕ヲ與フ可キモノニ非ス又被告カ官印偽造ノ罪ハ既ニ遂ケタルモノナルニ原裁判所ハ
仍ホ未遂犯ト爲シ二等ヲ減シ云々ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ依テ之ヲ判
決スルヿ左ノ如シ

被告人カ楠目村戸長役場ノ印ヲ偽造シ及ヒ其偽印ヲ使用セントシタル犯罪ハ事實證憑明
白ニシテ固ヨリ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ト謂フヿヲ得ス而シテ上告ノ旨趣ハ一モ治罪法ニ
定メタル上告ヲ爲スヲ得ルノ原由アルニ非サルヲ以テ之ヲ採用スルニ由ナシ又被告人カ
犯罪ヲ自首シタルハ債主ニ於テ印影ノ眞正ナラサルヲ疑ヒ其ノ取調ノ爲メ告訴セントス
ルヲ知テ直チニ警察署ニ首出シタル者ナレハ發覺前自首シタリト謂ハサルヲ得ス故ニ原
裁判所カ舊法ニ在テハ人ノ官ニ陳告セントスルヲ知テ自首スルヲ以テ二等ヲ減シ新法ニ
在テハ發覺前自首スルヲ以テ一等ヲ減シ處斷ス可シト爲シタルハ相當ナリトス其官印ヲ
偽造セシ所爲ハ明治十四年中ニ於テ戸長役場ノ印ヲ偽造シ今其偽印ヲ押捺シタル者ナレ
ハ偽造ノ罪既ニ遂ケタルハ明瞭ナリ然ルニ原裁判所カ未タ使用シ遂ケサルヲ以テ二等ヲ
減シ云々ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト雖モ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊
法ニ從ヒ且二罪俱發スルニ因リ一ノ重キ偽印ヲ使用セントシテ未タ遂ケサルノ罪ヲ論シ
其偽造ノ罪ハ除棄シテ之ヲ問ハサルヲ以テ亦破毀ノ限ニ在ラス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ撿事池上三郎立會宣告ス

第千百四十八號

明治十五年七月
二十三年四月生
平民日雇稼
安岡金右衛門
明治十五年十月
四十一年
仝縣仝國仝郡逆川村平民農
業當時土佐郡山田町止宿

○判文（他人ノ物品ヲ冒認ノ件）明治十五年十二月七日上告
同　十六年八月十六日申渡
高知縣土佐國香美郡赤岡村

大倉又須　明治十五年十月　三十一年

明治十五年十月十三日高知輕罪裁判所ニ於テ右被告二名ニ對シ他人ノ物品ヲ冒認シテ典物ト爲シタル罪アリトシ刑法第三百九十三條第三百九十條第三百九十四條ニ依リ各重禁錮六月罰金十圓監視一年ノ刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告二名ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ上告人等ハ安岡源平久保「イワ」ノ爲メニ金圓ヲ調達シタルニ之ヲ返濟スルヿ能ハサルニ因リ「イワ」ノ承諾ヲ得テ其衣類ヲ典物ト爲シタルモノニシテ固ヨリ冒認詐欺ノ所爲アルニ非ス然ルニ原裁判所ニ於テ告訴人ノ片言ノミヲ信認シ上告人ノ利益ト爲ル可キ確證ヲ棄却シ輙ク冒認ノ罪アリト判定セラレタルハ採證ノ法ニ違背スルモノナリ又裁判言渡ニ罪ト爲ル可キノ理由ヲ明示セスシテ事實ニ齟齬アル裁判ヲ言渡シタルハ即チ事實ノ理由ヲ付セス及ヒ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ衆證ヲ採擇取捨シテ罪ノ有無ヲ決スルハ專ラ裁判官ノ判定ニ任從スル者ナレハ其判定上ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヿヲ得サルモノトス本案事件ノ如キ原裁判所ニ於テ被害者ノ告訴ニ因リ衆證人ノ陳述及ヒ手續書等ヲ參照シテ犯罪ノ事實ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ處斷ヲ爲シタルモノナレハ固ヨリ擬律ノ錯誤アルニ非ス又事實ノ理由ヲ付セサルニ非ス而シテ上告ノ旨趣ハ徒ニ事實證憑ノ有無ヲ陳辨スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ヲ爲スヿヲ得ルノ塲合ニ於テ一モ適當スル者アルニ非ス依テ上告ノ理由ナシト判定シ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百四十九號

○判文（窃盜ノ件）明治十五年十二月八日上告　同　十六年八月十六日申渡

鹿兒島縣大隅國姶良郡加治木町平民雜業　江川畩次郎　明治十五年八月　十四年二月

明治十五年八月五日鹿兒島輕罪裁判所ニ於テ江川畩次郎カ窃盜被告事件ヲ審判シ年齡十六歲未滿ナルヲ以テ其罪ヲ論セスト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補鯰江貞繼ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ刑法第八十條ヲ閲スルニ十六歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セストアルニ非ス之ヲ論スルト否トハ其是非ヲ辨別シタルト否トニアリ若シ辨別アリテ犯シタル時ハ本刑ニ二等ヲ減シテ處斷ス可キハ同條末項ノ明文アリ然ルヲ單ニ十六歲未滿ナルヲ以テ其罪ヲ論セスト言渡シタルハ不當ナリ其不當ノ原因ハ裁判官カ是非ヲ辨別セサル者ト誤認シタルニ出タリ而シテ被告人ハ前ニ窃盜ノ處斷ヲ受ケ今又窃盜ヲ爲シタル者ニシテ其所爲ノ非ナルヿヲ知テ犯シタルハ明白ナルニ其事實ヲ審按セスシテ誤認シ不論罪ノ言渡ヲ爲シタルハ誤

斷ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

刑法第八十條ニ罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審按シ云々トアリテ其辨別ノ有無ヲ以テ罪ヲ論スルト論セサルトノ區別アルモノナレハ十六歳未滿者ノ犯罪ニ對シテハ必ス其辨別ナクシテ犯シタリヤ否ノ理由ヲ明示セサル可カラス然ルニ原裁判所ニ於テ被告人ノ所爲ニ對シ辨別ナクシテ犯シタル事實ヲ明示セスシテ單ニ十六歳未滿ナルヲ以テ其罪ヲ論セスト言渡シタルハ事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル不當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ宮崎輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十號

○判文（放火未遂ノ件）明治十五年十二月十一日上告
同　十六年八月十六日申渡

東京府芝區愛宕下町四丁目
南一番地平民人力車挽業
佐加野清吉
明治十五年五月
二十二年六月

明治十五年五月十七日東京重罪裁判所ニ於テ佐加野清吉カ放火被告事件ヲ審判シ刑法第四百六條ニ依リ其未遂犯罪ナルヲ以テ二等ヲ減シ仍ホ酌量シテ一等ヲ減シ重禁錮一年ニ處シ同第四百八條ニ依リ監視一年ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事岡本豊章ハ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ刑法第九十九條ニ依レハ未遂犯罪ノ減等ハ其減輕シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス可キモノナレハ本案事件ノ如キ放火ノ罪輕懲役ニ該ルモ未遂犯罪ナルニ因リ二等ヲ減シ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ヲ以テ本刑ト爲シ仍ホ酌量シテ其本刑ヨリ一等ヲ減スレハ一年一月十五日以上二年九月二十二日以下ノ範圍内ニ於テ處斷ス可キモノナリ然ルニ原裁判所カ重禁錮一年ニ處スト言渡シタルハ未遂犯罪ノ減等ト酌量減輕トヲ區別セス同時ニ通算シ三等ヲ減シタル者ニシテ減輕ノ方法ヲ誤リ擬律ノ錯誤ヲ致シタル者ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判所ニ於テ被告人ノ所爲ニ對シ未遂犯罪ナルヲ以テ本刑輕懲役ヨリ二等ヲ減シ仍ホ酌量シテ一等ヲ減シ通シテ三等ヲ減シ重禁錮一年ノ刑ニ處シタルハ刑法第九十九條ノ明文ニ違背シ減輕ノ法ヲ誤ルニ因リ刑期ノ錯誤ヲ致シタルモノニシテ上告ノ旨趣正當ナリト判定ス依テ治罪法第四百二十八條第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スヿ左ノ如シ

被告事件ニ付原裁判言渡書ニ其事實證憑ヲ明示シタルヲ以テ被告人ハ火ヲ放テ露積シタル物件ヲ燒燬セントシテ未タ遂ケサルモノト確認ス其所爲ハ刑法第四百六條ニ依リ未遂犯罪ナルヲ以テ同第百十二條第百十三條ニ照シ輕懲役ヨリ二等ヲ減シ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處ス可キ處原諒ス可キ情狀アルニ因リ同第八十九條第九十條ニ依リ

佐加野清吉

酌量シテ本刑ニ一等ヲ減シ一年一月十五日以上二年九月廿二日以下ノ範圍内ニ於テ一年一月十五日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同第四百八條ニ依リ一年ノ監視ニ付スルモノナリ

但公訴裁判費用ハ之ヲ負擔ス可シ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十一號

○判文(證券印稅犯則ノ件)明治十五年十二月十二日上告
同　十六年八月十六日申渡

愛媛縣伊豫國新居郡福武村
士族　仙波平太郎　明治十五年六月二十八年四月
同縣同國同郡同村平民　今井孫藏　明治十五年六月三十五年八月
同縣同國同郡同村平民　秋山仲太郎　明治十五年六月二十七年五月

明治十五年六月廿一日同月廿三日西條治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所ニ於テ右被告三名カ證券印稅規則違犯事件ヲ審判シ仙波平太郎ハ金四十圓借用證書ニ印紙ヲ貼用セスシテ相渡シ今井孫藏ハ其無印紙證書ヲ受取リ秋山仲太郎ハ其證書ニ受人ト爲リタルニ因リ印稅規則ニ照シ各科料ニ處ス可キ處六ケ月ヲ經テ發覺シタルヲ以テ刑法第九條治罪法第十一條ニ依リ免訴スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢察官愛媛縣警部武司重淵ハ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ被告事件ハ繼續犯罪ナルニ因リ期滿免除ハ其最終ノ日即チ發覺ノ時ヨリ起算ス可キモノナルヲ原裁判所カ證書授受ノ日ヨリ起算シ六月ヲ經テ發覺セシヲ以テ免訴スト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

明治十四年第四十四號布告ニ違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サストアリテ違警罪ノ刑ニ處ス可キ犯罪處分ニ對シテハ上告ヲ爲スヿヲ得ルノ限ニ在ラス本案被告事件ハ期滿免除ノ期限ヲ經サルモノト爲シ規則ニ照シ處分スルモ原裁判言渡書ニ擧示スル如ク其刑ハ科料ノ範圍内ニ止マリ即チ違警罪ノ刑ニ處ス可キ者ナレハ右布告ニ從ヒ其裁判ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ許サヽルモノトス依テ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十二號

○判文(無屆不參ノ件)明治十五年十二月五日上告
同　十六年八月十七日申渡

新潟縣越後國南蒲原郡中

新村平民　柿島新二　年齢不詳

明治十五年七月六日長岡輕罪裁判所ニ於テ柿島新二カ證劵印税犯則事件ニ付呼出シヲ受ケ無届不參スル所爲ヲ審判シ明治十年第五號布告ニ照シ科料金壹圓五拾錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補中原正夫ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ治罪法ニ於テ呼出ニ應セサルノ罰ハ證人鑑定人等ニ科スヘキモノニシテ刑事被告人ニ對シ呼出ニ應セサルノ罰アルコトナシ本案被告人カ犯則事件ハ明治十四年中ニアルモ其不參シタルハ十五年後ニ係リ即チ新法施行後ノ犯罪ナレハ從前ノ手續ニ依リ處分ス可キ理由ナキモノナルニ原裁判所カ十四年前ノ手續ニ從ヒ科料ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル「左ノ如シ

被告事件ニ關シ裁判所ノ呼出ヲ受ケ之レニ應セサルモノニ對シ罰金科料ヲ言渡スハ治罪治中其正條アルニ依リ明治十年第五號布告ハ新法施行後ニ在テハ單ニ民事上ニ付呼出ヲ受ケ遲參不參スルモノヲ罰スルノ法律ニシテ之ヲ刑事ニ適用スルコトヲ得サルモノトス而シテ治罪法ニ於テ呼出ニ應セサルノ所爲ヲ罰スルハ證人鑑定人ニ限ルモノニシテ被告人召喚ノ日時ニ出廷セサル時ハ直チニ勾引狀ヲ發スルノ方法アルヲ以テ別ニ罰金科料ヲ言渡スノ正條アルコト無シ又明治十四年第八十二號布告ニ治罪法ニ拘ハラス從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシトアルハ治罪手續上ノ規則ヲ指スモノニシテ罰金科料處分ノ如キ法律適用上ニ關スヘキモノニアラス然ルニ原裁判所ニ於テ被告人カ法律ニ正條ナキ無届不參ノ所爲ニ對シ科料ノ刑ヲ言渡シタルハ明治十年第五號及ヒ同十四年第八十二號布告ヲ誤用セシモノニシテ即チ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリト確認ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ之ヲ取消スモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十三號

○判文〔證書僞造ノ件〕明治十五年十二月十九日上告
同　十六年八月十七日申渡

滋賀縣近江國甲賀郡林口村
居住平民吳服商
初田猪之吉　明治十五年九月　三十四歳八ヶ月

明治十五年九月十九日大津輕罪裁判所ニ於テ右被告猪之吉カ所爲ハ本件丁號證復生講仕法記ト題スル帳簿ノ餘白ヘ前顯ノ講法通云々ノ文字ヲ記入シ行使シタル犯罪ナリトシ刑法第二百十條初項ニ照シ重禁錮五月罰金五圓ニ處シ刑法第二百十二條ニ依リ監視六月ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル丁號復生講仕法記及ヒ戊號柏木八郎平ヨリ保證書ハ沒收シ差押タル己號復生講差引證ハ還付スト言渡シタリ」被告初田猪之吉ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲タル趣旨ハ被告人ニ於テ明治八年中復生講ト唱ヘ

權利義務ニ關スル證書ヲ增加行使シタル被告事件ニ付明治十五年九月十九日大津輕罪裁判所ニ於テ右被告猪之吉カ所爲ハ本件丁號證復生講仕法記ト題スル帳簿ノ餘白ヘ前顯ノ講法通云々ノ文字ヲ記入シ行使シタル犯罪ナリトシ刑法第二百十條初項ニ照シ重禁錮五月罰金五圓ニ處シ刑法第二百十二條ニ依リ監視六月ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル丁號復生講仕法記及ヒ戊號柏木八郎平ヨリ保證書ハ沒收シ差押タル己號復生講差引證ハ還付スト言渡シタリ」被告初田猪之吉ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲タル趣旨ハ被告人ニ於テ明治八年中復生講ト唱ヘ

賴母子講ヲ創設シ爾來丁號講則ニ原キ繼續シ來リタル處明治十五年二月一日ニ至リ番外甲號證ノ如ク本講仕法ヲ改正シ更ニ從前ノ加盟者ヲシテ新簿冊ニ記名調印セシメタレハ即チ丁號簿冊ハ既ニ消滅ニ屬シタルニ因リ被告人ニ於テ故ラニ明治十五年二月下旬ニ至リ前顯云々ノ文字ヲ記入スルノ謂レ無ク又其効力モ生セサルナリ仮リニ文字ヲ增加行使シタリトスルモ他ノ私訴事件ニ付參考ノ爲メ提拱シタル迄ニシテ被害者等ニ對シ何ノ損益ヲ及ホスヘキヤ之ヲ再説スレハ加盟者即チ被害者等ハ已ニ明治十五年二月一日ヲ以テ改正新簿ノ約定ニ從ヒ之ヲ履行シ舊簿即チ丁號證仕法記ノ如キハ消滅ニ屬シ何等効力ナキヿ言ヲ俟ス然ルヲ原裁判所ハ之ヲ以テ權利義務ニ關スル證書ト爲シ刑法第二百十二條ヲ適用シタルハ事實及ヒ擬律ノ錯誤アル裁判ニ付破毀ヲ求ムト謂ニ在リ對手人檢事補森田勉ハ被告人ニ對シ言渡シタル裁判ハ罪證明白ニシテ毫モ誤謬ナキ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告趣意ニ對シテハ敢テ陳辨スルヲ必要トセス茲ニ治罪法第四百十三條ニ則リ附帶ノ上告ヲ爲サント欲ス抑モ刑法第二百十條第一項ヲ適用スル場合ニ於テハ必スヤ其權利義務ニ關スル人即チ被害者ノ誰ナルト其證書ノ性質並ニ効用ト其行使手段如何トノ事實理由ヲ明示セサル可ラス何トナレハ若シ此等ノ要件ヲ具備セサル時ハ同條ノ罪ヲ組成セサレハナリ然ルニ原裁判書ニ因リ證書ノ性質ト行使ノ手段ハ聊カ視ルニ足ル處アルモ其最モ必要ノ條件タル被害者ノ誰ナルト變造ニ付テノ効用如何トヲ明示セサルノミナラス戊號柏木八郎平ヨリノ保證書ハ沒收スト言渡シタレトモ毫モ其沒收スヘキ理由ヲ付セサルハ俱ニ治罪法第三百四條ニ背反シタル不法ノ裁判ナリト信スルニ因リ更ニ相當ノ裁判所ニ移サレンヿヲ望ムト開陳セリ仍テ裁判スルヿ左ノ如シ

原裁判言渡書ニ因リ訴訟書類ヲ監査スルニ本件復生講仕法記ハ明治八年五月ニ創設約定シタルモ明治十五年二月ニ至リ更ニ帳簿ヲ改製シ加盟調印ヲ爲シタリ故ニ明治八年中調製シタル舊簿ノ連署押印ハ之ヲ抹殺シ自ラ消滅ニ屬シタリ然レハ則丁號證增加シタリト云フ文書ハ何ノ効力ヲ有シ又ハ權利義務ニ關スル證書トハ認定シタル歟又柏木八郎平ノ保證書ハ何ノ故ニ沒收セシ歟其理由ヲ知ルニ由無シ到底原裁判所ハ事實ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九ニ定メタル上告ノ原由アル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ京都輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十四號

○判文（毆打創傷ノ件）明治十五年十二月廿五日上告
同　十六年八月十七日申渡

山梨縣甲斐國東八代郡上黒駒村平民農業　渡邊市五郎　明治十五年十月二十二年

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十月三十日甲府輕罪裁判所カ證憑充分ナラサルニ因リ無

罪ト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補澁谷孝世ハ上告セリ其要領ハ被告市五郎ハ始終其所爲ヲ自白セサルモ負傷者堀内「スキ」並ニ之カ治療ヲ施シタル醫師柴宮亮カ鑑定書等アリ然カモ被告市五郎ハ其日「スキ」ニ面會シタルノ實アリテ現ニ「スキ」カ負傷セシモノナレハ之ヲ不充分ノ證據ナリト云フヘカラサルニ原裁判所ハ證據不充分ナリト判定セシハ不法ナリト云フニアリ

對手人渡邊市五郎ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ述ヘ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所カ各證憑ニ照シ罪ト爲ルヘキ證憑不充分ナリト認定セシ事實ニ對シ採證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十五號

○判文〔烟草稅犯則ノ件〕明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年八月十七日申渡

長野縣信濃國諏訪郡上諏訪
村平民烟草營業
上原鑢三郎

右鑢三郎カ被告事件ニ付明治十五年十月二十六日上諏訪治安裁判所ニ開キタル松本輕罪裁判判ニ於テ被告ハ明治十五年十月十五日長野縣諏訪郡書記黑澤次是檢査ノ際自用人ノ購求ニ宛テタル製造煙草ヘ印紙ヲ貼用セスシテ店頭ニ展示シタリ其證左ハ右次是ノ告發書汝カ自白差押ヘタル證據物件等ニ於テ明白ニシテ明治十年第十四號布告ニ違ヒタル者トス依テ之ヲ法律ニ照スニ罪トナルヘキ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事代理警部補市橋友孝カ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告鑢三郎カ製造煙草ヲ自用人ヘ賣渡ス爲メ店頭ニ展示シ印紙ヲ貼用セサル者ニシテ其所爲タル明治八年第百五十號布告煙草稅則第三則第七條ト明治十年第十四號布告第一項ニ違犯シタル者ナレハ此兩條ヲ併行シテ處斷スヘキ者ナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ不當ナリト被告鑢三郎ハ原裁判至當ナル旨答辨セリ據テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ本件ヲ按スルニ原裁判官ニ於テ被告カ所爲ヲ自用人ノ購求ニ宛タル製造煙草ヘ印紙ヲ貼用セスシテ店頭ニ展示シタリ其證左ハ右次是ノ告發書汝カ自白差押タル證據物件等ニ於テ明白ニシテ明治十年第十四號布告ニ違ヒタルモノトス其事實ヲ認メナカラ是ヲ罰スル正條ナキモノトシ無罪ノ言渡ヲナシタルハ明治十年第十四號布告ノ旨趣ヲ誤解シタル裁判ナリ抑該布告ハ明治八年第百五十號布告煙草稅則ヲ增補シタル者ニシテ則チ同稅則第三則第七條ト併照シテ處罰スヘキモノトス然ルニ原裁判茲ニ出テサルハ擬律ノ錯誤アル裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ法リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

明治十五年十月
二十三年七月

上原鑢三郎

右ノ理由ナルヲ以テ明治八年第百五十號布告烟草稅則第三則第七條明治十年第十四號布告第一項及ヒ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ脫稅高三圓二十四錢六厘ノ二十倍罰金六十四圓九十二錢ニ處スルモノ也

但差押タル烟草ハ還付ス

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十六號

○判文（財產藏匿ノ件）明治十六年六月十二日上告
同　十六年八月十七日申渡

東京府南豐島郡內藤新宿一丁目一番地大原重朝叔父當
時神田區猿樂町四番地
華族
大原重克
明治十六年五月
三十一年

右被告事件ニ付明治十六年五月二十四日東京輕罪裁判所於テ被告重克ハ其妻正及ヒ吉田花ト連借シタル金圓裁判確定ノ通辨濟セサルヨリ身代限リノ命令ヲ受ケシニ窃カニ正ト共謀シ其所有ナル時計ノ金鎖外衣類雜品三十八箇正所有ノ衣類十七箇ヲ併セ他ヘ典賣シ又ハ殘品ヲ密カニ藏匿シ而テ東京始審裁判所ニ對シテハ抵償スヘカラサル品ヲ除クノ外所有品無之旨屆出尙ホ罪證ヲ隱蔽セン爲メ該典物ハ大原重朝ノ所有品ナリト詐言シ剩サヘ典舗ヲシテ右重朝ノ名前ニ書換ヘシメタルノミナラス前ノ藏匿シタル被告所有ノ物品時計外衣類雜具二十八箇正所有ノ衣類二十五箇ト共ニ重朝名義ニテ永濱庄左衛門方ヘ典賣シタル其證憑ハ證人佐久間重兵衛外六名ノ陳述田中市之丞外一名ノ鑑定書參考人成井貞央外二名ノ申立其他證據物品ニ徵シ充分ナルヲ以テ右所爲ニ對シ刑法第三百八十八條第一項ニ照シ重禁錮三月ニ處シ現ニ押收シタル物品ハ身代限ノ處分ヲ盡スヘキ爲メ東京始審裁判所ヘ送致スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告重克ニ於テ上告ヲ爲スノ要旨ハ永濱庄左衛門方ヘ典賣シタル物品ハ自己ノ物品ニアラスシテ大原重朝ノ所有品ナリ又タ證人鑑定人ノ陳述云々證憑充分ナリト云フノミニテ其被告ノ罪證トナルヤ否ノ理由ヲ明示セス且ツ押收シタル物品ヲ東京始審裁判所ヘ送致スト裁判セラレシハ治罪法第四百十條第九第十一項等ニ該當スル不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人檢事補村井一英カ答辨ノ要領ハ該上告ノ趣旨タル第一ハ事實ノ辨護ニ過キスシテ上告ノ原由トナラス第二ハ其理由ヲ付スルノ至當ニシテ治罪法第四百十條九項ニ該ルヘキモノニアラス到底上告ノ旨趣相立タサルモノト云フニ外ナラス因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

本案事件ヲ審按スルニ上告ノ旨趣ハ要スルニ原裁判ハ治罪法第四百十條第九第十一項等ニ該當スル不法ノ判決ナリト云フト雖モ其論辨スル處悉ク原判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實採證ノ當否ヲ非難シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ適當スルノ原由ナケレハ到底上告ノ旨趣相立タサルモノトス因テ同法第四百二十七條ニ則リ該上

告ハ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ撿事池上三郎立會宣告ス

東京府南豊島郡内藤新宿壹丁目一番地重朝叔父當時神田區猿樂町四番地華族重克妻

大原正明治十六年五月三十二年

右被告事件ニ付明治十六年五月廿四日東京輕罪裁判所ニ於テ被告正ハ夫重克及ヒ吉田花ト連借シタル金圓裁判確定ノ通辨濟セサルヨリ身代限リノ命令ヲ受ケシニ竊ニ夫重克ト共謀其所有ノ衣類十七箇重克所有ノ衣類雜具三十八箇ヲ併セ典賣シ或ハ殘品ヲ密ニ藏匿シ而メ東京始審裁判所ニ對シテハ抵償スヘカラサル品ヲ除ノ外所有品無之旨屆出尚ホ罪證ヲ隱蔽セン爲メ該典物ハ大原重朝ノ所有品ナリト詐言シ剩サヘ典舗ヲシテ右重朝ノ名前ニ書換ヘシメタノミナラス前ノ藏匿セシ被告所有ノ衣類二十五箇ト夫重克所有ノ時計外雜品二十八箇ト共ニ重朝名義ニテ永濱庄左衛門方ヘ典賣シタル其證憑ハ證人佐久間重兵衛外六名ノ陳述石鍋佐吉ノ鑑定書參考人成井貞央外二名ノ申立其他證據物品ニ徵シ充分ナルヲ以テ右所爲ニ對シ刑法第三百八十八條第一項同第八十九條同第九十條ニ從ヒ重禁錮一月ニ處シ現ニ押收シタル衣類雜具等ハ身代限ノ處分ヲ盡スヘキ爲メ東京始審裁判所ヘ送致スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告正カ上告ヲ爲スノ要旨ハ永濱庄左衛門方ヘ典賣シタル物品ハ自分及夫重克ノ所有品ニアラスシテ大原重朝ノ所有品ナリ又タ證人鑑定人ノ陳述云々證憑充分ナリト云フノミニテ被告カ犯罪ヲ證明スルニ足ルヤ否ノ理由ヲ附セス且ツ押收シタル物品ヲ東京始審裁判所ヘ送致スト言渡サレシノミナラス被告ハ重克ト共ニ謀リテ犯罪ヲ爲セシトノ證ヲ擧ケスシテ共犯トセラレシハ治罪法第四百十條第九第十一項等ニ該當スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ因テ專任判事ノ報告立會撿事ノ意見ヲ聽キ判決スルヿ左ノ如シ

本案事件ヲ審按スルニ上告ノ旨趣ハ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實採證ノ當否ヲ論難シテ不服ヲ訴フルニ過キサルモノトス何トナレハ原訴訟書類ヲ監査スルニ毫モ治罪法第四百十條各項ニ該當スル破毀ノ原由トナルヘキ違法ノ廉ナケレハナリ故ニ上告ノ旨趣ハ相立サルモノト判定ス因テ同第四百二十七條ニ則リ該上告ハ棄却スル者也

大審院ニ於テ撿事池上三郎立會宣告ス

第千百五十七號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年十二月八日上告
同　十六年八月十八日申渡

岡山縣備中國哲多郡花木村
平民
前田勝太郎

右勝太郎カ被告事件ニ付明治十五年八月八日高梁治安裁判所ニ開キタル岡山輕罪裁判所於被告ハ明治十五年七月二十一日猥リニ居村小林金八郎ノ留守宅ニ立入リ櫃中ニ在ル地券證

明治十五年八月
二十六年七ヶ月

十八枚ヲ取出シ之ヲ戸長役場ニ持行キタルモ盗心アリテ爲シタル者ニ非ストシ刑法第七十七條第一項同第百七十一條ニ照シ重禁錮一月ニ處スル旨言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢察官警部補代理巡査横溝常太郎カ上告ヲ爲スノ主要ハ被告ノ所爲タル盗心ナキニ似タリト雖モ其形タル既ニ他人ノ所有物ヲ窃取スルモノナルノミナラス戸長ノ證言等ニ依レハ被害者ノ陳述ハ一ニ以テ信ヲ措クヘクシテ乃チ被告カ右地券ノ外尚ホ一圓紙幣並賣渡證書ヲモ窃取シタル事ハ之ヲ心證ニ判知スヘシ然ルヲ原裁判所カ該所爲ニ對シ刑法第三百六十六條ヲ適用セスシテ前顯ノ如ク處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ノ事實ハ原裁判官ニ於テ被告ハ金八郎ノ留守宅ニ立入リ地券十八葉ヲ持チ出シタルモ盗心アリテ爲シタルモノニ非スト認定シタルモノニシテ事實ノ認定ハ法律上承審官ノ職權ニ特任スル所ナレハ他ヨリ敢テ之ニ侵入シ採證及ヒ事實判定ノ當否ヲ論難スルヲ得ヘカラスシテ本案ハ其判定セル所ノ事實ニ對スル法律ノ適用ニ於テ錯誤ノ見ルヘキナキ上ハ破毀ノ原由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十八號

○判文〔官林盗伐ノ件〕明治十五年十二月八日上告
同　十六年八月十八日申渡

大坂府東區今橋二丁目士族　高垣尚志

秋田縣羽後國平鹿郡沙賀會村士族　小松政志

明治十五年八月
二十八年七月
明治十五年八月
二十年四月

明治十五年八月二日山田輕罪裁判所ニ於テ右被告人二名カ官林盗伐事件ヲ審判シ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ヲ適用シ高垣尚志ハ重禁錮一年監視二年ノ刑ニ處シ小松政志ハ犯時年齢二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮九月監視一年ノ刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人二名ハ各自ニ上告ヲ爲シタリ尚志カ上告ノ要旨ハ官林ノ樹木ヲ伐採スルノ際尚志ハ他方ニ旅行シ不在ナルヲ以テ伐木ノ指揮ヲ爲シタルヿナシ即チ別紙旅宿料受取書等ニ依リ證據明白ナリ且證人山路石松等ハ公判廷ニ於テ豫審ノ供述ヲ變更シ尚志ノ指圖ヲ受ケ伐木シタルコトナシト陳述セシニ裁判官ハ其陳述ヲ以テ被告人ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者トシ遂ニ本案ニ關係ナキ尚志ヲ以テ官林盗伐ノ罪アリト斷定セラレシハ不當ナリト云フニ在リ政志カ上告ノ要旨ハ政志ハ職工ヲ指揮シテ山林ノ樹木ヲ伐採セシメタルモ其官林タルコトヲ知ラサルニ出タリ又其山林ハ往古ヨリ寺院ニ寄附セラレ伽藍永續保護ノ地ト爲シ樹木ヲ栽培シタルモノナレハ假令目今官有地ト爲ルモ其樹木使用ノ權ハ仍ホ寺院ニ歸スルモノト信認シ公然之ヲ伐採シ寺院營繕ノ用材ト爲シ毫モ窃取ノ所爲アルニ非ス然ルニ窃盗ノ罪ヲ犯セル者ナリト判定セラレタル

ハ不法ノ裁判ニシテ服從スルコト能ハスト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告人二名ニ對シ官林盜伐ノ所爲アリト判決シタルハ各證人ノ陳述檢證調書證據物件其他相當官吏ノ作リタル調書ニ依リ犯罪ノ證跡明白復タ疑點ナキヲ以テ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑ニ處シタルモノナリ而シテ高垣尙志カ上告ハ事實ノ有無ヲ陳述シ採證ノ當否ヲ辯論シ徒ニ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ノ旨ヲ訴フルニ過キス又小松政志カ官有ノ山林ナルモ樹木使用ノ權ハ寺院ニ歸スヿ可キモノナリト論告スル如キハ牽强附會ノ陳辯ニシテ其採用スルニ足ラサル固ヨリ論ヲ俟タス之ヲ要スルニ本件上告ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ於テ一モ適當スル者アルニ非サルヲ以テ上告ノ理由ナシト確認ス依テ同第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百五十九號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十二月十一日上告
同　十六年八月十八日申渡

岡山縣備前國津高郡河內村
平民農　馬場新三郎　明治十五年九月二十八年生月不詳

同縣同國同郡宇垣村平民農　江田八十郎　明治十五年九月二十九年生月不詳

右兩名カ被告事件ニ付明治十五年九月二日岡山輕罪裁判所於テ被告新三郎ハ明治十五年八月二十八日被告八十郎カ免許ヲ受ケタル字番神ノ射的場ニ於テ外數名ト共ニ金錢ヲ賭ケ小銃ノ中リヲ以テ博奕ヲ爲シ八十郎ハ其博奕ノ情ヲ知テ射的場ヲ貸與ヘタル者トシ刑法第二百六十一條ニ依リ各重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ現場ニ於テ押收シタル物件ノ內八十郎ノ所有ニ係ル小銃一挺及ヒ附屬品ハ下附ス其他賭博ノ用ニ供シタル物件ハ沒收スト言渡シタル裁判ニ服セス被告新三郎上告爲スノ旨趣ハ被告於テ射的發中ノ多寡ヲ表セン爲メ竹籌ヲ其數取リニ用ヒタルヿアルモ金錢ヲ賭ケ現ニ博奕ヲ爲シタルヿ無シ又右所爲ヲ賭博ナリト假定スルモ沒收ニ係ル小銃ノ如キハ公然鑑札ヲ受ケタルモノナレハ制禁物ニ非ス然ルニ原裁判所於テ刑法第二百六十一條ヲ適用サレタル而已ナラス右小銃迄沒收セラレシハ旁不當ナリト云フニ在リ被告八十郎モ亦上告ヲ爲シタリ其要旨ハ新三郎等於テ始終半錢タモ金錢ヲ取扱ヒタルヲ見サレハ其賭博ヲ爲スノ情ヲ知ルニ由ナシ然ルニ原裁判所於テ前記ノ刑ヲ言渡サレシハ不法ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補橋本倫彥於テハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナシトノ旨趣ヲ答辯セリ茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告兩名上告ノ旨趣ハ更ニ賭博ヲ爲サス或ハ其情ヲ知ラスト主張シ原裁判ノ破毀ヲ求ムルニ外ナラス即チ治罪法第百四十六條第二項ノ規定ニ依リ承審官ニ特任シタル所ノ採證及ヒ

事實ノ判定上ニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲シ得ヘカラサルハ勿論其沒收ニ係ル小銃ノ如キモ刑法第二百六十一條第二項賭博ノ器具財物其現場ニ在ルモノハ之ヲ沒收ストアリテ該小銃ハ既ニ金錢ヲ賭ケ其中リヲ以テ博奕ヲ爲スノ器具ニ供シタル以上ハ固ヨリ之ヲ沒收スルヲ至當トス故ニ原裁判ハ相當ニシテ上告ノ旨趣ハ總テ相立サルモノトス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ俱ニ棄却スルモノ也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十號

○判文〔地券書換犯則ノ件〕明治十五年十二月十八日上告
同　十六年八月十八日申渡

福岡縣豐前國企救郡小熊野
村居住平民農業
大久保喜一郎
明治十五年九月
三十四歳

明治十五年九月六日小倉治安裁判所ニ開キタル福岡輕罪裁判所ニ於テ右大久保喜一郎カ所爲ヲ審判シ被告人ハ家督相續ニ依リ讓受ケタル地券證四枚ヲ滿六ケ月內ニ書換願出ヲ怠リ自首シタル所爲アリトシ所犯明治十四年第三十號布告地券証印稅改正以前ニ係ルヲ以テ明治十三年第五十二號布告ニ依リ証印稅壹錢地券証四枚ナルヲ以テ四錢ノ五倍科料金貳拾錢ノ處所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ於テハ名例律犯罪自首條ニ依リ免罪ニ該リ新法ニ於テハ刑法第八十五條ニ依リ第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減スヘキ者ナレハ舊法ノ輕キニ從ヒ犯罪自首條ニ依リ免罪ノ言渡ヲ爲シタリ

原裁判所檢察官警部田中良平ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ本件ノ如キ所犯新法施行前ニ在ルモ繼續シテ明治十五年ニ至リタルヲ以テ舊法ニ從ヒ免罪ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

本件被告人ハ地券書換規則ニ違ヒ明治九年中ヨリ明治十五年九月中迄怠慢ニ付シ即チ繼續シテ犯シタルヿ明カナリ然レトモ明治十四年第四十四號布告ニ原キ本案上告ハ違警罪ニ屬スル科料ノ裁判ニ對シタル者ナルヲ以テ上告ヲ爲スヿヲ得サル者トス依テ之ヲ棄却スル者ナリ

於大審院檢事加納久宜立會宣告ス

第千百六十一號

○判文〔毆打創傷ノ件〕明治十五年十二月十九日上告
同　十六年八月十八日申渡

兵庫縣但馬國美含郡久斗山
村平民農
岡本又五郎
明治十五年十月
二十九年

右又五郎カ被告事件ニ付明治十五年十月三十一日豐岡治安裁判所ニ開キタル姫路輕罪裁判

所ニ於テ被告ハ但馬國二方郡越坂村牛ケ峯神社祭禮ニ付角力興行ノ節山下助次郎ト山本新助ト爭鬪スルヲ引分ケントテ故サラニ平井作十郎ト俱ニ助次郎ヲ毆打シ又ハ蹴踏シ腰部ヘ浮腫成シタル所爲ハ證人谷口半六外三名ノ陳述醫師ノ診斷書等ニ依テ罪跡明白ナリトシ刑法第三百一條第三百五條ニ依リ仍ホ第七十條ニ照シ本刑ヨリ一等ヲ減輕シ重禁錮九月ニ處シタル裁判ニ對シ被告上告ノ旨趣ハ被告又五郎ハ被害者作十郎ノ頰ヲ毆打シタルモ腰部ヲ毆打シタルヿ之レナク又被害者作十郎ヲ毆打シタル場所ニハ百餘名ノ多人數之レ有リタルニ僅ニ四五名ノ證人陳述ヲ以テ足レリトシ之カ裁判ヲ與ヘラレタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ判決スル左ノ如シ

本案被告カ上告旨趣ノ歸着スル處ハ原裁判官カ認定上ニ對シ事實證採ノ如何ヲ論難スルニ過キス然ルニ證人ノ陳述諸般ノ徵憑ヲ取捨シ犯罪ノ事實ヲ認定スルハ專ラ裁判官ノ權內ニ在リ故ニ被告ニ於テ其權內ニ侵入シタル申立ハ相立サルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ法リ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十二號

○判文（詐欺取財ノ件）明治十五年十二月十九日上告
同　十六年八月十八日申渡

三重縣伊勢國安濃郡津伊豫町居住
士族
一宮二郎
明治十五年九月
三十歲一ケ月

同縣同國同郡同町居住
士族
鈴木正明
明治十五年九月
二十六歲

同縣同國同郡同町居住
士族
酒井正之
明治十五年九月
二十七歲八ケ月

明治十五年六月二十六日岡山輕罪裁判所ニ於テ右一宮二郎外二名ノ被告事件ヲ審理シ被告人共ハ備前國上道郡竹原村石原拵造宅ニ於テ探偵吏ト詐稱シ帳簿ニ就キ金員ノ出納ヲ查問シ又長森武平宅ニ於テ同樣ノ手段ヲ爲シ豫テ用意ノ洋紙數十枚ヲ封シ壹圓紙幣ノ形ニ摸倣シタル物ト金拾八圓五拾錢包トヲ窃ニ差替騙取シ或ハ該所爲ヲ容易ナラシメンカ爲メ探偵命令書ニ類似ノ書面ヲ僞造シ未タ行使セサル犯罪ナリトシ數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條第三項ニ照シ一ノ重キ僞造官文書未タ行使セサル罪刑法第二百三條同第百十二條同第百十三條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ刑法第六十九條ニ照シ各重禁錮三年ニ處シ刑法第二百七條ニ從ヒ監視一年ニ付シ仍ホ犯罪ノ用ニ供シタル書類物品ハ沒收シ賍金ハ取揚ケ被害者ニ還付

ストノ言渡ヲ爲シタリ

原裁判所檢事補樺島鎭八ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタル趣旨ハ本案公訴ノ目的ハ詐稱官及ヒ詐欺取財ノ二罪ナリトス然ルヲ原裁判官ハ公訴ヲ爲サス且未タ犯罪ヲ搆造セス辯論ニ因テ發見シタルニモアラサル官文書ヲ僞造シタル罪アリトシ處斷シタルハ治罪法第四百十條第七ノ場合及ヒ同第二百七十六條ニ抵觸シタル不法ノ裁判ナリト謂ヒ被告一宮二郎外二名ニ於テモ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ罪ヲ犯サヽル以前ニ在テ棄却シタル反古ノ書面ヲ資リ以テ刑法第三百三條ニ問斷セシハ不服ナルニ付破毀ヲ求ムト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ之ヲ檢案スルニ

被告人共ニ於テ官文書ヲ僞造シタリト云フハ原裁判言渡書ニ掲ケタル西大寺警察署御中岡山檢事トアル書面是レナリ該書面カ何等ノ意思及ヒ方法ニ因テ犯罪ノ成立タル者ナルヤ其理由ヲ證明セサルニ付之レヲ知ルニ由シナキノミナラス西大寺分署巡査川上潔也外一名カ中告書ニ依リ之ヲ監査スルニ鼠半切ニ竹原村赤松陳平外十三名ヲ列記シ各名頭ニ横文數字ヲ付シ右ノ者探偵可致候事西大寺警察署御中岡山檢事ト記載アル書面ヲ久保村鄕堤下田中ニ於テ拾ヒ取リタリトアリ又公判廷ニ於テ鈴木正明カ陳辯中ニ只今示サヽル處ノ半切紙ニ認メアル書類ハ自分ノ手跡ニ有之トアルノ外毫モ僞造官文書罪ノ成立タルヲ見認ムヘキ所爲アルヿナシ加之檢察官ニ於テ該件ノ公訴ヲ爲シタルニアラス辯論中發見シタル者ニモアラサレハ刑法第二百三條ノ未遂犯ヲ以テ論スヘキ者ニアラス然ルニ原裁判官カ妄ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第七項及ヒ第十項ニ當ル不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ニ照シ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スルヿ左ノ如シ

一　宮　二　郎
鈴　木　正　明
酒　井　正　之

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判言渡書ニ擧示シタル詐爲官文書ノ罪ヲ除棄シ餘ノ詐稱官及ヒ詐欺取財ノ罪併發シタル者ト判定シ刑法第二百三十二條ニ官職位階ヲ詐稱シ云々十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス刑法第三百九十條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シクハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス刑法第三百九十四條ニ前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアリ右數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條末項ニ從ヒ一ノ重キ刑法第三百九十條ヲ適用シ刑法第百四條ニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯トナシ各自ニ其刑ヲ科ストアルニ依リ各重禁錮四月罰金拾圓ニ處シ仍ホ監視六月ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル物品ハ刑法第四十三條ニ從ヒ官ニ沒收シ現在ノ賍金ハ刑法第四十八條ニ從ヒ被害者ニ還付スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十三號

○判文〔强盜ノ件〕同　明治十五年十二月廿一日上告
十六年八月十八日申渡
愛知縣三河國寶飯郡千兩村

平民　小野又吉　明治十五年十一月　四十四年九月
愛知縣三河國渥美郡村松村
平民　花井政次郎　明治十五年十一月　三十四年

右又吉及ヒ政次郎カ強盗被告事件ニ付明治十五年十一月六日岡崎輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結言渡故障ノ判決ニ對シ檢事補濱田辰之助上告ノ旨趣ハ最初岡崎輕罪裁判所豫審係ニ於テ被告ハ森田重郎右衛門ヲ組ミ伏セ或ハ腕ヲ捩シアケ同人着用ノ袷ヲ剝キ取リ或ハ竈ニ懸アル鍋釜ヲ强取シタルモノト認定シ重罪事件ヲ以テ愛知重罪裁判所ニ移シタル豫審終結言渡ニ對シ被告カ所爲ハ詐欺取財ノ罪ヲ以テ岡崎輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ旨ヲ以テ故障ノ申立ヲ爲シタルニ同裁判所會議局カ豫審終結言渡シヲ認可シタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ旨趣ハ岡崎輕罪裁判所會議局ハ被告ハ强盗ノ罪ヲ犯シタルモノトシ重罪事件ト判定シタル事實認定上ニ對シ徒ラニ事實ノ如何ヲ論難スルニ過キス然ルニ諸般ノ徵憑ニ依リ犯罪ノ事實ヲ認定スルハ專ラ裁判官ノ權限ニ在リ故ニ其權限ニ侵入シタル上告ハ相立タサルモノトス因テ本件ハ上告ノ理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十四號

○判文〔烟草稅犯則ノ件〕明治十五年十一月廿二日上告
同　十六年八月十八日申渡

長崎縣肥前國南高來郡島原町平民　岡野邦太郎　明治十五年八月　二十一年二月
同縣同國同郡同町平民　高木光太郎　明治十五年八月　三十年六月
同縣同國同郡深江村平民　池田健三　明治十五年八月　五十二年

右三名カ被告事件ニ付明治十五年八月一日島原治安裁判所ニ開キタル長崎輕罪裁判所ニ於テ被告三名ハ各自金四錢賣烟草一卷ヲ解崩シテ數盛ト作シ邦太郎ハ八厘ニ光太郎ハ五厘ニ印紙ヲ貼用セスシテ各其一盛ヲ賣却シ餘ヲ自用人ノ購求ニ宛テ無印紙ニテ店頭ヘ展示シ健三モ亦一盛ヲ五厘ニ賣却スル目的ヲ以テ右同樣ノ所爲アル者ト判定シ明治八年第百五十號

布告烟草稅則第二則第三條第三則第七條及ヒ明治十年第十四號布告ニ照シ各脫稅高一厘ノ二拾倍科料金二錢ヲ言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢察官警部酒井政德カ上告ヲ爲スノ旨趣ハ設令原一個ノ玉作烟草ト雖モ之ヲ解崩シテ數盛トナシ以テ自用人ニ賣渡サントセハ其一盛毎ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘキ者ナルニ原裁判所於テハ其原一卷ニ相當スル印稅一厘ヲ脫稅高ト見做シ前顯ノ如ク處罰シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ被告三名於テハ原裁判相當ナリトノ旨趣ヲ答辯セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判ニ依レハ勿論檢察官ノ論旨ニ基キ處斷スルモ被告共ニ言渡スヘキ科料金ハ數錢若クハ數十錢ニ過キス之ヲ刑法第九條第二十九條ニ照スニ何レモ違警罪ノ範圍內ニ在リ然レハ則チ明治十四年第四十四號布告アルアリテ本案ノ如キハ上訴ヲ許サヽル事件ナルニ付該上告ハ棄却スル者ナリ

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十五號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十二月廿五日上告
同　十六年八月十八日申渡

愛媛縣讚岐國寒川郡長尾西
村平民
盤谷勘平
明治十五年八月
六十年

右勘平カ被告事件ニ付明治十五年八月八日高松輕罪裁判所於テ被告ハ明治十五年七月三十一日三木郡井戸村字川西ニ於テ一ヨリ六迄ノ目ノ記シタル厚紙ヲ布キ骰子ヲ以テ同郡長尾名村佐々木彌平ニ財ヲ賭ケサセ互ニ勝敗ヲ爭フ現場巡査ニ捕押ヘラレタル者トシ刑法第二百六十一條ニ依リ對質ノ上重禁錮二月罰金五圓ヲ附加シ博器財物ハ沒收スル旨言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補大井信本カ上告爲シタル旨趣ハ被告ノ所爲ハ賭場ヲ開場シ公然多人數ヲ招集シ來衆ヲシテ金錢ヲ賭ケシメ以テ利ヲ己レニ收ント圖リタルモノナレハ卽チ刑法第二百六十條ヲ適用スヘキ犯罪ナルニ刑法第二百六十一條ニ照シ處斷シタルハ卽チ擬律錯誤ノ裁判ナルニ付之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人被告勘平ハ原裁判相當ナリトノ旨趣ヲ答辯セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

凡犯罪ノ事實ヲ判定スルハ事實裁判官ニ特任スル所ノ職權ニシテ其判定ニ對シテハ他ヨリ之ヲ論難シ得可ラサルモノナリ今被告事件ハ承審官ニ於テ被告ハ云々佐々木彌平ニ財ヲ賭ケサセ互ニ勝敗ヲ爭フ現場巡査ニ捕押ヘラレタルモノト其事實ヲ判定セリ之ヲ約言スレハ被告ハ博具ヲ以テ現ニ賭博ヲ爲セリト認メタル者ナリ然レハ則原裁判所カ適用シタル擬律ハ相當ニシテ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス

右理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ法リ上告ヲ棄却スルモノ也

於大審院檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十六號

○判文〔山林盜伐ノ件〕明治十五年十二月三十日上告
同　十六年八月十八日申渡

福島縣岩代國信夫郡大森村

平民　二瓶喜吉　明治十五年五月　二十八歳
菅野友市　明治十五年五月　三十一歳
黒澤治左衛門　明治十五年五月　三十四歳

右三名ハ山林盗伐ノ被告事件ニ付福島輕罪裁判所豫審掛ニ於テ刑法第三百七十三條及第三百七十六條ニ該ル者トシ福島輕罪裁判所ニ移スト言渡タル終結處分ニ對シ故障申立ヲ爲シタルニ付明治十五年五月三十一日同裁判所會議局ニ於テ豫審ノ言渡ヲ認可シ故障ノ申立ハ棄却スルトノ判決ヲ爲シタリ被告三名ハ尚ホ之レヲ不當ナリトシ上告シタル要領ハ本案山野ノ雜木ハ被告人等ニ於テ之レヲ所得スルノ權利ヲ有シ數百年來伐採セル者ニシテ現ニ數箇ノ証據書類ノアルアリ然ルニ豫審掛ニ於テ是等ノ審理ヲ盡サスシテ輙ク犯罪アリト爲シ終結ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ナルヲ以テ故障申立タルニ會議局ハ之レヲ越權ニ非ラストシテ棄却シタルハ不服ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ

原裁判所會議局ニ於テ認可セシ豫審終結言渡書ヲ見ルニ〔更ニ盗伐ニ非サルノ證憑ヲ有セサルニ依リ盗伐セシモノト確認ス〕トノミアリテ其犯罪ノ摸樣及ヒ証憑ヲ明示セス是治罪法第二百二十八條ノ規則ニ違背シタル越權ノ處分ナルニ因リ會議局ハ當然該言渡ヲ取消シ而シテ其事實及證憑等ノ如何ヲ審明シ更ニ至當ノ言渡ヲ爲ス可キ者トス然ルニ處分茲ニ出テスシテ前言渡ヲ認可シタルハ亦越權ヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原會議局ノ言渡ヲ破毀シ山形輕罪裁判所ニ移シ更ニ判決セシムルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十七號

○判文〔擅ニ人ヲ監禁シタル件〕明治十六年六月十四日上告
同　十六年八月十八日申渡
長野縣上田警察署詰警部　松原清政
同縣同署詰警部補　御薗生欽六

明治十六年五月二十一日長野輕罪裁判所上田支廳會議局ニ於テ右松原清政御薗生欽六カ被告事件豫審終結ノ言渡ニ對スル檢察官ノ故障申立ヲ判決シ被告事件罪ト爲ラサルヲ以テ豫審判事カ刑法第二百七十八條ニ該ル輕罪ナリトシ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ取消シ更ニ治罪法第二百二十四條ニ照シ免訴スト言渡シタリ民事原告人茨木孝ハ其判決ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要旨ハ刑法第二百七十八條ニ程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ云々トアルハ其故意ニ出ルト過失トヲ分タス苟モ法律ニ違背スル處分アレハ即チ同條ヲ適用ス可ク隨テ被害者ノ損害ヲ賠償セサル可カラス然ルニ原裁判所會議局ニ於テ被告人カ上告人ヲ逮捕

監禁セシモ故意ニ出タルノ證ナキヲ以テ罪ノ問フ可キナシト斷定シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヿ左ノ如シ

治罪法第四百十二條ニ民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル原由ニ付上告ヲ爲スヿヲ得トアリテ民事原告人ハ賠償返還ニ關スル私訴ノ裁判ニ對シテハ上告ヲ爲スヿヲ得ルモ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルノ公訴上ニ至テハ之ニ關渉スルヿヲ得サルモノトス本件上告ノ旨趣ハ犯罪ノ有無ヲ陳辯シ擬律ノ當否ヲ論難スルニ過キスシテ專ラ公訴上ニ關係スルモノナレハ民事原告人ニ於テ上告ヲ爲スヿヲ得ルノ限ニ在ラス且被告人カ上告人ニ對シ拘留狀ヲ發シタルモ他ニ犯罪ナキヲ認メタルニ因リ直チニ之ヲ取消シタル如キハ卽チ其職權內ニ屬スルノ處分ニシテ法律ニ違背シタル不正ノ所爲アルニ非ス故ニ原裁判所會議局カ被告事件罪ト爲ラサル者ト爲シ免訴ヲ言渡シタルハ固ヨリ相當ノ判決ナリト確認ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十八號

○判文〔賭博犯藏匿ノ件〕明治十六年七月十六日上告
同　十六年八月十八日申渡
大分縣豐後國玖珠郡森村平
民桶職

財　津　政　一
明治十五年六月
三十五年

右政一カ被告事件ニ對シ明治十六年六月十三日熊本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ森田富作カ賭博現行犯タルコトヲ知テ之ヲ藏匿セシモノトシ刑法第百五十一條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スル旨言渡シ上告期限內上訴スルモノナクシテ該裁判確定シタル處本院檢事長渡邊驥ハ非常上告ヲ爲シタリ其主要ニ云ク原裁判所カ本案ノ事實ニ對シ刑法第百五十一條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ一條ヲ適用セルハ相當ナルモ同條ノ刑ハ十一日以上一年ノ輕禁錮ナルニ重禁錮二月云々ト言渡シタルハ卽チ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡タル不法ノ裁判ナリト依テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ刑法第百五十一條ノ法文ハ犯罪人云々之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタルモノハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ原裁判所ハ該條ニ照據シナカラ却テ二月ノ重禁錮ニ處スト言渡タルハ卽チ治罪法第四百三十五條ニ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡タル不法ノ裁判ナリトス依テ同條ニ則リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第百五十一條ニ照シ一月ノ輕禁錮ニ處シ三圓ノ罰金ヲ附加スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百六十九號

○判文（竊盜ノ件）明治十五年十二月廿五日上告
同　十六年八月廿日申渡

岐阜縣美濃國可兒郡大森村
平民清吉長男農業
古山友彌
明治十五年八月
二十一年六ケ月

竊盜被告事件ニ付明治十五年八月二十三日御嵩治安裁判所ニ於テ岐阜輕罪裁判所カ刑法第三百六十八條同第三百七十六條ニ照シ六月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付ス但自首スト雖モ事發覺後ニ係ルヲ以テ減輕ノ限リニアラスト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部杉山義勝ハ上告セリ其要領ハ被告友彌カ竊盜ハ鎖鑰ナキ雨戸ヲ開キ忍ヒ入リタルモノニテ刑法第三百六十六條ニ該ルヘキ犯者ナルニ原裁判所ハ之ニ刑法第三百六十八條ヲ適施シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人古山友彌ハ檢察官上告ノ趣旨至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ニ（其方ハ村内古山捨七宅奥ノ間棚ノ上ニ差置アル竹行李ノ内ニ金ノ入レアルヲ豫知シ明治十五年八月九日ノ夜右同人宅裏口ノ雨戸ヲ開キ忍ヒ入リ云々）ト其事實ヲ認定シ而シテ刑法第三百六十八條門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若シクハ鎖鑰ヲ開キ云々トアルヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス何ントナレハ其事實ハ前ニ掲クル如ク門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ且人ノ開啓ヲ防クニ足ルヘキ効力ヲ有スル方法ヲ以テ戸締ヲ爲シ置タルヲ開キ忍ヒ入リタルモノニモアラサレハナリ

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十九條ニ依リ附帶私訴ヲ除クノ外原裁判ノ全部ヲ破毀シ直ナニ裁判スル左ノ如シ

古山友彌

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ證憑トニ依リ竊盜ノ罪ヲ犯シ事發覺ノ後自首シタルヿ明白也即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル而シテ自首スルモ既ニ事發覺後ニ係ルヲ以テ刑法第八十五條ヲ適用スヘキ限ニラス因テ被告古山友彌ヲ四月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百七十號

○判文（官吏侮辱ノ件）明治十五年十二月五日上告
同　十六年八月廿一日申渡

新潟縣越後國古志郡長岡船
江町寄留平民
林直治

明治十五年九月
三十五年十一月

被告カ明治十五年九月二十一日長岡輕罪裁判所ニ於テ

九月十九日伊藤源藏ノ辯護人トナリ公廷ニ於テ辯論中〔曖昧ナル證言ヲ以テ犯罪トナシ公訴ヲ求メラレタルハ寃枉ノ甚シキモノト辯護人ハ確信ス〕ト明言セリト雖モ是ヲ以テ直ニ被告直治ハ出庭檢察官ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノト認ムルヲ得スト爲シ無罪ヲ言渡シタル處原裁判所檢事補中原正夫ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ右被告ノ言語ヲ約スレハ即チ檢察官ハ無罪者ヲ故ラニ有罪者ト爲シ公訴ヲ求メ被告ヲ寃枉ニ陷レントノ趣意ニシテ檢察官ヲ侮辱セシ事實瞭然ナル而已ナラス原裁判官於テモ右言語ヲ認メ檢察官ニ對スル不敬ノ申立ト爲シ其辯護ヲ差止メタルニ非スヤ然ルニ其之ヲ處分スルニ無罪ナリトノ判定ヲ下セシハ即チ擬律錯誤ノ裁判ナルニ付之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人直治答辯ノ要旨ハ右言辭タルヤ固ヨリ檢察官ヲ侮辱スルノ惡意アリテ述ヘタルニ非ス畢竟檢察官ノ公訴ハ無辜ノ源藏ヲ寃罪ニ陷ラシムルノ恐アランカトノ思想ヨリ不知不識發シタル語ニシテ源藏罪ナシトノ意ヲ敷演シタルニ過キス故ニ原裁判ハ相當ナリト云フニ在リ玆ニ大審院於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ被告カ伊藤源藏被告事件ノ辯論中〔檢察官ハ如此曖昧ナル證言ヲ以テ犯罪トナシ公訴ヲ求メラレタルハ寃枉ノ甚シキモノト辯護人ハ確信ス〕トノ陳辯ハ甚タ不當ノ言辭ナルヿ固ヨリ論ヲ竢タスト雖モ要スルニ是レ原ト被告人ヲ辯護スルノ熱心ニ出テ必シモ侮辱ノ惡意アリテ然ルト認ムルヲ得ス況ンヤ該件ハ原裁判官ニ於テ爾時既ニ辯護指留ノ處分ニ及ヒ侮辱シタリトノ事實ハ更ニ其認定ナキニ於テオヤ因テ上告ノ旨趣ハ相立タサルモノトシ治罪法第四百二十七條ニ則トリ之レヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

第千百七十一號

○判文〔偽造証書ノ件〕明治十五年十二月十三日上告
同　十六年八月廿一日申渡

福島縣磐城國田村郡小野新町村居住平民農業
渡邊久兵衛
明治十五年八月
三十四歳七月

審判シ被告人ハ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタル者ト判定シ刑法第二百十條第一項ニ依リ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮二月罰金二圓ニ處シ仍ホ刑法第二百十二條ニ從ヒ監視六月ニ付スト言渡シタリ

被告渡邊久兵衛ハ該裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ被告事件ニ係ル金圓預リ証書タルヤ丸山德兵衛ノ氏名ヲ詐冒シ証人ニ相立持合ノ印ヲ押捺シタルモノナリ然レ共其預リ金ハ未タ返濟期限前ニ在テ權利義務ノ因テ起ラサル者ナレハ刑法第二百十條第二項ヲ適用スヘキ者ナリ然ルヲ其第一項ニ依リ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ

對手人檢事井手亨ハ被告人カ偽造シタル証書ハ約定期限ノ如何ヲ問ハス現ニ權利義務ニ關スル証書ニ無効ノ名印ヲ記シ債主ヲ欺キタル一點ヲ以テ刑法第二百十條第一項ニ照シ罰スヘキ犯罪ナレハ原裁判ノ至當ナル旨ヲ答辯セリ